



BERNINA 720

取扱説明書

made to create **BERNINA**

ベルニナユーザーの皆様へ



この度はベルニナミシンをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。ベルニナミシンは、これから長年にわたってあなたの信頼にお応えしていくことでしょうか。当社は100年以上にわたりユーザーの皆様にご満足いただける製品を作り続けてまいりました。精密で完成度が高く、将来を見据えたソーイングテクノロジーに培われて作り出されたスイスのミシンを、行き届いたカスタマーサービスと共にお届けできることを誇りに思っております。

ベルニナ7シリーズは、開発の際に最高級のテクノロジーと使いやすさだけでなく、デザインにもこだわった最新のモデルです。品質だけでなくデザインも重視されるクリエイティブなユーザーの皆様にご満足いただける製品であると自信を持ってお届けいたします。

あなたの新しいBERNINA 720でクリエイティブなソーイングや刺しゅう、キルティングをお楽しみください。また、ホームページ www.bernina.com で、多彩なアクセサリーについての情報や、無料でダウンロードできる作品の作り方などをぜひご覧ください。

経験豊富なベルニナ正規販売代理店が、皆様のアフターサービスを担当いたします。

ユーザーの皆様が新しいベルニナミシンでクリエイティブな時間を楽しんでいただけますよう、心から願っております。

H. P. Welter

H.P. ウェルチ

オーナー

ベルニナインターナショナル株式会社

CH-8266 シュテックボルン

目次

安全にご使用いただくために	9	2.5 糸立て棒	32
重要事項	12	可動式糸立て棒	32
1 マイベルニナ	14	平行糸立て棒	33
1.1 イントロダクション	14	2.6 送り歯	34
1.2 ベルニナの品質管理について	14	送り歯の調整	34
1.3 ベルニナの世界へようこそ	14	2.7 ソーイングテーブル	34
1.4 ミシンについて	15	ソーイングテーブルを取り付ける	34
前面部 操作部分名称	15	2.8 押え金	35
前面部名称	16	押え上げレバーで押え金の位置を変える	35
側面部名称	17	《押え金上/下》ボタンを用いての押え金位置の調整	35
背面図	18	押え金を交換する	35
1.5 付属アクセサリ	19	ユーザーインターフェースで押え金を選択する	35
アクセサリについて	19	押え圧を調節する	36
押え金について	21	2.9 送り歯の調整	36
アクセサリボックス	22	2.10 針と針板	36
1.6 ユーザーインターフェースについて	23	針を交換する	36
機能/表示について	23	ユーザーインターフェースで針を選択する	37
システム設定について	23	針のタイプと番手を選択する	37
ソーイング選択メニューについて	24	針位置 上/下を設定する	37
ソフトウェアの操作	24	針基線 左/右を設定する	38
1.7 針、糸、布地	26	針停止 上/下 (常時) を設定する	38
針について	26	針板を交換する	38
針の種類	28	針板をユーザーインターフェースで選択する	39
糸の選択	28	2.11 糸をかける	39
針と糸の組み合わせ	28	上糸をかける	39
2 ソーイングの準備	29	二本針に糸を通す	42
2.1 初めてミシンをご使用になる前に	29	三本針に糸を通す	42
2.2 アクセサリボックス	29	下糸を巻く	43
アクセサリボックスを立てる	29	下糸をかける	44
アクセサリを保管する	29	下糸残量表示	46
2.3 接続と電源	30	3 セットアッププログラム	47
フットコントローラーを接続する	30	3.1 ソーイング機能の設定	47
ミシンを電源に接続する	30	上糸調子を設定する	47
押え上げレバーを取り付ける	31	ソーイングスピードの最高速度を設定する	47
タッチペンを取り付ける	31	留め縫いを設定する	47
ミシンの電源を入れる	31	押え金の高さを設定する	47
2.4 フットコントローラー	32	《終了パターン》ボタンをプログラムする	48
ソーイングスピードをフットコントローラーでコントロールする	32	糸切りボタンをプログラムする	48
針を上げる/下げる	32	針停止が下の際の押え金の位置を設定する	49
		返し縫いボタンをプログラムする	50
		3.2 刺しゅう機能の設定	50
		上糸調子の設定	50

6.7	トリプルジグザグ縫い	81	9.9	ボタンホール押え#3を使用して、ボタンホールの大きさを決めます	104
6.8	マニュアル式縞い縫い	82	9.10	ボタンホールを自動で縫う	105
6.9	自動縞い縫い	84	9.11	手縫い風ボタンホールをプログラムする	106
6.10	自動補強縞い縫い	84	9.12	7ステップ自動ボタンホールを縫う	106
6.11	布端の処理をする	85	9.13	5ステップ自動ボタンホールを縫う	107
6.12	ダブルオーバーロック	86	9.14	ボタンホールをシームリッパーで切り開く	108
6.13	布端のトップステッチ (小幅)	86	9.15	ボタンホールカッター (オプションアクセサリ) でボタンホールを切り開く	109
6.14	布端のトップステッチ (大幅)	86	9.16	ボタンを縫い付ける	109
6.15	シームガイドを使用したトップステッチ	87	9.17	アイレットを縫う	110
6.16	裾を縫う	87	10	キルティング	111
6.17	まつり縫い	88	10.1	キルトステッチについて	111
6.18	飾りへムステッチ	89	10.2	キルティング用留め縫いプログラム	112
6.19	フラット縫い	89	10.3	手縫い風ステッチを縫う	112
6.20	しつけ縫い	90	10.4	フリーモーションキルティング	113
7	飾りステッチ	91	11	ベルニナステッチレギュレーター(BSR)	114
7.1	飾りステッチについて	91	11.1	BSRモード1	114
7.2	ボビンマジック	92	11.2	BSRモード2	114
7.3	クロスステッチ	93	11.3	BSR機能を直線縫いNo. 1で使用する	114
7.4	ピンタック	93	11.4	BSR機能をジグザグ縫いNo. 2で使用する	114
	ピンタック	93	11.5	キルティングの準備をする	114
	タックフットの概要	94		BSR押えを取り付ける	114
	アクセントヤーンの引き込み	95		押え底を交換する	115
	ピンタックを縫う	96	11.6	BSRモードを使用する	115
8	アルファベット	97	11.7	留め縫い	116
8.1	アルファベットについて	97		BSRモード1で、「スタート/ストップ」ボタンを使用して留め縫いする	116
8.2	文字列を入力する	97		BSRモード2での止め縫い	116
9	ボタンホール	99	12	マイベルニナ刺しゅう	118
9.1	ボタンホール	99	12.1	刺しゅう機について	118
9.2	高さ調節板を使用する	100	12.2	刺しゅう機付属アクセサリ	118
9.3	ボタンホール用布送りサポートを使用する	100		刺しゅう機の付属アクセサリについて	118
9.4	ボタンホールの印をつける	101	12.3	ユーザーインターフェースについて	120
9.5	ボタンホール芯	101		機能/表示について	120
	コード芯を布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aと一緒に使用します	101		システム設定について	120
	ボタンホール芯をボタンホール押え#3と一緒に使用します	102		刺しゅう選択メニューについて	121
9.6	試し縫いをする	103	12.4	刺しゅうについての重要事項	121
9.7	ボタンホールの穴幅を設定する	104		上糸	121
9.8	布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを使用して、ボタンホールの大きさを決めます	104		下糸	121
				刺しゅうモチーフの選択	122

ベルニナUSBメモリーの刺しゅうモチーフを上書きする	151	花	174
ステッチパターンを取り込む	152	キッズ	175
刺しゅうモチーフをユーザーメモリーから呼び出す	152	ボーダーとレース	176
刺しゅうモチーフをベルニナUSBメモリーから呼び出す	153	季節	177
ユーザーメモリーの刺しゅうモチーフを消去する	153	デザインワーク デザイン	178
ベルニナUSBメモリーの刺しゅうモチーフを消去する	153	索引	180
16 刺しゅうをする	154		
16.1 «スタート/ストップ»ボタンを使って刺しゅうをする	154		
16.2 刺しゅうスピードを速くする	154		
16.3 上糸調子を設定する	154		
16.4 フットコントローラーを使って刺しゅうをする ..	155		
17 お手入れとメンテナンス	156		
17.1 ファームウェア	156		
ファームウェアのバージョンを確認する	156		
ファームウェアを更新する	156		
保存したデータを復元する	157		
17.2 ミシン	157		
ディスプレイを掃除する	157		
送り歯を掃除する	157		
釜を掃除する	158		
釜に注油をする	159		
糸くず入れの掃除	160		
18 エラーと故障	161		
18.1 エラー表示	161		
18.2 トラブルシューティング	165		
19 収納と処分	168		
19.1 ミシンを収納する	168		
19.2 ミシンを処分する	168		
20 機械仕様	169		
21 パターンについて	170		
21.1 ステッチパターン一覧	170		
実用ステッチ	170		
ボタンホール	170		
飾りステッチ	170		
キルトステッチ	171		
21.2 刺しゅうモチーフ一覧	172		
刺しゅうモチーフを編集する	172		
キルトモチーフ	172		
飾りステッチ	173		

安全にご使用いただくために

当製品を使用するときは、次の基本的な安全上の注意に従ってください。当製品をご使用になる前に、この取扱説明書をよく読んでください。

危険性

感電防止のため、必ず以下の注意事項にご注意ください。

- ・ ミシンが電源に接続されている間は、絶対にミシンを放置しないでください。
- ・ 使用後すぐ、また清掃前には、ミシンの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

怪我の防止のため、以下の注意事項を厳守してください。

- ・ スイッチが入った状態のLEDランプを光学機器（拡大鏡など）で直接見えてはいけません。
- ・ LEDランプの破損、欠陥等がある場合は、最寄りのベルニナ販売店でLEDランプの点検または修理を受けてください。
- ・ 針周りの作業を行う前に、ミシンのスイッチを切ってください。
- ・ ミシンを起動する前に、カバーをすべて閉じてください。

警告

火傷、火災、感電、人身事故を防ぐため、以下の注意事項を厳守してください。

一般事項

- ・ 本製品は、本取扱説明書に記載された目的以外では使用しないでください。

使用環境

- ・ 本製品は屋外で使用しないでください。
- ・ 本製品は乾燥した室内でのみご使用ください。
- ・ 本製品は湿気のある場所では使用しないでください。
- ・ プロペラントガス製品（スプレー）を使用している室内で、本製品を使用しないでください。
- ・ 酸素を使用している室内で、本製品を使用しないでください。

技術的条件

- ・ 本製品は、湿気のある条件下では絶対に使用しないでください。
- ・ 本製品が正常に動作していない場合は、本製品を使用しないでください。
- ・ ケーブルやプラグが損傷している場合は、本製品を使用しないでください。
- ・ 本製品を落としたり、破損したり、水に落としたりした場合は、本製品を使用しないでください。

- ・ 本製品が破損したり、正常に動作しない場合は、最寄りのベルニナ販売店で本製品の点検または修理を受けてください。
- ・ 本製品のすべての通気孔とフットコントローラーに糸くずやほこり、布地のごみが付いていないようにしてください。
- ・ 通気孔が塞がっている場合は、本製品を使用しないでください。

アクセサリ・消耗品

- ・ ベルニナ社がお勧めするアクセサリのみをご使用ください。
- ・ 必ず純正の BERNINA 針板を使用してください。
不適切な針板を用いると、針折れの原因になります。
- ・ 品質の高い直針のみを使用してください。
曲がった針や破損した針は、針折れの原因となります。
- ・ 本製品は二重絶縁されています（アメリカ、カナダ、日本を除く）。
純正のスペアパーツのみを使用してください。二重絶縁された製品のメンテナンスに関する注意事項を守ってください。
- ・ 本製品の潤滑油としては、BERNINA 推奨のオイルのみをご使用ください。

保護装置

- ・ 本製品の使用中は、すべての保護部品を装着し、すべてのカバーを閉じておいてください。

適切な使用

- ・ 本製品は、8歳以上のお子様、身体的、感覚的、精神的能力が低下している方、または経験や知識が不足している方にご使用、清掃、メンテナンスを行っていただくことが可能です。
- ・ このような方は、本機を使用する際に監督を受ける、または本製品の安全な使用方法とそれに伴う危険性について認識していることが必要となります。
- ・ ミシンはお子様の手の届かないところへ保管してください。
- ・ 本製品をお子様を使用される場合や、お子様がいらっしゃる場面で使用される場合には、特に注意が必要です。
- ・ 本製品に付属の電源コード以外は使用しないでください。
- ・ アメリカ合衆国およびカナダ用の電源コード（NEMA 1-15型プラグ）は対地電圧150V以下でご使用ください。
- ・ 本製品に付属のフットコントローラー型式 LV-1 以外は使用しないでください。
- ・ ミシンの隙間からものを差し込んだりしないでください。
- ・ フットコントローラーの上に物を置かないでください。
- ・ 縫製中は徐々に布地を動かすようにしてください。
布地を引っ張ったり押したりすると、針が折れる場合があります。
- ・ ミシンの可動部分に触らないようご注意ください。
- ・ 針周辺については特にご注意ください。
- ・ 針に糸を通す、針を交換する、釜に糸を通す、押え金を交換するなど、針周りの作業を行う際には、ミシンのスイッチを切ってください。
- ・ スイッチを切るには、メインスイッチを「0」にします。

重要事項

取扱説明書について

取扱説明書はミシンの一部です。

- ・ 取扱説明書はミシンと一緒に保存し、ミシンを使用する際には常に読めるようにしてください。
- ・ ミシンを第三者に譲渡する場合には、必ず取扱説明書を添えてください。
- ・ 最新版の取扱説明書は www.bernina.com からダウンロードできます。

使用目的について

ご使用のBERNINAミシンは、ご家庭での私的利用を目的として設計されています。取扱説明書に記載されている素材、生地へのソーイングに使用してください。その他の使用方法は当ミシンの使用目的に適用されず、それにより生じた損害において、ベルニナはその責を一切負いません。


装備と納品範囲

このマニュアルでは、説明のためにサンプル画像が使われています。図に表示されたミシンと付属品はミシンの実際の納品範囲と必ずしも一致しません。付属のアクセサリーの仕様は国により異なります。納品範囲に含まれない言及または表示された付属品は、オプションアクセサリーとしてBERNINA販売代理店で入手できます。付属品の詳細は、www.bernina.comをご参照ください。

技術的理由並びに製品改善の目的で、機械の装備と納入範囲に関する変更は、いつでも事前の通知なしに行われる可能性があります。

二重絶縁構造の製品のメンテナンスについて

二重絶縁構造の製品には、アースをとる方法の代わりに、二種類の絶縁方法が採用されています。二重絶縁構造の製品にはアースはなく、また取り付ける必要もありません。二重絶縁構造の製品のメンテナンスには細心の注意と豊富な知識が必要です。資格のある専門の方のみが行ってください。メンテナンス・修理の際には純正部品のみを使用してください。製品には「二重絶縁」または「二重絶縁構造」と表示されています。

 二重絶縁構造の製品にはこの表示がされています。

環境保護について

ベルニナインターナショナル株式会社は環境保護に準拠することを宣言しています。私達は製品の製造に当たって、製品デザインの改良、技術革新などによって製品が環境に与える影響を最小限にする努力を常に行っております。



ミシンにはゴミ箱マークが記載されています。つまり、処分することとなった場合には、家庭ごみといっしょに処分しないでください。電化製品を不適切な方法で廃棄すると、有害物質が流出することがあり、それが地下水を汚染し、食物連鎖によってやがて自分自身の健康を害することになります。

当製品が不要になった場合には、お住まいの地域のルールに従って処分、リサイクルをしていただけてますようお願い申し上げます。詳しい処分方法につきましては、お住まいの市町村にお尋ねください。新しいミシンをお求めの際には、販売店で古いミシンを回収している場合もありますので、お尋ねください。

ミシンを処分される際には、あらかじめユーザーデータを消去してから処分してください。

1 マイベルニナ

1.1 イントロダクション

BERNINA 720 があれば、縫製、刺しゅう、キルティングの作業が可能になります。シルクやサテンのような薄地から、麻、フリースそしてデニムなどの厚地まで、さまざまな布地を縫うことができます。多彩な実用縫いステッチ、飾りステッチ、ボタンホールや刺しゅうモチーフが搭載されています。

本製品は、本取扱説明書に加えて3つのサポートツールを備えており、BERNINA 720 のご利用の際には、詳細情報やサポートをいつでもご覧いただけます。

チュートリアルでは、ソーイングや刺しゅう、およびさまざまなステッチに関する情報や説明を見ることができます。

ソーイングアドバイザー は、縫製制作における意思決定をサポートします。布地と縫いたいものを入力すると、適した針とそれに合う押え金などの提案が表示されます。

ヘルププログラムでは、ユーザーインターフェース上で、すべてのステッチパターンや機能、使用方法についての情報を見ることができます。

その他の情報について

取扱説明書では、この他にもご使用のBERNINA 720についての製品情報を記載しています。

取扱説明書の最新バージョンとミシンやアクセサリに関するその他の情報は弊社ウェブサイト <https://www.bernina.com>からご覧ください。

1.2 ベルニナの品質管理について

全てのベルニナミシンは、細心の注意を払って製造しており、様々な機能の検査を実施しています。製品検査の工程でソーイングのテストをするため、内蔵のステッチカウンターはすでに数ステッチをカウントしています。製品検査の後、ミシンのクリーニングを行っていますが、まれに糸くずなどが残ってしまう場合があります。

1.3 ベルニナの世界へようこそ

ベルニナのスローガンはMade to createです。ミシンだけではなく、私たち自身もあなたのアイデアを形にするお手伝いをします。下記のオファーに加えて、お客様の今後のプロジェクトのために多くの提案や指示、および他のソーイングやキルティング、刺しゅうの愛好家とアイデアを交換する機会も提供しています。ぜひご利用ください。

BERNINA YouTubeチャンネル

YouTubeでは、多数の使用法のビデオや、ミシンの重要な機能についてのサポートを提供しています。あなたのプロジェクトがうまく完成するよう、多数の押え金についても詳しい説明が見つかります。

<https://www.youtube.com/BerninaInternational>

英語、ドイツ語。

インスピレーション – オンラインのソーイングマガジン

次の作品のアイデアやパターン、作り方をお探ですか？ベルニナマガジン《インスピレーション》は、まさにあなたにうってつけです。《インスピレーション》は、ソーイング、刺しゅうの素晴らしいアイデアを、年に3回提供します。その季節ごとにトレンドのファッションやアクセサリ、また実用的なヒントから、独創的なホームデコレーション、および子ども用のかわいいソーイングアイデアまで幅広くご紹介します。

ソーイングマガジンは英語、ドイツ語、オランダ語、フランス語で発行されています。

弊社オンラインショップにて、《インスピレーション》のEメールマガジンか冊子を購入できます。単独購入または定期購読も可能です。それに加えてたくさんのダウンロード可能なソーイングパターンを見つけることができますよ！次のURLをご覧ください <https://www.bernina.com/inspiration>

BERNINA ブログ

詳細な取扱説明書、無料の刺しゅうモチーフ、刺しゅうテンプレート、その他豊富なアイデアがベルニナのブログで毎週更新されています。私たちのエキスパートが役に立つコツなどをわかりやすく説明します。コミュニティでは、自分のプロジェクトをアップロードして、他のソーイング、キルティング、刺しゅう愛好家たちとアイデアの交換ができます。

<https://www.bernina.com/blog>
英語、ドイツ語、オランダ語。

BERNINAソーシャルメディア

ソーシャルネットワークでフォローし、イベントやエキサイティングなプロジェクト、そしてソーイングやキルティング、刺しゅうについてのヒントとコツをもっと学びましょう。またベルニナの様々な最新情報をお伝えしていきます。

<https://www.bernina.com/social-media>

1.4 ミシンについて

前面部 操作部分名称



- | | | | |
|---|-------------|---|------------|
| 1 | 《返し縫い》 | 6 | 《針 上/下》 |
| 2 | 《糸切り》 | 7 | 《多機能ボタン 上》 |
| 3 | 《押え金 上/下》 | 8 | 《多機能ボタン 下》 |
| 4 | 《スタート/ストップ》 | 9 | 《針 左/右》 |
| 5 | 《模様終わり》 | | |

前面部名称



- | | | | |
|---|------------------|----|--------------|
| 1 | 刺しゅう機接続部 | 7 | スピードコントローラー |
| 2 | 釜カバー | 8 | 天秤保護カバー |
| 3 | アクセサリ取付部 (オプション) | 9 | 天秤 |
| 4 | 押え金 | 10 | 針止めネジ |
| 5 | 糸通し | 11 | ソーイングテーブル取付部 |
| 6 | ソーイングライト | 12 | 押え上げレバー取付部 |

側面部名称



- | | | | |
|---|----------------|----|------------------|
| 1 | フットコントローラー接続部 | 7 | 電源 |
| 2 | PC接続部 | 8 | 電源コード用ソケット |
| 3 | 糸立て棒 | 9 | タッチペン用マグネット式ホルダー |
| 4 | 糸切り付き糸巻き装置スイッチ | 10 | 通気溝 |
| 5 | 可動式糸立て棒 | 11 | USB接続部 |
| 6 | はずみ車 | 12 | 送り歯 上/下 |

背面図



- 1 ソーイングテーブル取付部
- 2 繕い縫いアタッチメント取付部
- 3 BSR接続部
- 4 アクセサリー取付部 (オプション)
- 5 通気溝
- 6 糸ガイド
- 7 下糸巻き装置

- 8 キャリングハンドル
- 9 ボビン巻き取り器プリテンショナー
- 10 天秤
- 11 糸ガイド
- 12 糸切り
- 13 送り歯
- 14 針板

1.5 付属アクセサリー アクセサリーについて

図	名称	用途
	保護カバー	ほこりや汚れからミシンを保護します。
	ベルニナアクセサリーボックス	付属アクセサリーおよびオプションアクセサリーを保管します。
	押え上げレバー／フリーハンドシステム(FHS)	押え金を上げ下げすることができます。
	ソーイングテーブル	作業スペースの拡大に。
	カットワーク／直線縫い用針板	直線縫いおよびカットワークに。
	糸こま押さえ	糸こまから均等な糸送りができます。
	B9釜のポビン 5つ	下糸を巻く為のアクセサリーです。
	糸こまクッション 2つ	糸こまクッションは、糸巻きの糸がズレたり、もつれたり、切れたりするのを防ぎます。
	タッチペン	タッチディスプレイの正確な操作に。

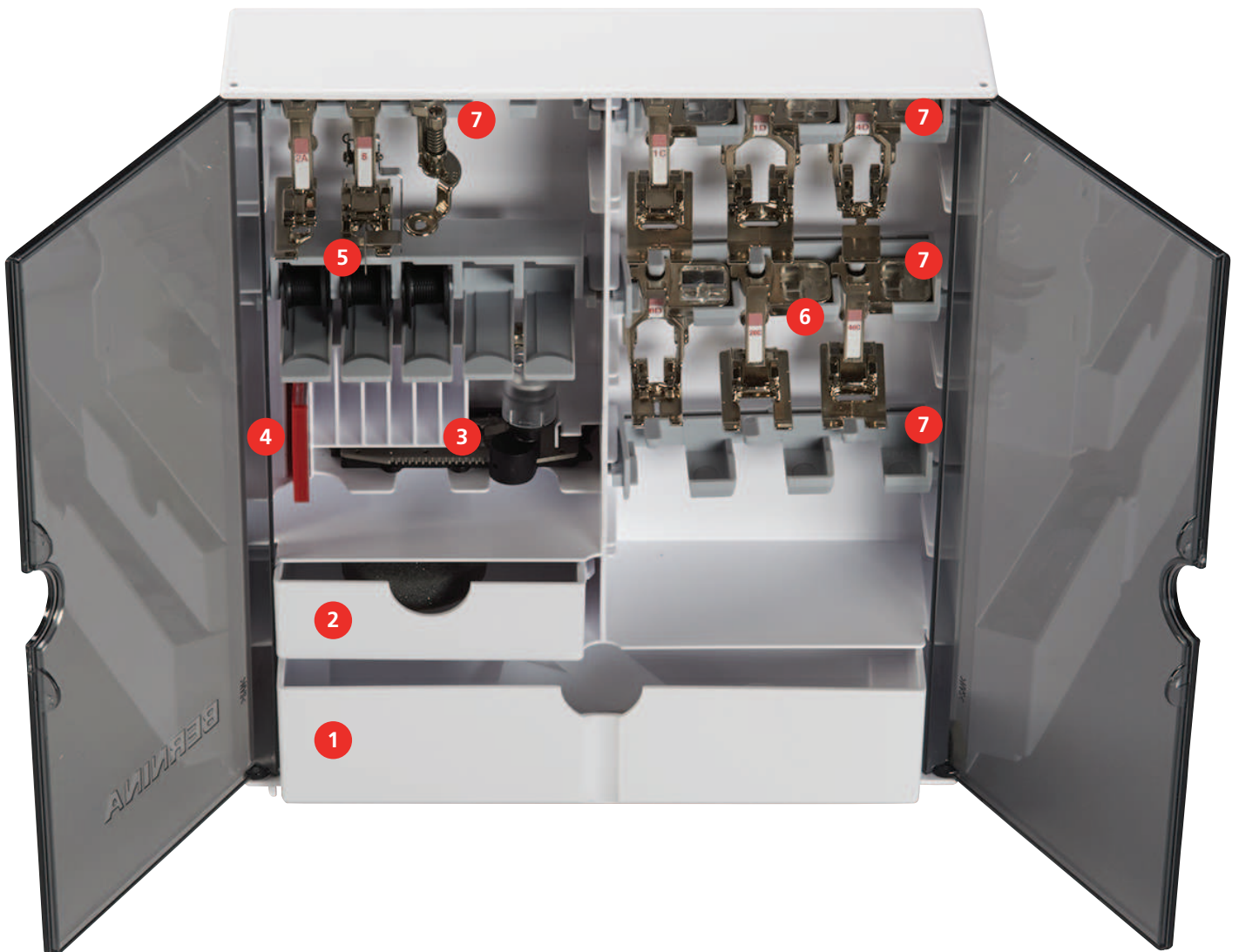
図	名称	用途
	シームリッパー	縫い目を解いたり、ボタンホールを作る際に使用します。
	高さ調節板	布地の厚みの差を補い、押え金が斜めになるの防ぎ、布の動きをスムーズにします。
	針セット	全ての用途に。
	キルターガイド 右	ステッチの間隔を等間隔に維持することができます。
	灰色のトルクスドライバー	針を交換する際に。
	赤色の小型ドライバー（マイナス）	マイナスネジ用ドライバー。
	L型レンチ トルクスドライバー	トップカバーを開ける際に使用します。
	ブラシ／針止め器	送り歯や釜周辺を掃除する際に使用します。
	ミシン油	ミシン注油のため
	電源コード	ミシンと電源を接続します。
	フットコントローラー	ミシンをスタート、ストップさせます。 ミシンのスピードをコントロールします。

押え金について

付属の標準押え

図	番号	名称	用途	例
	#1	標準押え	様々な実用および飾りステッチに。 前進および後進縫いに。	
	#3A	布ガイド付き自動ボタンホール押え	ボタンホールの自動縫製に	
	#4	ファスナー押え	ファスナーの縫い付けに。	
	#8	ジーンズ押え	ジーンズ地を縫う際に。	
	#20	オープン刺しゅう押え	アップリケおよび飾りモチーフを縫う際に。	

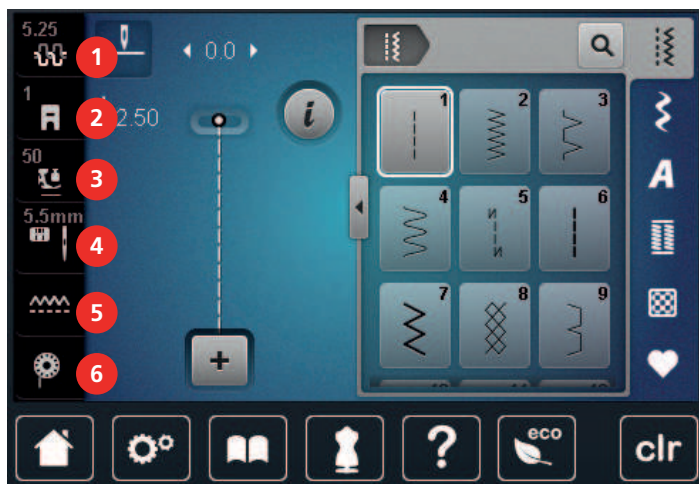
アクセサリボックス



- | | | | |
|---|------------------|---|-----------------|
| 1 | 引出し 大 | 5 | ボビンホルダー |
| 2 | 引出し 小 | 6 | 押え金 |
| 3 | 布ガイド付き自動ボタンホール押え | 7 | 5.5 mmの押え金用ホルダー |
| 4 | 標準針セット | | |

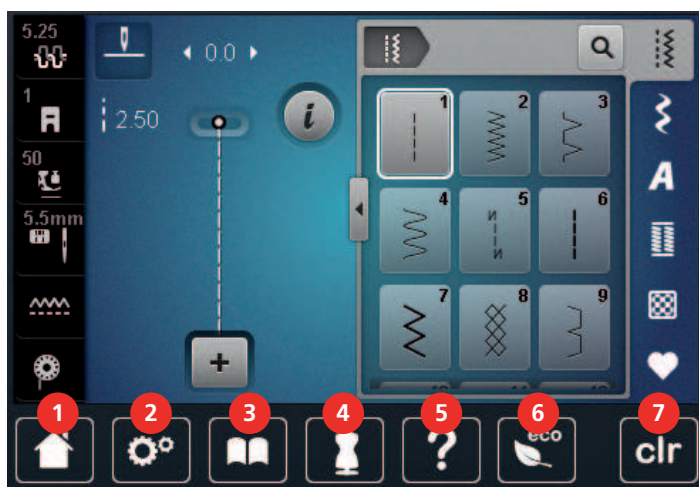
1.6 ユーザーインターフェースについて

機能／表示について



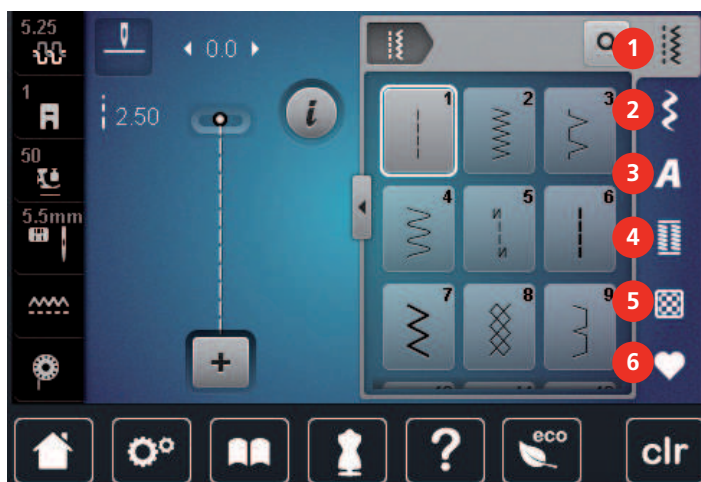
- | | | | |
|---|---------------|---|-----------|
| 1 | 《上糸調子》 | 4 | 《針板／針選択》 |
| 2 | 《押え金表示／押え金選択》 | 5 | 《送り歯 上／下》 |
| 3 | 《押え金圧力》 | 6 | 《下糸》 |

システム設定について



- | | | | |
|---|---------------|---|----------|
| 1 | 《ホーム》 | 5 | 《ヘルプ》 |
| 2 | 《セットアッププログラム》 | 6 | 《エコモード》 |
| 3 | 《チュートリアル》 | 7 | 《設定をクリア》 |
| 4 | 《ソーイングアドバイザー》 | | |

ソーイング選択メニューについて



- | | | | |
|---|-----------|---|--------------|
| 1 | 《実用縫い》 | 4 | 《ボタンホール》 |
| 2 | 《飾りステッチ》 | 5 | 《キルトステッチ》 |
| 3 | 《アルファベット》 | 6 | 《パーソナルプログラム》 |

ソフトウェアの操作







タッチ画面は指または入力棒を使って操作可能です。

タップ 要素を短くタッチします。



スワイプ：アイコンに触れてそのまま素早く画面を滑らせるようにします。

スクロール 画面をタッチし、ゆっくりと一定方向に動かします。例えば上下にスクロールすることができます。


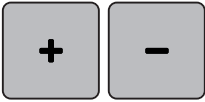
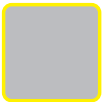
ナビゲーション

図	名称	用途
	《ホーム》	「ホーム画面」と「ソーイング画面」とを切り替えます。
	ナビゲーション・パス	前のメニューレベルを表示します。
	《閉じる》	ウィンドウを閉じます。
	その他	その他の機能や情報を表示します。
	次へ	通知を次へスクロールします。
	戻る	通知を前へスクロールします。

機能のアクティブ化/非アクティブ化

図	エレメント	ステータス
	スイッチ	機能はアクティブ化されました。
		機能は非アクティブ化されました。
	アイコン	機能は非アクティブ化されました。
		機能はアクティブ化されました。

値の調整

図	名称	用途
	スライダー	コントローラーで値を調整します。 小さな点をタップして、値を基本値にリセットします。
	アイコン«プラス» / «マイナス»	値は«プラス»で増加し、「マイナス»で減少します。
	黄色のフレーム	設定値がデフォルト値と異なることを示します。 タップして値を基準値にリセットします。

テキストと数字の入力

数値とテキストの入力用に、対応するキーボードが表示されます。








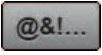


図	名称	用途
	入力フィールド	入力値を表示します。 タップして、入力されたすべての文字を削除します。
	«消去»	最後の文字を消去します。

図	名称	用途
	«小文字»	使用可能なアルファベットを小文字で表示します。
	«大文字»	使用可能なアルファベットを大文字で表示します。
	«数字および数学記号»	使用可能な数字と数学記号を表示します。
	«特殊文字»	使用可能な特殊文字を表示します。
	«決定»	入力を確定し、サブメニューを終了します。
	«キャンセル»	入力をキャンセルし、ビューウィンドウを閉じます。

1.7 針、糸、布地

時間の経過とともに、針は摩耗します。そのため、定期的に変換する必要があります。美しい縫い目を作るには、完璧な針先が必要です。一般的には、生地が薄ければ薄いほど、針も細くする必要があります。ここに掲載されている針は、ミシンによって標準またはオプションの付属品となります。

- ・ 針サイズ 70、75：薄手の布地に適しています。
- ・ 針サイズ 80、90：中程度の厚さの布地に適しています。
- ・ 針サイズ 100、110、120：厚手の布地に適しています。

針について


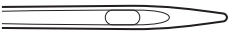
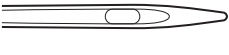
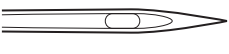
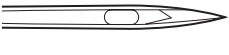
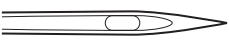
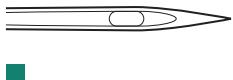
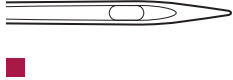
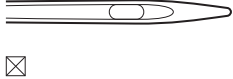
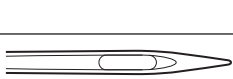






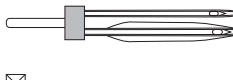
図	針の名称	針の特徴	用途
 ☒	標準針 130/705 H 60-120	針先は少し丸みを帯びている	ほぼ全ての天然および合成繊維（織地およびニット、編地）に。
 ■	ストレッチ針 130/705 H-S 75、90	中ボールポイント、特殊な針孔とえぐり	ジャージー、トリコット、ニットおよびストレッチ素材に。
 ■	ジャージー用針/刺しゅう針 130/705 H SUK 60-100	中ボールポイント	編地およびニットに。 刺しゅうに。
 ■	ジーンズ用針 130/705 H-J 80-110	針先は鋭く細く、シャフトは補強されている	ジーンズや帆布などの厚地に。
 ■	皮革用針 130/705 H LR 90、100	カッティングポイント (LR=斜めに傾いたステッチ)	全ての皮、ビニール、合成皮革、プラスチック素材およびフェイブル地に。
 ■	マイクロテックス用針 130/705 H-M 60-110	針先は特に鋭く細い	マイクロファイバー地やシルクに。

図	針の名称	針の特徴	用途
	キルティング針 130/705 H-Q 75、90	針先は少し丸みを帯び、細い	直線縫いやトップステッチに。
	刺しゅう針 130/705 H-E 75、90	小ボールポイント、特に大きな針孔と幅の広い溝が特徴	全ての天然繊維および合成繊維での刺しゅうに。
	薄地用針 130/705 H SES 70、90	小ボールポイント	薄い編地およびニットに。 薄地、デリケートな布地への刺しゅうに。
	金属糸用針 130/705 H METAFIL 80	大きな針孔(2 mm)、全番手	メタリック糸を使用したソーイングおよび刺しゅうに。
	補修用針 130/705 H-N 70-100	大きな針孔(2 mm)、全番手	太い糸を使っでのトップステッチに。
	フェルティング用針 PUNCH	逆さ鉤の付いた針	フェルティングに。
	縁飾り縫い用針 130/705 H WING 100-120	シャフトが羽のような形の幅の広い針	縁の飾り縫いに。
	標準二本針 130/705 H ZWI 70-100	針の幅： 1.0/1.6/2.0/2.5/ 3.0/4.0/6.0/8.0	ストレッチ素材の裾やピントック、飾り縫いに。
	ストレッチ素材用二本針 130/705 H-S ZWI 75	針の幅：2.5/4.0	ストレッチ素材の裾やピントック、飾り縫いに。
	ヘムステッチ用二本針 130/705 H ZWIHO 100	針の幅：2.5	ヘムステッチ刺しゅうの特殊効果に。
	標準三本針 130/705 H DRI 80	針の幅：3.0	ストレッチ素材の裾や飾り縫いに。

針の種類

家庭用ミシンで使われる130/705システムの針について、以下のジャージー／ストレッチ針の図を例に挙げて説明します。

	<p>130/705 H-S/70</p> <p>130 = 針の柄の長さ(1)</p> <p>705 = 針の柄の後部が平らになっている(2)</p> <p>H = 糸穴(3)</p> <p>S = 針先の形状 (この例では中程度のボールポイント) (4)</p> <p>70 = 針の番手 (柄の太さ) 0.7 mm (5)</p>
--	---

糸の選択

仕上がりをよりよくするためには、針、糸および布地の質が重要です。

よりよい作品を作っていただくために、高品質な糸を使用されることをお勧めします。

- ・ コットン糸（木綿糸）は天然繊維を使用した糸で、綿素材の布地を縫う際に最適です。
- ・ シルケット加工されているコットン糸は、軽く光沢があり、洗濯をしても変わりません。
- ・ ポリエステル糸は耐久性が高く、特に色あせない性質を持っています。
- ・ ポリエステル糸はコットン糸より伸縮性があり、強度や伸縮性が必要な作品に適しています。
- ・ レーヨン／ビスコース糸は天然繊維を使った、非常に光沢のある糸です。
- ・ レーヨン／ビスコース糸は飾り縫いに適していて、仕上がりが美しくなります。

針と糸の組み合わせ

	<p>ソーイングの際に、糸が針の溝と糸穴を緩過ぎず、きつ過ぎず、すっと通れば、正しい糸と針の組み合わせになり、最適な縫い目で縫うことができます。適正に縫うことができます。</p>
	<p>糸が細すぎると、溝と糸穴の中で糸が不安定になり、糸が切れたり、縫い目が乱れたりします。</p>
	<p>糸が太すぎると、糸が溝の端とすれたり、糸穴を滑らかに通らないので、糸が切れたり、絡んだりします。</p>

2 ソーイングの準備

2.1 初めてミシンをご使用になる前に



ベルニナでは、初めて機械を使用する前や長期間使用しなかった後には、釜にオイルを塗ることをお勧めしています。(参照ページ: 156)

釜にオイルを塗ることで、釜部での不要なノイズの発生を防ぐことができます。

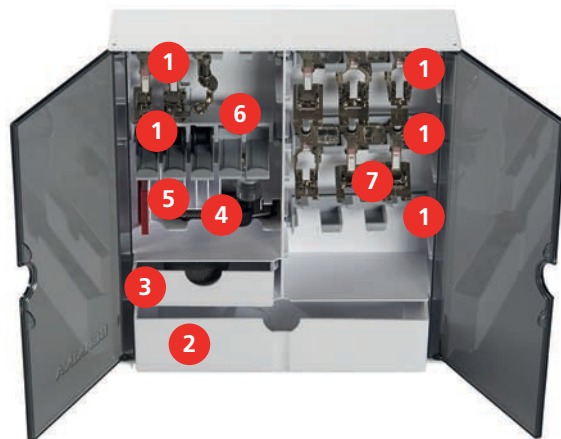
2.2 アクセサリーボックス

アクセサリーボックスを立てる

> アクセサリーボックスの後ろにある2つのついたてを完全に引き出します。



アクセサリを保管する



- > (1)には、ボビン、押え金および針を収納します。
- > 糸こま押えなどの小さなアクセサリは、(2)または(3)の引き出しに収納します。
- > 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを収納部(4)に格納します。
- > 付属の針セットは、(5)に保管します。

注意

ボビンのセンサー面に傷がついている

ボビン糸モニターの誤作動。ボビンのセンサー面に傷や汚れがあると、ボビン糸モニターは糸量不足を検知できなくなります。

> ボビンは必ず銀色のセンサー面を右にした状態で、ボビンホルダーに挿入してください。

- > ボビンは、銀色のセンサー部分が右側にくるように (6) に入れます。
- > ボビンを取り出すには、スプリングボタンを押し下げます。
- > 押え金は、(7) のホルダー (5.5mm) に収納します。

2.3 接続と電源

フットコントローラーを接続する

フットコントローラーのコードは、下側に巻き込まれています。

- > フットコントローラーのコードを必要な長さに伸ばし、フットコントローラーのコードホルダーに固定します。



- > コードのプラグをミシンのフットコントローラー用ソケットに差し込みます。



- > フットコントローラーをテーブルの下に設置します。
- > コードが長すぎる場合は、余分な長さを巻き取ってフットコントローラーのコードホルダーに固定してください。

ミシンを電源に接続する

本機を安全にお使いいただくため、付属の電源コードをご使用ください。付属の電源コードは、使用する国の電圧範囲に合わせて設計されています。本機を原産国以外の国で使用する場合は、その国に適した電源コードをベルニナの販売店から入手する必要があります。

アメリカおよびカナダ用の電源コードのプラグは有極プラグです（片方の端子の幅がもう片方より広がっています）。感電のリスクを低くするために、プラグはコンセントに正しく差し込んでください。電源プラグがコンセントに合わない場合は、電源プラグを逆さにして差し込んでください。逆さにしても電源プラグが入らない場合は、電気技師に適切なコンセントを設置してもらする必要があります。絶対にプラグを改造しないでください。

- > ケーブルの接続プラグを本機のコード接続口に差し込みます。



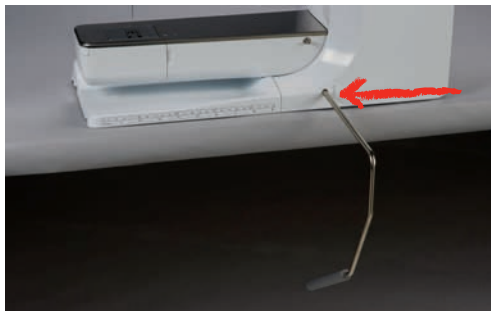
- > ケーブルのもう一方の端のプラグをコンセントに差し込みます。

押え上げレバーを取り付ける



押え上げレバーの角度は、使いやすさに合わせて、ベルニナミシン専門店では調節することができます。

- > 押え上げレバーをミシン前面の取り付け穴に差し込みます。
- > 椅子の高さを押え上げレバーを膝で動かせる位置に調節します。



タッチペンを取り付ける

- > タッチペンをマグネット式ホルダーに取り付けます。



ミシンの電源を入れる

- > メインスイッチを「I」にします。



2.4 フットコントローラー

ソーイングスピードをフットコントローラーでコントロールする

フットコントローラーで、スピードを連続的に調節することができます。

- > スタートさせるには、フットコントローラーをゆっくりと踏み込みます。
- > 速く縫いたいときは、フットコントローラーを深く踏み込みます。
- > ミシンを止めるには、フットコントローラーを離します。



針を上げる／下げる

- > 針を上／下に配置するには、フットコントローラーをかかとで下に踏み込みます。



2.5 糸立て棒

可動式糸立て棒

糸立て棒を立てる



メタリック糸またはその他の特殊な糸を使用する場合には、糸こまホルダーを使用することをお勧めします。

折りたたみ式糸立て棒は、二本針でのソーイングの際や、ソーイングの途中に下糸を巻く際に使用します。

- > 糸立て棒を上まで完全に上げます。



糸こまクッションと糸こまを取り付ける

糸こまクッションは、糸が糸立て棒に絡まるのを防ぎます。

- > 糸こまクッションを、折りたたみ式糸立て棒に取り付けます。
- > 糸こまを糸立て棒に取り付けます。



平行糸立て棒

糸こまクッション、糸こま、糸こま押えを取り付ける

糸こま押えを使用すると、糸こまから均等な糸送りができます。糸こま押えは平行糸立て棒でのみ使用します。

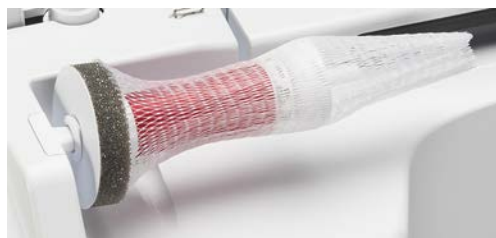
- > 糸こまクッションを糸立て棒に取り付けます。
- > 糸こまを糸立て棒に取り付けます。
- > 糸こま押えと糸こまの間に隙間が開かないように、ぴったり合った糸こま押えを取り付けます。



糸こまネットを使用する

糸こまネットは、糸を糸こまに押え付け、糸がよれたり切れたりするのを防止します。糸こまネットは平行糸立て棒でのみ使用します。

- > 糸こまネットを糸こまの上にかぶせます。



2.6 送り歯

送り歯の調整

- > 送り歯を下げるには、「送り歯 上/下」ボタンを押します。



- > 送り歯を上げるには、「送り歯 上/下」ボタンをもう一度押します。

2.7 ソーイングテーブル

ソーイングテーブルを取り付ける

フリーアームに取り付けられたスライドテーブルで、既存の縫製エリアをさらに広げることができます。

- > 針を上げます。
- > 押え金を上げます。
- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > スライドテーブルを、フリーアームの上に左から右へ、ロックされるまでスライドさせます。



- > ソーイングテーブルのボタンを押して左にスライドさせると、ソーイングテーブルが外れます。



2.8 押え金

押え上げレバーで押え金の位置を変える

- > 押え上げレバーをひざで操作できるように、いすなどの高さを調節してください。
- > 押え上げレバーを右に押すと、押え金が上がります。



- 同時に送り歯が下がり、糸のテンションが緩みます。
- > 押え上げレバーからゆっくりとひざを離すと、押え金が下がります。

《押え金上/下》ボタンを用いての押え金位置の調整



- > 押え金を上げるには、《押え金 上/下》ボタンを押します。
- > 押え金を下げるには、《押え金 上/下》ボタンをもう一度押します。

押え金を交換する

- > 針を上に戻します。
- > 押え金を上げます。
- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > 取り付けレバーを上押し上げます。



- > 押え金を取り外します。
- > 取り付けたい押え金を下から差し込みます。
- > 取り付けレバーを下に下げます。

ユーザーインターフェースで押え金を選択する

選択したステッチごとに、推奨される押え金と使用できるその他の押え金が表示されます。

前提条件：

- ・ 本機の電源が入っています。
- > ステッチパターンを選択します。
 - 推奨される押え金が番号と共に《押え金表示/押え金選択》フィールドに表示されます。
- > 《押え金表示/押え金選択》をタップします。
- > オプションの押え金を表示するには、押え金のフィールドを上 swipe します。



- > 1つの押え金をタップすると、その押え金の説明と使用方法が表示されます。



押え圧を調節する



押え圧は、押え金が布地の厚さに合わせ、最適に布地を押える圧力のことです。厚地の場合には押え圧を弱めます。こうすることで、押え金が軽い力で上に上がり、布送りがスムーズになります。薄地の場合には、押え圧を強めることで、布地がずれるのを防ぐことができます。



- > «押え金圧力»をタップします。
- > 押え金圧を設定します。

2.9 送り歯の調整



- > «送り歯 上/下»をタップします。
- > 表示された図に応じて、送り歯が上下します。

2.10 針と針板

針を交換する

- > 針を上に戻します。
- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > 押え金を取り外します。
- > 針止めネジを灰色のトルクスドライバーで緩めます。



- > 針を下に引っ張ります。
- > 新しい針を平らな面を後ろ側にして持ちます。
- > 針を上までしっかりと差し込みます。
- > 針止めネジを灰色のトルクスドライバーで締めます。

ユーザーインターフェースで針を選択する

針を交換した後、その針が選択した針板に適しているかどうかを確認します。

> «針板／針選択»をタップします。



> 取り付けた針を選択します。

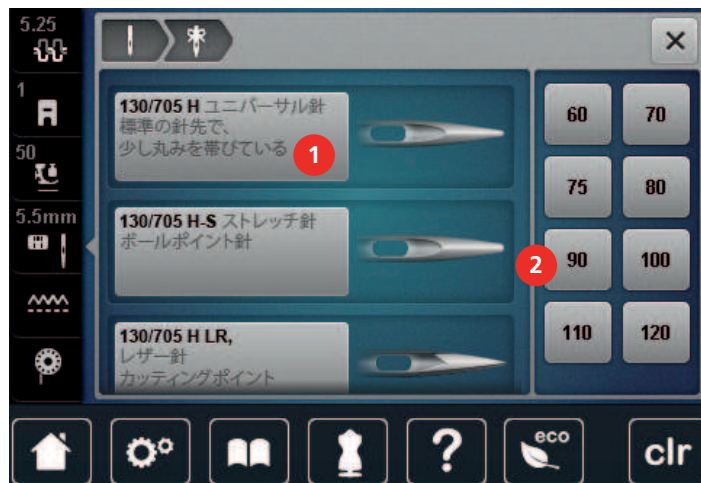
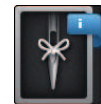
針のタイプと番手を選択する

実用的なメモリー機能：情報が失われないように、針の種類と針のサイズをミシンに保存することも可能です。これにより、保存された針の種類と針のサイズをいつでも確認することができます。

> «針板／針選択»をタップします。



> «針の選択»をタップします。



> 装着する針の種類 (1) を選択してください。

> 装着する針のサイズ (2) を選択してください。

針位置 上／下を設定する

> 針を下げるには、「針 上／下」ボタンを押します。

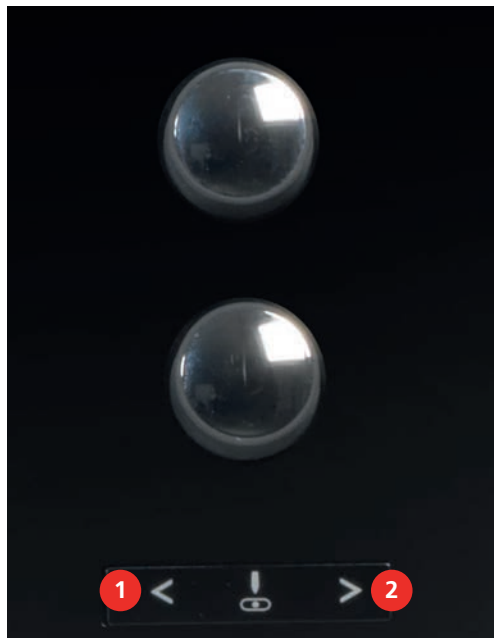
> 針を上げるには、もう一度«針 上／下» ボタンを押してください。



針基線 左／右を設定する

針の位置は全部で11か所あります。針の位置はディスプレイ上に針位置番号で表示されます。

- > ボタン (1) «針 左» を押すと、針の位置が左に移動します。
- > ボタン (2) «針 右» を押すと、針の位置が右に移動します。



針停止 上／下（常時）を設定する



- > 針の停止位置を常時設定しておくには、「針停止 上／下」をタップします。
 - フットコントローラーを離すか、「スタート／ストップ」ボタンを押すと、ミシンは針位置を下げた状態で停止します。
- > «針停止 上／下」をもう一度タップします。
 - フットコントローラーを離すか、「スタート／ストップ」ボタンを押すと、ミシンは針位置を上げた状態で停止します。

針板を交換する

針板には、縦方向、横方向、斜め方向のマーキングがミリメートル (mm) とインチ (inch) で表示されています。これらのマーキングは布ガイドとして、また正確なトップステッチをする際に便利です。

前提条件：

- ・ 送り歯を下げます。
 - ・ ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
 - ・ 針と押え金を外します。
- > 針板の右上の印を押して、針板を浮かせます。



- > 針板を取り外します。
- > 針板の穴をそれぞれの突起部分に合わせ、しっかりとまるまで下に押し込みます。

針板をユーザーインターフェースで選択する

針板を交換した後、その針板が選択した針に適しているかどうかを確認します。

- > «針板／針選択»をタップします。
- > 先に装着した針板を選択します。



- 選択した針板と針との組み合わせが適切であれば、縫製を開始することができます。
- 選択した針板が針との組み合わせに適していない場合、エラーメッセージが表示され、自動的にミシンが起動できないようになっています。

2.11 糸をかける

上糸をかける

前提条件：

- ・ 針と押え金を上げます。
- ・ ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > 糸こまクッションを糸立て棒に取り付けます。
- > 糸が時計回りに出てくるように、糸こまを糸立てにセットします。
- > 適当なサイズの糸こま押えを取り付けます。
- > 糸を矢印の方向に引き出し、ミシン後部の糸ガイド (1) に通します。その際糸がピンと張るように、手でしっかりと押さえます。
- > 糸を矢印の方向に引き、テンションディスク (2) にかけます。

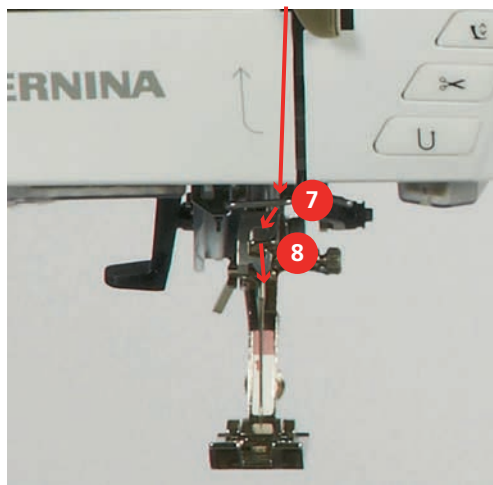


- > 糸を(3)に沿って下に持っていき、(4)に引っ掛けるように通します。
- > 糸を(5)に沿って上に持っていきます。

> 糸を再び(6)に沿って下に持っていきます。

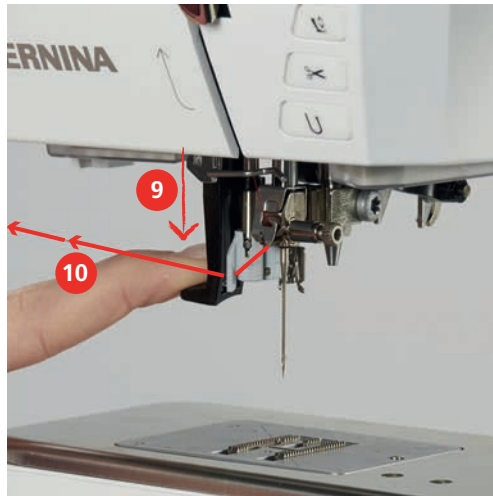


> 糸を押え金上部の糸ガイド(7/8)に通します。

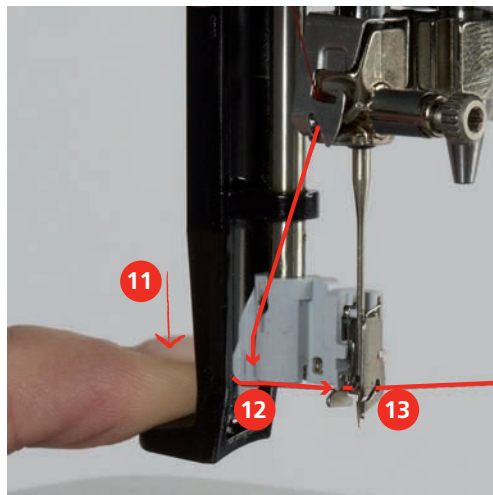


> ミシンの電源を入れます。

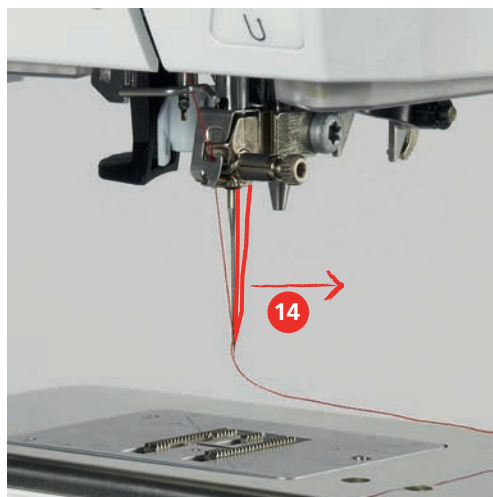
- > セミオート糸通しのレバー(9)を軽く下に押して、押したままにし、灰色の糸通しフック(10)の下に糸を通します。



- > 糸を左から右に灰色の糸通しフック(12)にかけます。
- > 糸通しのレバーを一番下まで下げ(11)、糸を図のように左から右へ引き(12)、スリット(13)へしっかりと引っかかるように通します。



- > レバーと糸から同時に手を離すと、針に糸が通ります。
- > 糸の輪になっている部分(14)を後方へ引っ張ります。



- > 糸を押え金の下に通し、そこから矢印のように糸切り(15)へ引っ張り、糸切りの後ろから前へと糸を引っ掛け、糸を切ります。



二本針に糸を通す

前提条件：

- ・ 二本針を取り付けます。
- > 一本目の糸を、矢印のようにテンションディスク(1)の右側にかけます。
- > 二本目の糸を、矢印のようにテンションディスク(1)の左側にかけます。



- > 一本目と二本目の糸を針の上の糸ガイドまで通します。
- > 一本目の糸を右の針に通します。
- > 二本目の糸を左の針に通します。

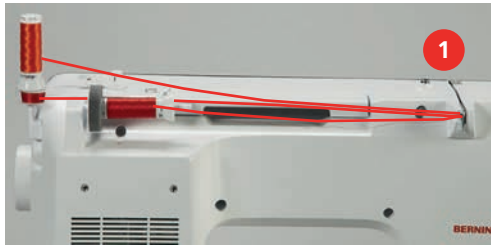


三本針に糸を通す

前提条件：

- ・ トリプル針を取り付けます。
- > 糸こまクッション、糸こまおよび対応する糸こま押えを糸立てに差し込みます。
- > 糸を巻いたポビンを、折りたたみ式糸立て棒に取り付けます。

- > 適当なサイズの糸こま押えを取り付けます。
- > 糸こまを取り付けます。
- > 3本の糸を上糸ガイドまで通します。



- > 2本の糸をテンションディスク(1)の左側に通し、針の上糸ガイドまで通します。
- > 残りの1本をテンションディスク(1)の右側に通し、針の上糸ガイドまで通します。
- > 1番目の糸を手で左の針に通します。
- > 2番目の糸を手で中央の針に通します。
- > 三本目の糸を右の針に通します。

下糸を巻く



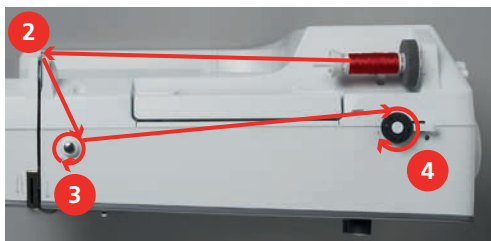
折りたたみ式糸立て棒を使用すれば、ソーイング中でも下糸を巻くことができます。

前提条件：

- ・ 糸こまクッション、糸こま、糸こま押えを取り付けます。
- > 空のボビンを、銀色のセンサー面を下向きにした状態で、ボビン巻き取りユニット（1）に設置します。



- > 糸を左方向、後側の糸ガイド（2）に通します。
- > 糸をボビン巻き取りプリテンショナー（3）に時計回り方向に通します。
- > 糸を空のボビン（4）に2～3回、時計回りに巻きつけます。



- > 残りの糸を糸切りの上を通して始動レバー（5）まで引っ張り、糸を切ります。



- > 糸巻きスイッチ(6)をボビンの方向に押します。



- ミシンが巻き上げられ、糸巻き表示が出ます。
- > ボビンスピードを設定します。
- > 糸巻きスイッチを右に押すと、糸巻きがストップします。
- > 糸巻きスイッチをもう一度ボビンの方向に押すと、糸巻きが続行します。
 - ボビンがいっぱいになると、ミシンは自動的に糸巻きを終了します。
- > ボビンを取り外して、糸を糸巻きスイッチの糸切りで切ります。

下糸をかける

前提条件：

- ・ 針を上に戻します。
- ・ ミシンの電源を切り、釜カバーを開けます。
- > ボビンケースの取り出しレバー(1)を押します。



- > ボビンケースを取り出します。
- > ボビンケースからボビンを外します。

> 新しいボビンを、銀色のセンサー部分が奥側になるように、ボビンケースに取り付けます。



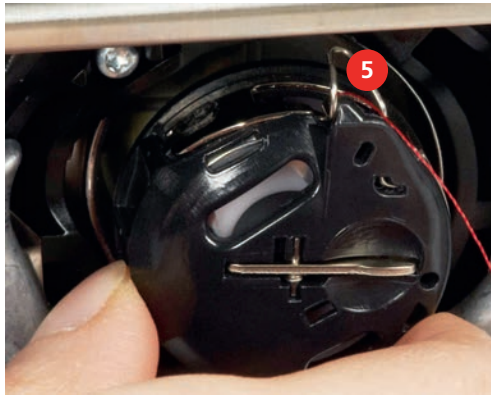
> 糸を左から溝(2)に通します。



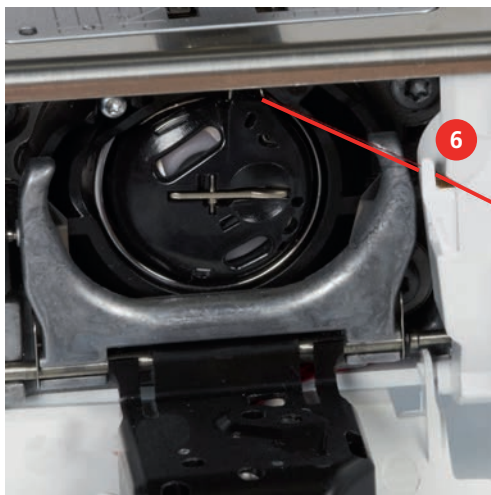
> 糸を糸調子バネ(3)の下に通して右に引き、さらに2つの糸ガイド(4)に通して、上に引きます。



- > ボビンケースを、糸ガイド(5)が上にくるようにして持ちます。



- > ボビンケースを取り付けます。
- > ボビンケースの中央を押して、しっかりとはめ込みます。
- > 糸を糸切り(6)に通して切ります。



- > 釜カバーを閉じます。

下糸残量表示

下糸の量が限界になると、「下糸」フィールドにアニメーションが表示され、下糸がもうすぐ終わりになることを示します。



- > アニメーションに従って下糸を通すには、「下糸」をタップします。

3 セットアッププログラム

3.1 ソーイング機能の設定

上糸調子を設定する

セットアッププログラムで変更した上糸調子は、すべてのステッチパターンに有効になります。また、ステッチパターンごとに上糸調子を設定することもできます。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ソーイング設定»をタップします。



> «上糸調子»をタップします。
> 上糸調子を調節します。

ソーイングスピードの最高速度を設定する

この機能では、ソーイングスピードの最高速度を設定することができます。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ソーイング設定»をタップします。



> «最大ソーイングスピード»をタップします。
> 最高速度を設定します。

留め縫いを設定する

この機能をオンにすると、糸切り後、パターンの始まりで自動的に4針留め縫いされます。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ソーイング設定»をタップします。



> 留め縫いをオフにするには、スイッチをタップします。
> 留め縫いをオンにするには、もう一度スイッチをタップします。

押え金の高さを設定する

押え金の高さは、布地の厚さに応じて、0 mmから最高7 mmまで設定することができます。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ソーイング設定»をタップします。



> «ボタンとフィールドをプログラムする»をタップします。



> «押え金の吊り下げ高さをプログラムする»をタップします。
> 布地と押え金の間の距離を設定します。

《終了パターン》 ボタンをプログラムする

押え金の位置、糸切り、自動留め縫い機能を設定することが可能です。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ソーイング設定»をタップします。



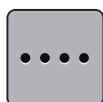
> «ボタンとフィールドをプログラムする»をタップします。



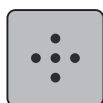
> «終了パターンボタンをプログラムする»をタップします。



> 留め縫いを4針同じ位置で縫うには、「留め縫い」をタップします。



> 連続した留め縫いを設定するには、「前方向の留め縫い」をタップします。
> 連続留め縫いの数を設定するには、「プラス」または「マイナス」をタップします。



> 留め縫いを4針同じ位置に設定するには、「一か所での留め縫い」をタップします。



> 縫った後の自動糸切りを無効にするには、「自動糸切り装置」をタップします。
> 縫った後の自動糸切りを有効にするには、「自動糸切り装置」をもう一度タップします。



> 縫った後に押え金を下げた状態にしておくには、「押え金を上げる」をタップします。
> 縫った後に押え金を上げるには、「押え金を上げる」をもう一度タップします。



> 自動留め縫いを無効にするには、「留め縫い」をタップします。
> 自動留め縫いを有効にするには、「留め縫い」をもう一度タップします。






糸切りボタンをプログラムする

糸切り前の自動留め縫いを設定することができます。

- 
> «セットアッププログラム»をタップします。
- 
> «ソーイング設定»をタップします。
- 
> «ボタンとフィールドをプログラムする»をタップします。
- 
> «糸きりボタンをプログラムする»をタップします。
- 
> 留め縫いを4針同じ位置で縫うには、「留め縫い」をタップします。
- 
> 連続した留め縫いを設定するには、「前方向の留め縫い」をタップします。
> 留め縫いの数を設定するには、「マイナス」または「プラス」をタップします。
- 
> 留め縫いを4針同じ位置に設定するには、「一か所での留め縫い」をタップします。
- 
> 自動留め縫いを無効にするには、「留め縫い」をタップします。
> 自動留め縫いを有効にするには、「留め縫い」をもう一度タップします。

針停止が下の際の押え金の位置を設定する

針を下げた状態で、次の3種類の押え金位置を選択できます：押え金を下げた状態、押え金を浮かせた状態、押え金を最大まで上げた状態。

- 
> «セットアッププログラム»をタップします。
- 
> «ソーイング設定»をタップします。
- 
> «ボタンとフィールドをプログラムする»をタップします。
- 
> «針の下側停止時の押え金位置»をタップします。
- 
> 設定したい押え金位置を選択します。

返し縫いボタンをプログラムする

《連続返し縫い》と《バックステップ縫い》から選ぶことができます。



> 《セットアッププログラム》をタップします。



> 《ソーイング設定》をタップします。



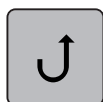
> 《ボタンとフィールドをプログラムする》をタップします。



> 《返し縫いボタンをプログラムする》をタップします。



> バックステップ縫いを設定するには、《バックステップ》をタップします。



> 連続返し縫いを設定するには、《連続返し縫い機能》をタップします。

3.2 刺しゅう機能の設定

上糸調子の設定

セットアッププログラムで変更した上糸調子は、すべての刺しゅうモチーフに有効になります。



> 《セットアッププログラム》をタップします。



> 《刺しゅう機能の設定》をタップします。



> 《上糸テンションを調節します。》をタップします。
> 上糸調子を調節します。

刺しゅうスピードの最高速度を設定する

この機能では、ソーイングスピードの最高速度を設定することができます。



> 《セットアッププログラム》をタップします。



> 《刺しゅう機能の設定》をタップします。



> 《最速の刺しゅうスピード》をタップします。
> 最高速度を設定します。

刺しゅうモチーフを中央またはオリジナルの位置に置く

本製品で刺しゅうモチーフを開くと、刺しゅうモチーフは常に刺しゅう枠の中央に配置されます。刺しゅうモチーフを元の位置（ベルーナ刺しゅうソフトウェアで決定された位置）で開きたい場合は、この「刺しゅうモチーフを中央に置く」機能をオンにする必要があります。



> 「セットアッププログラム」をタップします。



> 「刺しゅう機能の設定」をタップします。



> 「刺しゅうモチーフを中央に置く」をタップします。



- > 右側エリアのスイッチをタップします。
 - 選択した刺しゅうモチーフを保存した位置で開くことができます。
- > 右側エリアのスイッチをもう一度タップします。
 - モチーフの位置は刺しゅう枠の中央になります。

刺しゅう枠の調整

刺しゅう枠の調整では、針が刺しゅう枠の中心に来るように調整されます。

前提条件：

- ・ 刺しゅう機を接続し、対応する刺しゅうテンプレートを設定した刺しゅう枠を装着します。



> 「セットアッププログラム」をタップします。



> 「刺しゅう機能の設定」をタップします。



- > 「刺しゅう枠を調整する」をタップします。
- > 目的の刺しゅう枠を選択し、ディスプレイに表示される指示に従います。
- > ディスプレイ上の矢印を使って針を中央に設置します。



布地の厚さを設定する

生地が厚さが4mm以上の場合（例：タオル地）は、7.5mmまたは10mmを選択することをお勧めします。生地が厚いほど、ミシンによる刺しゅうの速度は遅くなります。ミシンの電源を切ると、変更内容は初期設定の4mmにリセットされます。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «刺しゅう機能の設定»をタップします。



> «生地の厚みを設定する»をタップします。

> 生地を選択します。

糸除去機能のオン／オフ

糸切りをした後、糸端を上を引き出すためには、糸除去機能をオンにします。ステッチの長さが長い刺しゅうモチーフの場合には、糸除去機能をオフにすることをお勧めします。押え金と刺しゅう枠の距離が近すぎる場合には、糸除去機能を使用することができません。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «刺しゅう機能の設定»をタップします。



> «糸の除去»をタップします。



> 糸除去機能をオン／オフします。

留め縫い機能の設定

刺しゅうモチーフには、留め縫いを設定することができます。刺しゅうモチーフに留め縫いがプログラムされている場合、プログラムされた留め縫いがされます。刺しゅうモチーフに留め縫いがプログラムされている場合、ベルニナの刺しゅうソフトを使って留め縫いを解除することができます。

留め縫いが設定されていないモチーフはミシンが認識し、留め縫いを追加することができます。留め縫いを希望しない場合は、オフにすることができます。



> «セットアッププログラム»をタップします。






> «刺しゅう機能の設定»をタップします。




> «留め縫いステッチ»をタップします。





> 縫い始めの留め縫いをオフにするには、上側のスイッチをオフにします。
 - 刺しゅうモチーフに留め縫いがプログラムされていない場合、留め縫いはされません。

- >  縫い始めの留め縫いをオンにするには、上側のスイッチをオンにします。
 - 刺しゅうモチーフに留め縫いがプログラムされていない場合、留め縫いが追加され、縫われます。
- >  縫い終わりの留め縫いをオフにするには、下側のスイッチをオフにします。
 - 刺しゅうモチーフに留め縫いがプログラムされていない場合、留め縫いはされません。
- >  縫い終わりの留め縫いをオンにするには、下側のスイッチをオンにします。
 - 刺しゅうモチーフに留め縫いがプログラムされていない場合、留め縫いが追加され、縫われます。


糸切り機能の設定

- >  «セットアッププログラム»をタップします。

- >  «刺しゅう機能の設定»をタップします。


- >  «糸切り機能の設定»をタップします。




- >  ディスプレイ上部のスイッチ (1) をタップすると、糸替え前の自動糸切り機能がオフになります。
- > ディスプレイ上部のスイッチ (1) をもう一度タップすると、糸替え前の自動糸切り機能がオンになります。
- > ディスプレイ (2) の中央部にあるスイッチをタップすると、ミシンは約7針縫った後に停止し、残りの糸は手動で切ることができます。
- > ミシンを手動での糸切りのために停止しないようにするには、ディスプレイ (2) の中央部にあるスイッチをもう一度タップします。
- > 連結ステッチを切る長さを設定するには、「マイナス」または「プラス」(3) をタップします。

単位の変更

刺しゅうモードでの単位をミリメートルからインチに変更することができます。基本設定ではミリメートルです。

- >  «セットアッププログラム»をタップします。

- >  «刺しゅう機能の設定»をタップします。



- > «寸法単位»をタップします。
- > 刺しゅうモードで寸法をインチ単位で表示するには、「inch」をタップします。
- > 刺しゅうモードで寸法をmm単位で表示するには、「mm」をタップします。

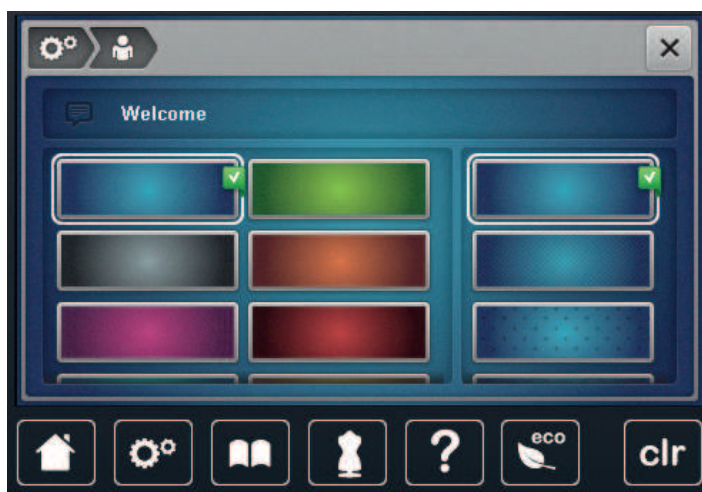
3.3 パーソナル画面を設定する



- > «セットアッププログラム»をタップします。



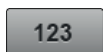
- > «個人設定»をタップします。
- > お好みのディスプレイの色および背景を選択します。
- > カラー設定の上にあるテキストボックスをタップします。



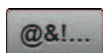
- > ウェルカムメッセージを入力します。
- > 大文字を使用するには、「大文字」をタップします（初期設定）。



- > 小文字を使用するには、「小文字」をタップします。



- > 数字や数学記号を使うには、「数字および数学記号」をタップします。



- > 特殊文字を使用するには、「特殊文字」をタップします。
- > 入力したテキストを完全に消去するには、キーボードの上のテキストボックスをタップします。



- > 入力したテキストの個々の単語を消去するには、「消去」をタップします。



- > «決定»をタップします。

3.4 センサー機能

センサー機能



- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «監視機能»をタップします。



- > 上糸センサーをオフにするには、ディスプレイ上部のスイッチをタップします。
- > 上糸センサーをオンにするには、スイッチをもう一度タップします。

下糸センサーを設定する



- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «監視機能»をタップします。



- > 下糸センサーをオフにするには、ディスプレイ下部のスイッチをタップします。
- > 下糸センサーをオンにするには、スイッチをもう一度タップします。

3.5 操作音の設定をする



- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «操作音の設定»をタップします。
- > 全般的な音設定のオン／オフを切り替えるには、スイッチ (1) をタップします。



- > ステッチパターン選択時の音をオフにするには、フィールド (2) «音設定／解除» をタップします。
- > ステッチパターン選択時の音をオンにするには、フィールド (2) «1~4» をタップします。



- > 機能選択時の音をオフにするには、フィールド (3) «音設定／解除» をタップします。
- > 機能選択時の音を設定するには、フィールド (3) «1~4» をタップします。



- > BSRモード時に音をオフにするには、フィールド (4) «音設定／解除» をタップします。

3.6 ミシンの設定

ミシンの設定

ベルニナは、多様な国際言語でお客様へのご提供を行っております。このため、お客様のお好みに応じ、ユーザーインターフェースを希望の言語に設定することができます。また、ファームウェアのアップデートにより、ユーザーインターフェースの言語を変更することも可能です。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



> «言語の選択»をタップします。
> 言語を選択します。

ディスプレイの明るさを設定する

ディスプレイの明るさは、必要に応じて調整できます。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



> «画面の設定»をタップします。
> ディスプレイ上部のフィールドで、ディスプレイの明るさを調整します。

ソーイングライトの設定

ソーイングライトの明るさは、必要に応じて調整できます。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



> «画面の設定»をタップします。
> ディスプレイ下部のフィールドで、ソーイングライトの明るさを調整します。



> ソーイングライトをオフにするには、スイッチをタップします。
> ソーイングライトをオンにするには、もう一度スイッチをタップします。

ディスプレイの調整

この項目についての詳細は、本取扱説明書の最後にある「トラブルシューティング」の「付録」の章を参照してください。



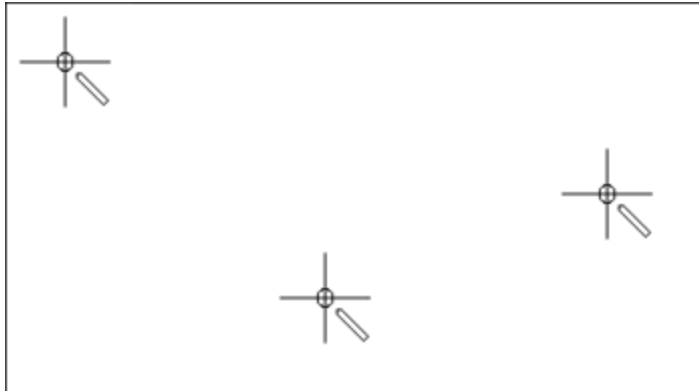
> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



- > «画面を校正する»をタップします。
- > タッチペンで十字マークを順番にタップします。



標準設定に戻す

注意：この機能は、個別に作成した設定をすべて削除します。



- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «ミシンの設定»をタップします。



- > «工場出荷時設定»をタップします。



- > ソーイング設定の基本設定を復元するには、「ソーイングの基本設定」をタップして確認します。



- > 刺しゅう設定の基本設定を復元するには、「刺しゅうの基本設定」をタップして確認します。



- > 基本設定をすべて復元するには、「ミシンの基本設定」をタップして確認し、ミシンを再起動します。

ユーザーデータを消去する

必要のなくなったモチーフを消去することで、新しいモチーフを保存するデータ容量が増えます。



- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «ミシンの設定»をタップします。



- > «工場出荷時設定»をタップします。



- > 自分のメモリーからすべてのデータを消去するには、「自分のメモリーからデータを消去する」をタップして確認します。



- > 自分のメモリーからすべての刺しゅうモチーフを消去するには、「自分の刺しゅうモチーフを消去する」をタップして確認します。

ベルニナUSBメモリー内のモチーフを消去する

不要になったモチーフがベルニナのUSBスティックに保存されている場合は、ミシンに接続してデータを削除することができます。

- > ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。
- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «ミシンの設定»をタップします。



- > «工場出荷時設定»をタップします。



- > «USBメモリーを消去する»をタップします。



- > «決定»をタップします。

布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aのキャリブレーション

布ガイド付き自動ボタンホール押え #3A とミシンは互いに連動するため、常に一緒に使用する必要があります。

前提条件：

- ・ 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3A を取り付けます。
- ・ 針には糸を通さないでおきます。

- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «ミシンの設定»をタップします。



- > «メンテナンス/アップデート»をタップします。



- > «布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aのキャリブレーション»をタップします。



- > 校正を開始するには、「スタート/ストップ」ボタンを押します。

刺しゅう機を収納する

刺しゅうアームを手で動かさずに刺しゅう機を元のパッケージに戻すためには、まず刺しゅうアームをパッケージ位置に移動させる必要があります。

前提条件：

- ・ 刺しゅう機はミシンに接続されています。

- > «セットアッププログラム»をタップします。



4 システム設定

4.1 チュートリアルを開く

チュートリアルでは、ソーイングや刺しゅう、およびさまざまなステッチに関する情報や説明を見ることができます。



- > «チュートリアル»をタップします。
- > ご覧になりたいトピックを選択して、情報を見ることができます。

4.2 ソーイングアドバイザーを開く

ソーイングアドバイザーでは、作品製作のお手伝いをします。布地と縫いたいものを入力すると、適した針とそれに合う押え金などの提案が表示されます。



- > «ソーイングアドバイザー»をタップします。
- > 使用する布地を選択します。
- > 作りたい作品を選択します。

4.3 ヘルプを開く

- > ヘルプが必要な場合には、ディスプレイにヘルプを表示させます。
- > ヘルプモードを起動するには、「ヘルプ」をタップします。
- > ディスプレイに表示されている、サポートが必要な項目をタップします。



4.4 エコモードについて

作業が長時間中断される場合、ミシンは節約モードになります。また、節電モードはチャイルドロックとしても機能します。ディスプレイでは何も選択することができず、ミシンも起動できません。



- > 節電モードをオンにするには、「エコモード」をタップします。
 - ディスプレイが消えます。節電モードになり、ソーイングライトが消えます。
- > 節電モードをオフにするには、「エコモード」をもう一度タップします。

4.5 «clr»で変更を取り消す

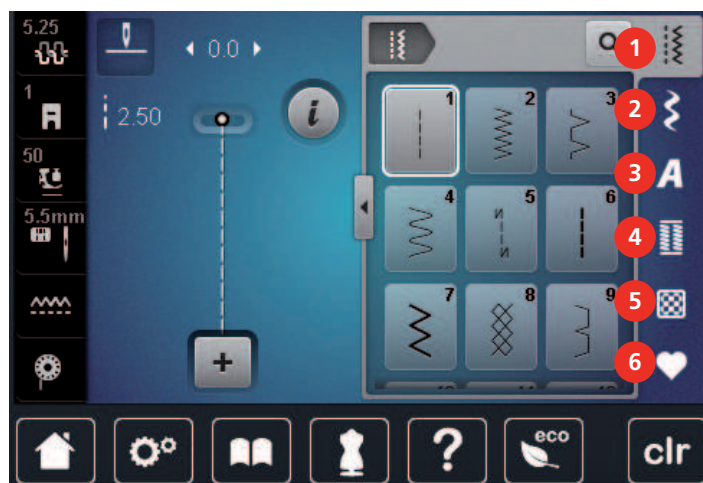
変更したパターンはすべてデフォルト設定に戻すことができます。自分のメモリーに保存されているパターンやモニター機能は対象外です。



- > «設定をクリア»をタップします。

5 クリエイティブなソーイング

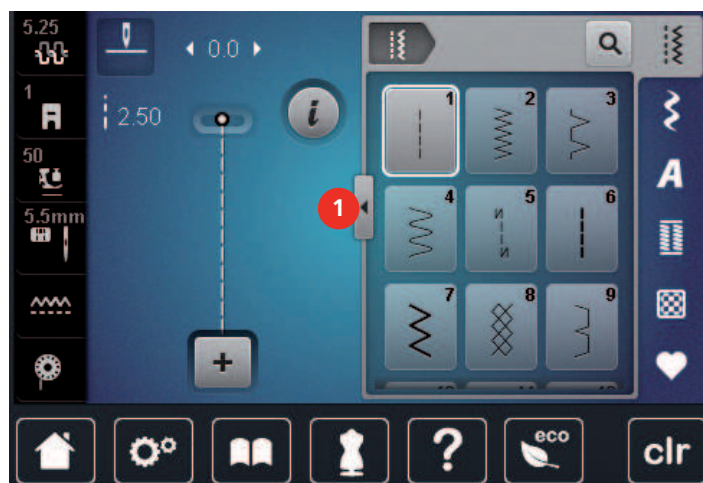
5.1 ソーイング選択メニューについて



- | | | | |
|---|-----------|---|--------------|
| 1 | 《実用縫い》 | 4 | 《ボタンホール》 |
| 2 | 《飾りステッチ》 | 5 | 《キルトステッチ》 |
| 3 | 《アルファベット》 | 6 | 《パーソナルプログラム》 |

ステッチパターンを選択する

- > ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを選択します。
- > ステッチパターンをさらに表示するには、実用縫いのフィールドでアルファベットまたはボタンホールを上にはスワイプします。
- > ズームインするには、《ウィンドウの拡大／縮小》(1) をタップします。



- > ズームアウトするには、《ウィンドウの拡大／縮小》をもう一度タップします。
- > ステッチ番号を入力してステッチパターンを選ぶには、《ステッチパターンを番号で選択》をタップします。



5.2 ソーイングスピードを調節する

スピードコントローラーで、ソーイングスピードを自由に調節することができます。

- > スピードコントローラーを左にスライドさせると、スピードが遅くなります。
- > スピードコントローラーを右にスライドさせると、スピードが速くなります。

5.3 上糸調子の設定

上糸調子の標準設定はステッチパターンおよび刺しゅうモチーフによって自動的に設定されています。上糸調子はベルニナの製造所で最適な状態に設定されています。上糸および下糸調子の初期設定に使われた糸は、メトロシーン/セラロン100/2（メトラー社）です。

その他のミシン糸または刺しゅう糸を使用する場合には、上糸調子に不具合が生じてしまうことがあります。これによって、縫うまたは刺しゅうするものと希望のステッチおよび刺しゅうモチーフに合わせて、上糸調子を個々に調整することが必要になります。

上糸調子を強めるほど上糸が張って、下糸を布地に強く引き付けます。上糸を弱めると、上糸の張りが弱くなり、下糸を布に引き付ける力が弱まります。

上糸調子の変更は、それぞれ選択したステッチパターンとすべての刺しゅうモチーフに影響します。ソーイングモード用（参照ページ: 47）と刺しゅうモード用（参照ページ: 50）の上糸調子を変更したままにするには、セットアッププログラムから設定することが可能です。

前提条件：

- ・ 上糸調子をセットアッププログラムで変更します。

- > «上糸調子»をタップします。
- > 上糸調子を調節します。



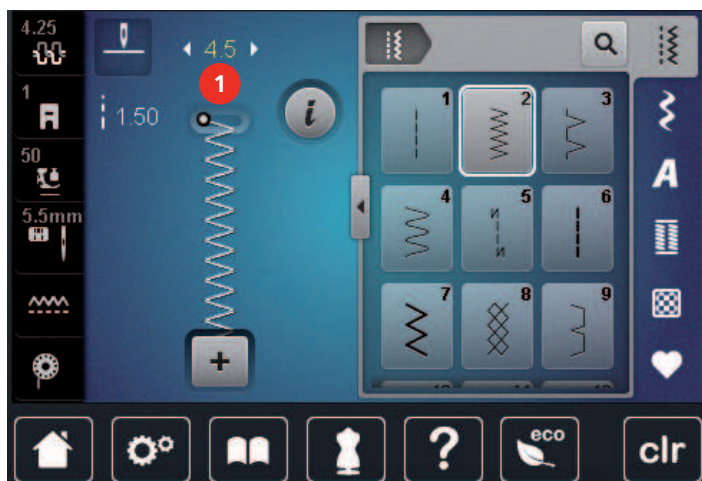
- > 変更を基本設定に戻すには、右側の黄色い枠のフィールドをタップします。
- > 左側の黄色い枠で囲まれたフィールドをタップすると、セットアッププログラムで変更した内容が初期設定に戻ります。

5.4 ステッチパターンの編集

振り幅を変更する

- > «多機能ボタン 上»を左に回すと、振り幅が小さくなります。
- > «多機能ボタン 上»を右に回すと、振り幅が大きくなります。

- > さらに設定項目を呼び出すには、「ステッチ幅」(1)をタップします。



送り長さを変更する

- > 「多機能ボタン 下」を左に回すと、送り長さが短くなります。
- > 「多機能ボタン 下」を右に回すと、送り長さが長くなります。
- > さらに設定項目を呼び出すには、「ステッチ長」(1)をタップします。



バランスを調整する

布地や糸、芯地の種類によっては、バランスの調整が必要な場合があります。バランスを調整することで、布地に合ったきれいなステッチパターンを縫うことができます。

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > ステッチパターンを縫います。
- > 「iダイアログ」をタップします。





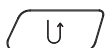
> «iダイアログ»をタップします。



> «ステッチパターンの変更する»をタップします。
> ステッチパターン長を設定します。

返し縫い

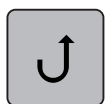
> ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
> «返し縫い» ボタンを押してすぐに返し縫いに切り替える場合は、針停止位置を下に設定します（常時）。
> 返し縫いに切り替える前にもう1針正縫いするには、針位置を上を設定します（常時）。



> «返し縫い» ボタンを押し、そのまま押し続けます。

続けて返し縫いをする

> ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
> «iダイアログ»をタップします。



> 連続返し縫いをするには、「連続返し縫い機能」をタップします。
- «連続返し縫い機能」をもう一度押すまで、ミシンは返し縫いを実行します。

バックステップ縫い

> ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
> «iダイアログ»をタップします。



> 最後の200針をバックステップ縫いで縫うには、「バックステップ」をタップします。

5.5 ステッチパターンのコンビネーションを作成する コンビネーションモードについて



- | | | | |
|---|---------|---|------------------------|
| 1 | 「ステッチ幅」 | 3 | 「コンビネーションモード/シングルモード」 |
| 2 | 「ステッチ長」 | 4 | コンビネーションの中の個々のステッチパターン |

ステッチパターンのコンビネーションを作成する

コンビネーションモードでは、ステッチパターンとアルファベットを希望に合わせて組み合わせることができます。例えば、任意のアルファベットを組み合わせ、「BERNINA」という文字を作ることができます。



- > 「コンビネーションモード/シングルモード」をタップします。
- > 使いたいステッチパターンを選択します。



- > シングルモードに戻すには、「コンビネーションモード/シングルモード」をもう一度タップします。

ステッチパターンのコンビネーションを保存する

個別に作成したステッチパターンのコンビネーションを再利用するために、「パーソナルプログラム」ストレージに保存することができます。

- > ステッチパターンのコンビネーションを作成します。



> «パーソナルプログラム»をタップします。



> «ステッチパターンを保存する»をタップします。



> «決定»をタップすると、ステッチパターンのコンビネーションが保存されます。

ステッチパターンのコンビネーションを呼び出す



> «コンビネーションモード/シングルモード»をタップします。



> «パーソナルプログラム»をタップします。



> «ステッチパターンのコンビネーションを読み込む»をタップします。
> ステッチパターンのコンビネーションを選択します。

ステッチパターンのコンビネーションを上書きする

> ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
> «パーソナルプログラム»をタップします。



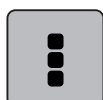
> «ステッチパターンを保存する»をタップします。
> 上書きするステッチパターンのコンビネーションを選択します。



> «決定»をタップすると、ステッチパターンのコンビネーションが上書きされます。

ステッチパターンのコンビネーションを消去する

> ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
> «iダイアログ»をタップします。



> «全体の組み合わせを編集する»をタップします。



> «消去»をタップします。



> «決定»をタップします。

単独のステッチパターンを編集する

- > ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
- > 一つのステッチパターンを選択するには、ステッチパターンのコンビネーションの中で希望の位置(1)をタップします。



- > «iダイアログ»をタップして、個々のステッチパターンを編集します。

ステッチパターンの一部を消去する

前提条件：

- ・ ステッチのコンビネーションが作成されます。
- > ステッチのコンビネーションの中の希望の刺しゅうモチーフ(1)をタップします。



- > «iダイアログ»をタップします。



- > «消去»をタップします。

単独のステッチパターンを追加する

新しいステッチパターンは、常に選択されたステッチパターンの下に挿入されます。

- > ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
- > 一つのステッチパターンを選択するには、ステッチパターンのコンビネーションの中で希望の位置(1)をタップします。



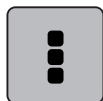
- > 新しいステッチパターンを選択します。

ステッチパターンのコンビネーションを反転させる

- > ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > «全体の組み合わせを編集する»をタップします。



- > ステッチパターン全体を左から右にミラーリングするには、「模様反転 左/右」をタップします。
- > 変更した内容を初期設定に戻す場合は、「模様反転 左/右」をもう一度タップします。



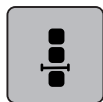
ステッチパターンのコンビネーションを分割する

ステッチパターンのコンビネーションは、いくつかのパーツに分割することができます。分割された部分は、カーソルの下に挿入されます。カーソルが置かれている部分だけが縫製されます。次のセクションを縫うには、カーソルがそのセクションに置かれている必要があります。

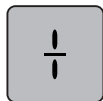
- > ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
- > ステッチパターンのコンビネーションの中で、分割したい位置を選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > «カーソル位置でコンビネーションを編集する»をタップします。



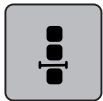
- > «コンビネーションを分割する»をタップします。



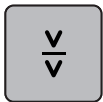
ステッチパターンのコンビネーションを途中で区切る

ステッチパターンのコンビネーションは、さまざまなポイントで中断することができます。中断はカーソルの下に挿入されます。

- > ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
- > ステッチパターンのコンビネーションの中で、中断したい位置を選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



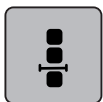
- > «カーソル位置でコンビネーションを編集する»をタップします。



- > «コンビネーションを途中で区切る»をタップします。
- > 生地的位置を変えるため、最初の部分を縫います。

ステッチパターンのコンビネーションを留め縫いする

- > ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
- > ステッチパターンのコンビネーションの中で、縫いたい位置を選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



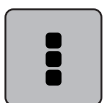
- > «カーソル位置でコンビネーションを編集する»をタップします。



- > «留め縫い»をタップします。
 - ステッチパターンのコンビネーションの各パターンは、最初に縫うことも、最後に縫うこともできます。

模様繰り返し機能を設定する

- > ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > «全体の組み合わせを編集する»をタップします。



- > ステッチパターンのコンビネーションを繰り返し実行する場合は、「パターンの反復」を1回タップします。
- > ステッチパターンのコンビネーションを9回まで繰り返し実行する場合は、「パターンの反復」をもう一度タップします。
- > パターンの繰り返しをオフにする場合は、「パターンの反復」を長押しするか、「設定をクリア」をタップします。

5.6 ステッチパターンを編集する

ステッチパターン設定を保存する

- > ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを選択します。



- > «iダイアログ»をタップします。
- > ステッチ、アルファベット、またはボタンホールを変更します。



- > すべての変更を永続的に保存するには«ステッチパターン設定を保存する» をタップします。



- > すべての変更を破棄するには、«ステッチパターンをもとに戻す» をタップします。

ステッチパターンをユーザーメモリーに保存する

«パーソナルプログラム» ストレージに、個別に変更したステッチパターンも含め、あらゆるステッチパターンを保存することができます。

- > ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを選択します。
- > ステッチパターンを編集します。
- > «パーソナルプログラム»をタップします。



- > «ステッチパターンを保存する»をタップします。
- > パターンを保存するフォルダを選択します。



- > «決定»をタップします。

ユーザーメモリー内のステッチパターンを上書きする

前提条件：

- ・ ステッチパターンがユーザーメモリーに保存されます。
- > ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを選択します。
- > ステッチパターンを編集します。
- > «パーソナルプログラム»をタップします。



- > «ステッチパターンを保存する»をタップします。
- > 上書きするステッチパターンが保存されているフォルダを選択します。
- > 上書きするステッチパターンを選択します。



- > «決定»をタップします。

ユーザーメモリー内にあるステッチパターンを呼び出す

前提条件：

- ・ ステッチパターンがユーザーメモリーに保存されます。

- > «パーソナルプログラム»をタップします。



- > «ステッチパターンを読み込む»をタップします。
- > ステッチパターンが保存されているファイルを選択します。
- > ステッチパターンを選択します。

ユーザーメモリー内にあるステッチパターンを消去する

前提条件：

- ・ ステッチパターンがユーザーメモリーに保存されます。
- > «パーソナルプログラム»をタップします。



- > «消去»をタップします。
- > ステッチパターンが保存されているファイルを選択します。
- > ステッチパターンを選択します。



- > ステッチパターンを消去するには、「決定」をタップします。

ステッチパターンをベルニナUSBメモリーに保存する

ベルニナUSBメモリーにお気に入りのステッチパターンや、編集したステッチパターンを保存することができます。

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > ステッチパターンを編集します。
- > «パーソナルプログラム»をタップします。



- > «ステッチパターンを保存する»をタップします。
- > ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。



- > «USBメモリー»をタップします。



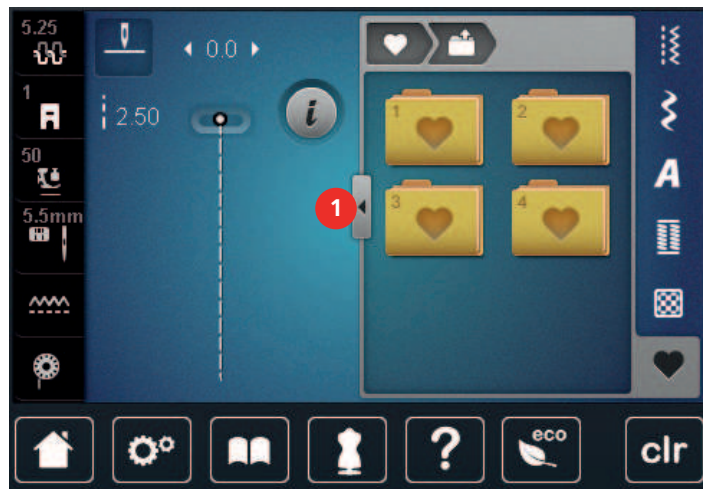
- > «決定»をタップします。

ベルニナUSBメモリーからステッチパターンを呼び出す

- > «パーソナルプログラム»をタップします。



- > «ステッチパターンを読み込む»をタップします。
- > «ウィンドウの拡大／縮小」(1)をタップします。



- > ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。
- > «USBメモリー»をタップします。
- > 呼び出したいステッチパターンを選択します。



ベルーナUSBメモリーからステッチパターンを消去する



> «パーソナルプログラム»をタップします。



- > «消去»をタップします。
- > ベルーナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。
- > 消去するステッチパターンを選択します。



> «決定»をタップします。

5.7 留め縫い

«模様終わり»ボタンを押して留め縫いをする

«模様終わり» ボタンにはさまざまな機能をプログラムすることができます。



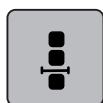
- > 縫う前、または縫っている最中に«模様終わり» ボタンを押します。
 - 縫製中、停止アイコンは機能が作動していることを示し、ステッチパターンまたはステッチパターンのコンビネーションのアクティブパターンは、プログラムされたステッチ数で最後に自動的に縫製されます。

«留め縫い»アイコンで留め縫いをする

ステッチパターンのコンビネーションの各パターンは、最初に縫うことも、最後に縫うこともできます。



> «iダイアログ»をタップします。



> «カーソル位置でコンビネーションを編集する»をタップします。

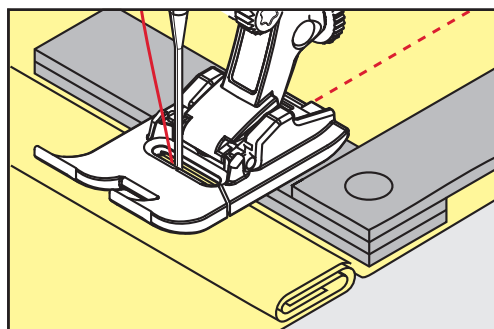


- > «留め縫い» をタップしてから縫製を開始します。
 - ステッチパターン/ステッチパターンのコンビネーションは、縫製開始時に4ステッチ縫われます。
- > «留め縫い» を縫製中にタップします。
 - ステッチパターンまたはステッチパターンコンビネーションのアクティブなステッチパターンは、最後に4ステッチ縫われます。

5.8 布地の高さを調節する

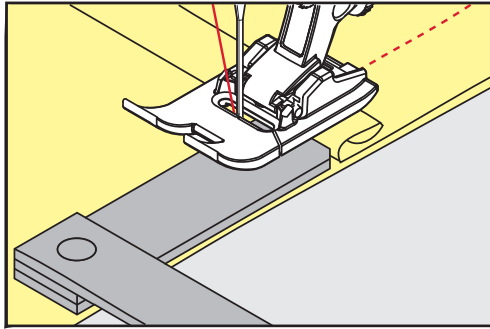
厚みのある部分を縫う際に押え金が斜めになっていると、送り歯がうまく布地を送ることができず、縫い目にばらつきができてしまいます。

> 1-3枚ほどの高さ調節板を、後ろから押え金の下の、針の少し手前の位置に入れます。



- 押え金が布地に対して水平になります。

- > 1-3枚ほどの高さ調節板を、前から押え金の下、針の少し手前の位置に入れます。

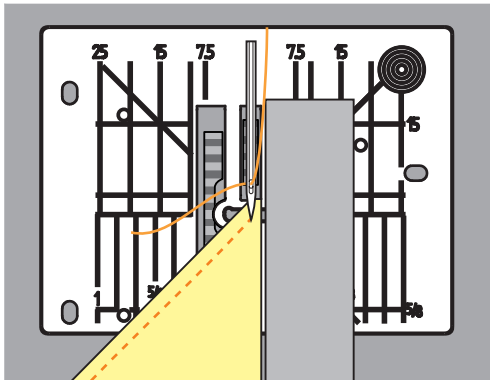


- 押え金が布地に対して水平になります。
- > 押え金が厚みのある部分を完全に通りすぎるまで縫います。
- > 高さ調節板を外します。

5.9 角を縫う

角を縫う際、送り歯には布地のほんの一部のみしか接触しないので、布送りがしっかりできません。この場合、高さ調節板を使用することで、布送りを均等にすることができます。

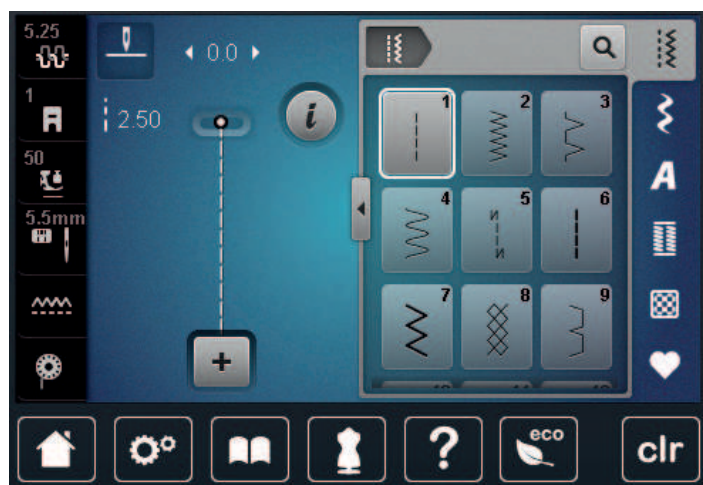
- > 角まで縫ったら、針位置を下にし、ミシンを一旦ストップします。
- > 押え金を上げます。
- > 布地を次のソーイング方向に回します。
- > 1-3枚ほどの高さ調節板を、押え金の右側の針の少し手前の位置に入れます。
- > 押え金を下げます。

















- > 布地が送り歯全体にかかる位置まで、高さ調節板を置いたまま縫います。



6 実用縫い

6.1 実用縫い一覧

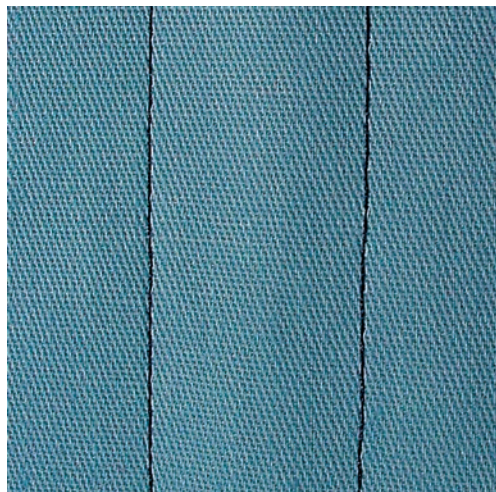


ステッチパターン	ステッチ番号	名称	特徴・用途
	1	直線縫い。	縫い合わせ、押さえ縫い、しつけ縫いの際の
	2	ジグザグ縫い。	端縫い、伸縮性が必要なステッチ、レースやゴムバンドの縫い付けの際の
	3	バリオーバーロック	端部分をきれいに整えるため、伸縮性のある生地を縫い合わせ、同時に切り整える際に。
	4	ランニングステッチ	生地の手元に詰め物をしたり、補強したり、レースやゴムバンドの縫い付けの際に。
	5	留め縫いプログラム	縫い目の始まり部分を順縫いと逆縫いで自動縫製する際に。
	6	トリプル直線縫い	厚手の生地や、装飾効果のある生地の場合に縫い目を補強する際に。
	7	トリプルジグザグステッチ	丈夫な生地の場合に縫い目、裾の見える部分、装飾的な縫い目に。
	8	ネットステッチ	伸縮性のある布地や裾に、またゴム糸が使用される場合に。
	9	まつり縫い	ほとんどの生地の場合にブラインドヘムや、ソフトジャージーや上質な生地の場合にシェルシームの際に。
	10	ダブルオーバーロック	伸縮性のある布地の縫い合わせと同時に、布端の補強処理を行う際に。
	11	スーパーストレッチ	伸縮性の強いオープンシーム。

	12	ギャザーステッチ	伸縮性のある糸でひだを作るため、また、中厚手の生地 of 縫い目をフラットに継ぎ合わせる際に。
	13	ストレッチオーバーロック	伸縮性のある布地の縫い合わせと同時に、布端の補強処理を行ったり、フラットに縫い目を継ぎ合わせる際に。
	14	トリコットステッチ	下着やセーターの裾や、縫い目が見える場合に、またトリコットを継ぎ合わせる際に。
	15	ユニバーサルステッチ	フェルトやレザーなどのソリッド素材のフラットな接合縫い目、裾の見える部分、装飾的な縫い目や、輪ゴム縫いの際に。
	16	二点ジグザグ縫い	生地 of 端をきれいに整えたり、補強したりする場合や、輪ゴム縫いや装飾的な縫い目の際に。
	17	ライクラステッチ	フラット継ぎ合わせ of 縫い目、ライクラ生地上 of 見える部分 of 縫い目、コルセット縫い直し of 縫い目の際に。
	18	ストレッチステッチ	織物 or ニットの伸縮性 of ある縫い目 or 裾に。
	19	補強オーバーロック	中厚手 of ニット or テリー織り of オーバーロック縫い or フラット継ぎ合わせ縫い目の際に。
	20	ニットオーバーロック	織物 or ニットの伸縮性 of ある縫い目 or 裾 of 裁縫 or きれいに整える際に。
	22	シンプル縫い縫いプログラム	微細な素材から固形材料まで、自動詰め作業に対応。
	23	補強縫い縫いプログラム	固形素材 of 自動詰め作業に。
	24	バータックプログラム	ポケット of 開口部 of 補強 or、ボタンホール鉤、ベルトループ of 縫い付けの際に。
	25	バータックプログラム	ポケット of 開口部 of 補強 or、ベルトループ of 縫い付け、縫い目端部分 of 固定の際に。
	27	小型フライステッチ	薄織り~中厚 of 生地 with、ポケット of 開口部、ジッパー、スリット部分を補強する際に。
	29	細まつり縫い	軽く、薄織り with 柔らかい生地 of ブラインドヘムとシェルシーム用に。
	30	マニュアルタッキングステッチ	非常に大きなステッチ of 長さ of 必要な作業に。

	32	一針直線縫い	1本のストレートステッチで、コンビネーションでのつなぎに。
	33	三針直線縫い	3本の各々ストレートなステッチを組み合わせて、コンビネーションでのつなぎに。

6.2 直線縫い



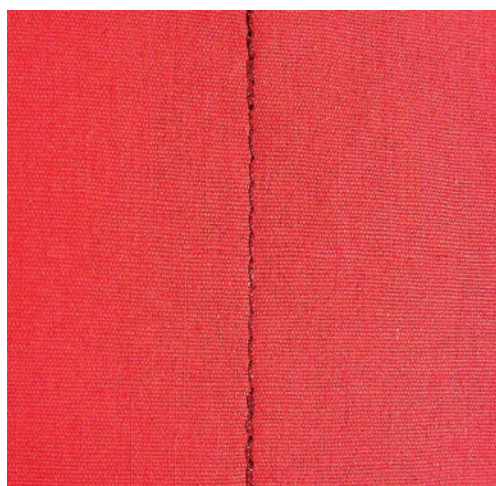
縫い目の長さは、デニム地の場合は長めのステッチ（約3~4mm）、薄手の生地の場合は短めのステッチ（約2~2.5mm）など、縫い物に合わせて調整してください。例えば、コードネットの長針（約3~5mm）でトップステッチをする場合など、糸の太さに合わせて縫い目の長さを調整します。

前提条件：

- ・ 標準押え #1 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い。No. 1 を選択します。



6.3 自動留め縫いプログラムで留め縫いをする



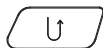
縫い終わりと縫い始めに6針ずつ前進と後進をして、留め縫いをします。

前提条件：

- ・ 標準押え #1 を取り付けます。

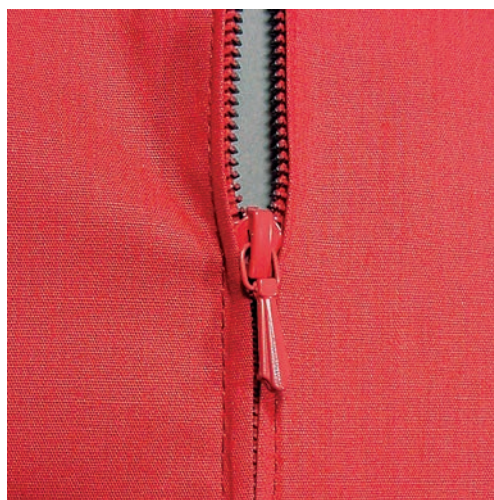


- > «実用縫い»をタップします。
- > 留め縫いプログラム No. 5 を選択します。
- > フットコントローラーを踏み込みます。
 - ミシンが自動的に留め縫いをします。



- > 必要な長さを縫います。
- > «返し縫い» ボタンを押します。
 - ミシンが自動的に留め縫いをして、停止します。

6.4 ファスナーを縫い付ける

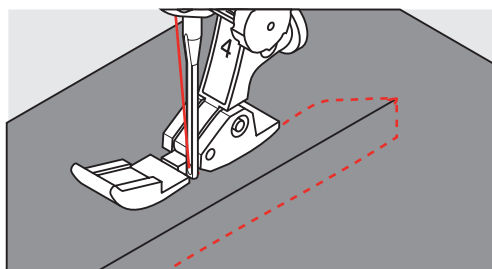


縫い始めの布送りが難しい場合、縫い始めに糸をしっかり押える、布地を何針か縫うまで軽く後ろに引っ張る、または最初に1-2 cm後進で縫うなどをお勧めします。



- > 標準押え #1 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い。 No. 1 を選択します。
- > ファスナーを縫い付ける部分まで縫います。
- > 留め縫いをします。
- > ファスナーを縫い付ける部分を長いステッチでしつけ縫いします。
- > 縫い代を仕上げます。
- > 縫い目にアイロンをかけます。
- > ファスナーを縫い付ける部分を開きます。
- > ファスナーをしつけ縫いします。布地の下にまち針などで、布地の端同士がファスナーの中央で合うようにしつけます。
- > ファスナーを数センチ開きます。
- > ファスナー押え #4 を取り付けます。
- > 針基線を右にします。
- > 押え金を上げて縫い物の位置を決めるには、ニーバーを使います。
- > 左上から縫い始めます。
- > 針がファスナーの歯に沿って刺さるように、押え金の位置を調節します。
- > ファスナーのスライダーの手前まで縫ったところで、針位置を下にしてミシンを止めます。
- > 押え金を上げます。
- > ファスナーを閉めます。
- > 続けて縫い、スリットが終わる手前で針位置を下にしてミシンを止めます。
- > 押え金を上げて作品の向きを変えます。
- > ファスナーの反対側まで縫い、針位置を下にしてのミシンを止めます。
- > 押え金を上げて作品の向きを変えます。

- > ファスナーの反対側を下から上に縫います。



6.5 ファスナーの両側を下から上に縫い付ける

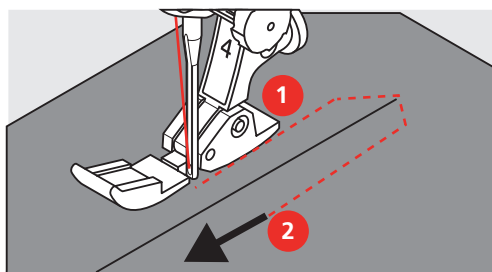
ベルベットなどの起毛生地の場合、ファスナーは両側とも毛並みと逆方向に縫い付けていくことをお勧めします。



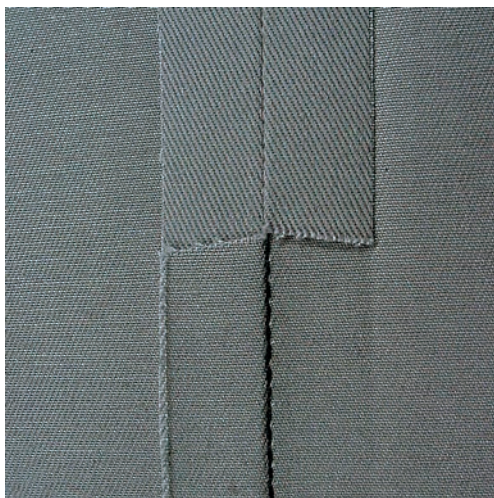
目の詰まった布地や硬い布地を縫う際には、均等なステッチを縫うために90-100番の針を使用することをお勧めします。



- > 標準押え #1 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い。No. 1 を選択します。
- > ファスナーを縫い付ける部分まで縫います。
- > 留め縫いをします。
- > ファスナーを縫い付ける部分を長いステッチでしつけ縫いします。
- > 縫い代を仕上げます。
- > 縫い目にアイロンをかけます。
- > ファスナーを縫い付ける部分を開きます。
- > ファスナーをしつけ縫いします。布地の下にまち針などで、布地の端同士がファスナーの中央で合うようにしつけます。
- > ファスナー押え #4 を取り付けます。
- > 針基線を右にします。
- > 押え金を上げて縫い物の位置を決めるには、ニーレバーを使います。
- > ファスナーの端の縫い目の中央から縫い始めます。
- > 縫い目の中央からファスナーの務歯の外側まで斜めに縫います。
- > (1)の側を下から上に向かって縫います。
- > ファスナーのスライダーの手前まで縫ったところで、針位置を下にしてミシンを止めます。
- > 押え金を上げます。
- > ファスナーを押え金の後ろの位置まで開けます。
- > 押え金を下ろして再び縫います。
- > 針基線を左にします。
- > ファスナーの反対側(2)を同様に下から上に縫います。



6.6 トリプル直線縫い

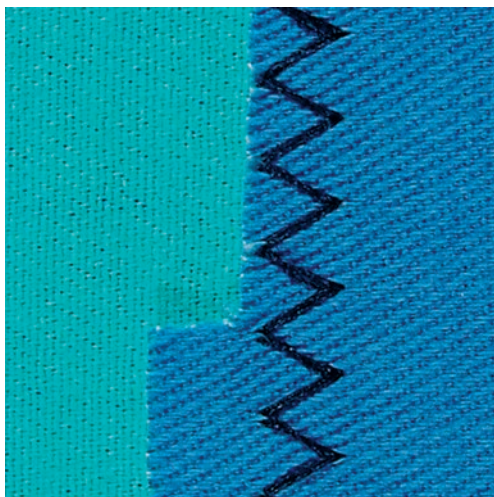


トリプル直線縫いは、特に硬い素材の縫製や、デニムやコーデュロイなどの硬くて密度の高い素材に適しています。硬い生地や非常に目の詰まった生地の場合は、ジーンズ押え #8 を装着することをお勧めします。デニム地や帆布などの硬い布地が縫いやすくなります。飾りステッチをする際には送り長さを長めにします。

- > 標準押え #1 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > トリプル直線縫い No. 6 を選択します。



6.7 トリプルジグザグ縫い

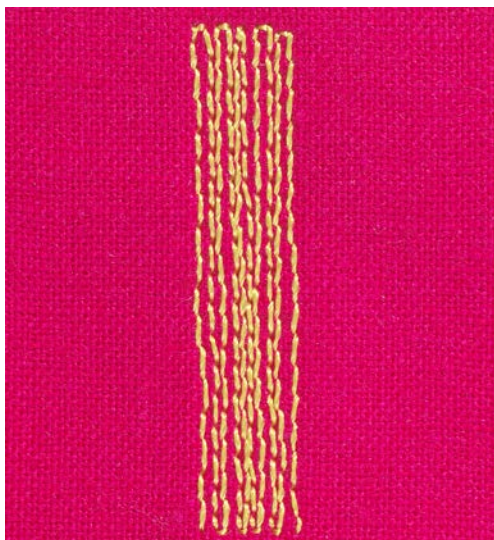


デニム地や家具用生地、帆布などの硬い布地を縫う際に適しています。また、よく洗うものの布端に。布端をまず始めに処理します。

- > 標準押え #1 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > トリプルジグザグステッチ No. 7 を選択します。



6.9 自動繕い縫い



シンプル繕い縫いプログラム No. 22 は、特に薄い斑点や裂け目を素早くかがる際に適しています。繕う部分に薄いて布や接着芯などを使用することをお勧めします。シンプル繕い縫いプログラム No. 22 では、すべての布地の縦糸を交換します。布地がゆがんしまう場合には、バランスを調整します。

> 標準押え #1 または 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3A を取り付けます。



> «実用縫い»をタップします。

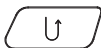
> シンプル繕い縫いプログラム No. 22 を選択します。

> 薄手の布地を繕い縫い枠（オプションアクセサリ）にセットします。
- つくろい縫いをする場所がよれたりずれたりするのを防ぎます。

> 左上から縫い始めます。

> 最初の一行を縦に縫います。

> ミシンを止めます。



> «返し縫い» ボタンを押します。

- 長さがプログラムされています。

> 繕い縫いがされます。

- ミシンは自動的に停止します。

6.10 自動補強繕い縫い



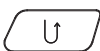
補強繕い縫いプログラム No. 23 は、特に薄い斑点や裂け目を素早くかがる際に適しています。補強繕い縫いプログラム No. 23 では、すべての布地の縦糸を交換します。



繕い縫いプログラムで、破れた箇所全体をカバーできない場合には、布地の位置を変えて、もう一度繕い縫いプログラムを行います。プログラムにセットした長さで何回でも繰り返して縫うことができます。



- > 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3A を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 補強繕い縫いプログラム No. 23 を選択します。
- > 薄手の布地を繕い縫い枠（オプションアクセサリ）にセットします。
 - 繕い縫いをする場所がよれたりずれたりするのを防ぎます。
- > 左上から縫い始めます。
- > 最初の一行を縦に縫います。
- > ミシンを止めます。



- > «返し縫い» ボタンを押します。
 - 停止長さがプログラムされています。
- > 繕い縫いがされます。
 - ミシンは自動的に停止します。

6.11 布端の処理をする



ジグザグ縫い。No. 2 はすべての布地に適しています。また、伸縮性が必要なステッチや飾りステッチとしても使用できます。薄手の布地には繕い縫い用の糸を使用します。サテンステッチには振り幅が 0.3 – 0.7 mm の目の詰まった短いジグザグ縫いが向いています。サテンステッチはアップリケや刺しゅうに使うことができます。

前提条件：

- ・ 布端が丸まらないように平らにします。



- > 標準押え #1 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > ジグザグ縫い。No. 2 またはサテンステッチ No. 1354 を選択します。
- > 振り幅は広すぎないように、送り長さは長すぎないように設定します。
- > 布地の端が押え金の中央に来るようにセットして、針が生地の片側に刺さり、もう片方は空いているようにします。

6.12 ダブルオーバーロック



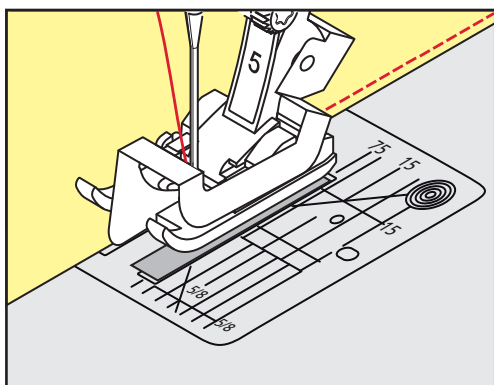
ダブルオーバーロックステッチは目の粗いニット地やジャージーに適しています。ニット地には、細かい編み目に穴を開けてしまわないよう、新しいジャージー針を使用することをお勧めします。伸縮性のある布地にはストレッチ針を使用します。

- > 標準押え #1 または オーバーロック縫い押え #2（オプション）を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > ダブルオーバーロック No. 10 を選択します。



6.13 布端のトップステッチ（小幅）

- > まつり縫い押え #5 または 端縫い押え #10 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い。No. 1 を選択します。
- > 布端をまつり縫い押えのガイドの左側に合わせます。
- > 針基線をトップステッチをしたい位置にあわせて設定します。

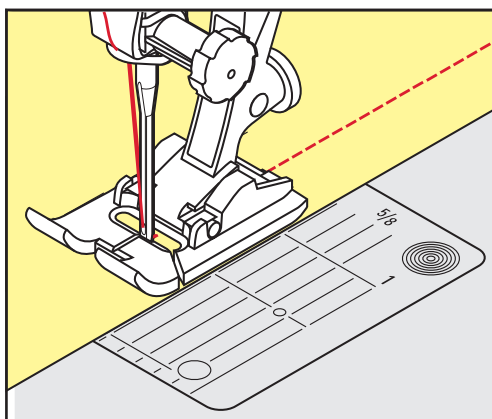


6.14 布端のトップステッチ（大幅）

- > 標準押え #1 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い。No. 1 を選択します。
- > 縁を押え金に沿って、またはマーキングに沿って1~2.5cmの位置に誘導します。



- > 針基線をトップステッチをしたい位置にあわせて設定します。

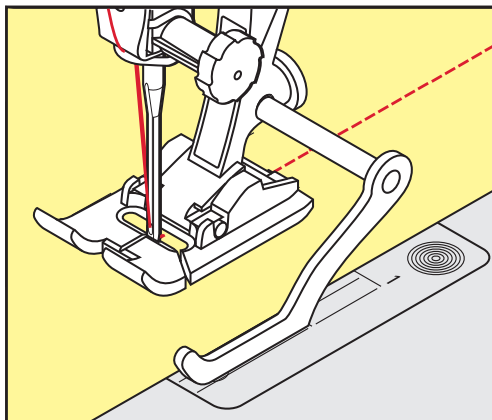


6.15 シームガイドを使用したトップステッチ

すでに縫った縫い目に対して、平行で幅の広いトップステッチをする場合には、シームガイドを使用することをお勧めします。



- > 標準押え #1 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い。No. 1 を選択します。
- > 押え金の後ろのネジを緩めます。
- > シームガイドを押えの穴に差し込みます。
- > 必要な幅に調節します。
- > ネジを締めます。
- > 布端をシームガイドに合わせます。



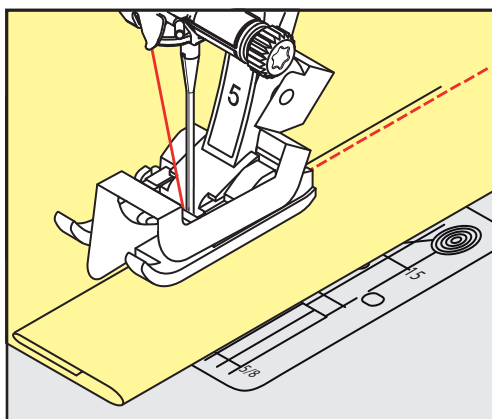
6.16 裾を縫う

まつり縫い押え #5 を使用する際は、針の位置を左いっぱい、または右いっぱいに設定することをお勧めします。標準押え #1 や 端縫い押え #10 では、すべての針位置が可能です。

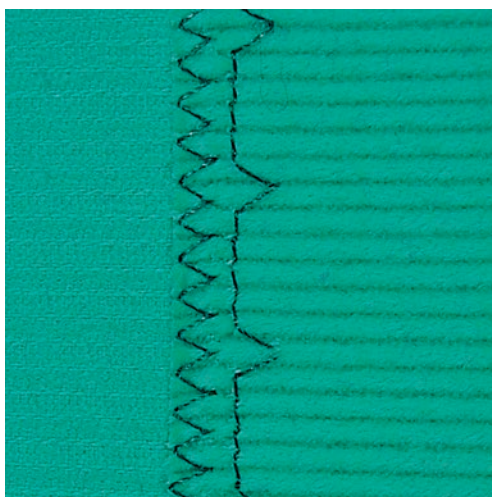


- > まつり縫い押え #5 または 標準押え #1 または 端縫い押え #10 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い。No. 1 を選択します。
- > 内側の折り目をまつり縫い押えのガイドの右側に合わせます。

> 裾上端を縫う場合は、針の位置を右いっぱいセットします。



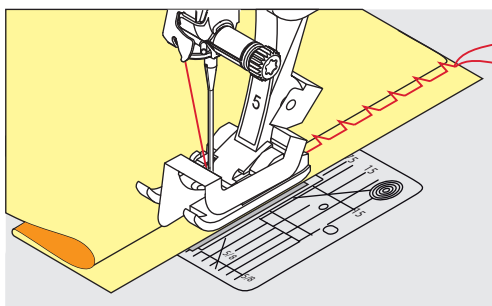
6.17 まつり縫い



綿、毛および混紡の中厚地～厚地の目立たない縁縫いに。

前提条件：

- ・ 布端の処理をします。
- > まつり縫い押え #5 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > まつり縫い No. 9 を選択します。
- > 処理した布端が右側に来るように布地を折ります。
- > 布地を押え金の下に入れ、折り山が押え金のガイドの左側に沿うようにセットします。
- > 均等な位置にかがり縫いをするには、折り目の端を押え金のガイドに沿って縫います。
 - 針が折り目の端のぎりぎりの位置に刺さるように注意します。
- > 約10 cmまつり縫いしたヘムを布地の両側から確認して、必要に応じてステッチ幅を調整します。



6.18 飾りヘムステッチ

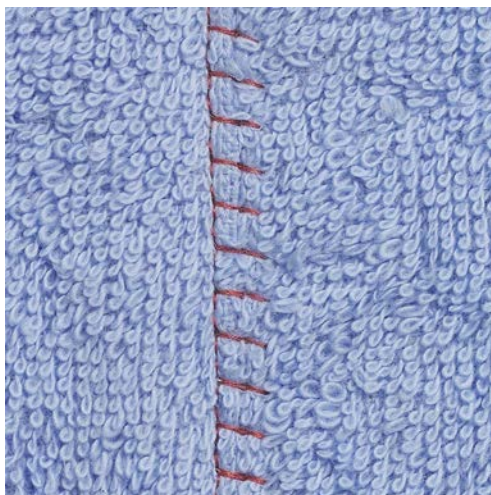


飾りヘムステッチはジャージー、綿、毛、化学繊維および混紡の伸縮性のある布地の裾に向いています。

- > 標準押え #1 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > トリコットステッチ No. 14 を選択します。
- > 裾にアイロンをかけ、必要であればしつけをします。
- > 押え圧を必要に応じて弱くします。
- > 縫いたい位置に合わせて表側を縫います。
- > 裏側のはみ出た布地を切り落とします。



6.19 フラット縫い

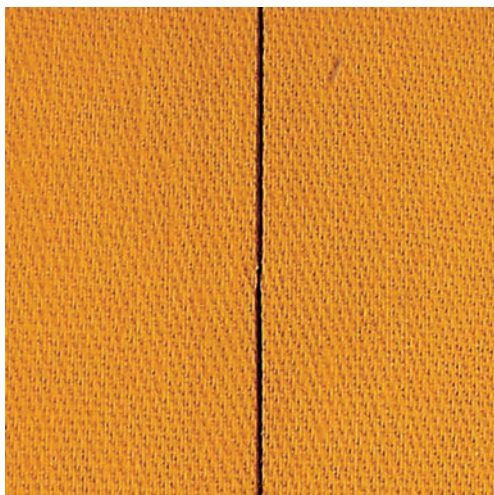


フラット縫いはふわふわしたまたは厚いタオル地やフェルト、皮革などに適しています。

- > 標準押え #1 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > ストレッチオーバーロック No. 13 を選択します。
- > 布端を重ねます。
- > 布端に沿って縫います。
- > 非常に平らで安定した縫い目になるように、針が布地の上端から下の布地に向かって正しく突き刺さるようにします。



6.20 しつけ縫い



しつけ縫いには、取り除くときに楽な細い繕い縫い用の糸を使用することをお勧めします。しつけ縫いステッチ No. 21では4回送る毎に1針が縫われます。しつけ縫いステッチは、一目が長いステッチが必要な場合に使用します。

- > つくろい縫い押え #9（オプション）を取り付けます。
- > 送り歯を下げます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > マニュアルタッキングステッチ No. 30 を選択します。
- > 布の層がずれないように、布の層をしつけ縫いの方向に沿ってピンで留めて固定します。
- > 糸を押さえて、はじめに3-4針の留め縫いをします。
- > 一針縫って、必要なステッチの長さだけ、布地を後ろ側に引っ張ります。
- > 一針縫います。
- > 縫い終わりに3-4針の留め縫いをします。



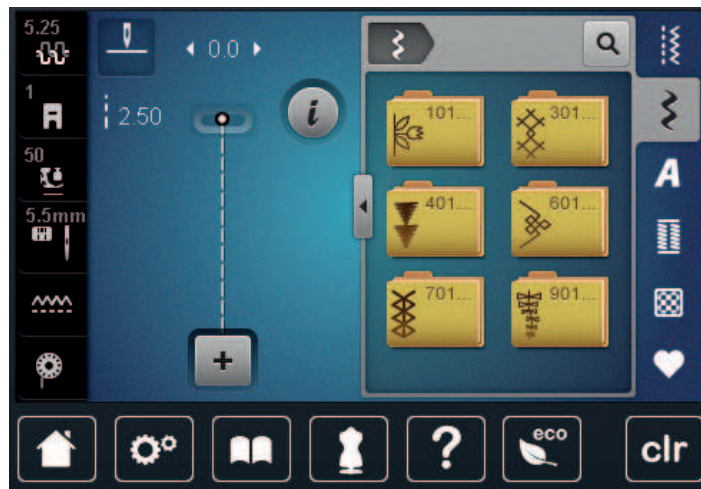
7 飾りステッチ

7.1 飾りステッチについて

布地のタイプに応じて、シンプルな、または凝った飾りステッチにすると効果的です。

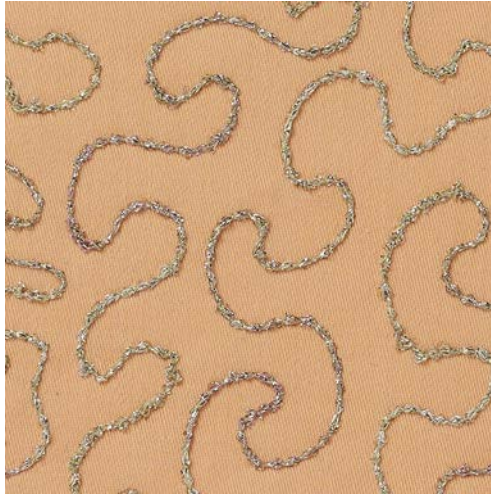
- ・ シンプルなストレートステッチでプログラムされた飾りステッチは、飾り縫いステッチ No. 101のような薄手の布地に特に適しています。
- ・ 3本のストレートステッチや数本のサテンステッチでプログラムされた飾りステッチは、飾り縫いステッチ No. 107のような中厚手の生地特に適しています。
- ・ サテンステッチでプログラムされた飾りステッチは、飾り縫いステッチ No. 401のような厚手の生地特に適しています。

きれいな飾りステッチを縫うには、上糸と下糸の色を合わせ、芯地を使用します。タオル地や毛足の長い布地には更に表側に、ステッチを縫った後に落とせるの水溶性の芯地を使用することをお勧めします。



飾り縫いステッチ	カテゴリー	名称
	カテゴリー 100	自然
	カテゴリー 300	クロスステッチ
	カテゴリー 400	サテンステッチ
	カテゴリー 600	幾何学模様ステッチ
	カテゴリー 700	ホワイト刺しゅうステッチ
	カテゴリー 900	キッズステッチ

7.2 ボビンマジック



ボビンに糸以外のコードなどを巻いて縫うことができます。フリーモーションで布地を送ります。通常のフリーモーションソーイングと同じ要領ですが、飾り付けるのは裏側です。

飾り縫いをする部分は刺しゅう用の安定紙で補強します。パターンは、生地裏側に描くことができます。パターンは、生地表側に描くことも可能です。その上で、ポリエステル、コットン、レーヨンなどの糸を使って、フリーモーションの直線縫いでラインを縫い付けていきます。裏側に出たステッチラインをガイドにしてボビンワークをしていきます。

ボビンワークにBSR機能を使用することができます。作品を一定の速度で均等に動かしてデザインを縫います。縫い終わったら安定紙を取り除きます。

まず始めに試し縫いをして仕上がりをチェックします。

全ての飾りステッチがこの手法に適しているわけではありません。シンプルな飾りステッチが最も適しています。サテンステッチのような目の詰まったステッチやボタンホールなどは避けてください。

注意

適切でないボビンケースを使用した場合

ボビンケースが破損する恐れがあります。

> ボビンワーク用ボビンケース（オプションアクセサリ）を使用してください。

> オープン刺しゅう押え #20 を取り付けます。

> «飾りステッチ»をタップします。

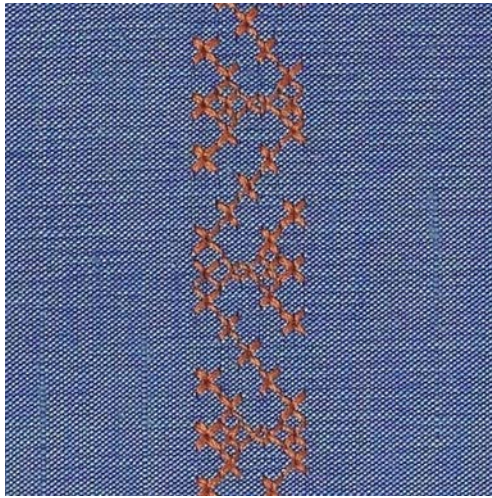
> 適した飾り縫いステッチを選択します。

> 太い糸で縫ってもきれいな縫い目になるように、ステッチの長さや幅を調整するには、「マルチファンクションノブを上」に「マルチファンクションノブを下」を回します。

> 上糸調子を調整するには、「上糸調子」をタップします。



7.3 クロスステッチ



クロスステッチは伝統的なテクニックで、よく使われる飾りステッチです。リネン生地にクロスステッチを縫い付けると、手刺しゅうのように見えます。クロスステッチに刺しゅう糸を使用すると、ステッチパターンがとてもきれいに仕上がります。クロスステッチはホームデコレーションや洋服の縁飾り、色々な飾り縫いに適しています。最初の列が歪むと、仕上がりに大きく影響するので、一列目をまっすぐに縫うことが重要です。

- > 標準押え #1 または オープン刺しゅう押え #20 を取り付けます。
- > カテゴリー300のクロスステッチを選択し、必要であればコンビネーションを作ります。
- > 最初の列を確実にまっすぐに縫うには、シームガイド（オプションアクセサリー）またはエッジストップ（オプションアクセサリー）の使用をお勧めします。
- > 2列目を押え金の幅に合わせるか、シームガイドを使って最初の列の横に縫います。

7.4 ピンタック

ピンタック



ピンタックは細くつまんだひだを縫ったもので、作品を型紙に合わせてカットする前に前もって縫っておきます。ピンタックは、飾り縫いやホワイトワークなど他の刺しゅうとのコンビネーションに適しています。この手法は、タックフットを使うことで、大幅に簡略化することが可能です。ピンタックでは布のサイズが縮小されます。十分な大きさの布地を用意してください。

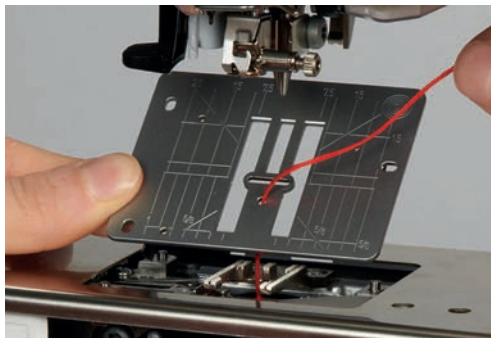
タックフットの概要

ピンタック押え	番号	説明・用途
	# 30 (オプションアクセサリー)	3本溝 厚地に。 4 mm 幅の二本針
	# 31 (オプションアクセサリー)	5本溝 中厚地から厚地に。 3 mm 幅の二本針
	# 32 (オプションアクセサリー)	7本溝 薄地から中厚地に。 2 mm 幅の二本針
	#33 (オプションアクセサリー)	9本溝 とても軽い素材用 (アクセントヤーンなし)。 1または1.6 mm幅の二本針
	# 46C (オプションアクセサリー)	5本溝 1.6 - 2.5 mm 幅の二本針 極薄地から中厚地に。

アクセントヤーンの引き込み

タックは、アクセントヤーンで縫うと、より特徴的でレリーフのように見えます。アクセントヤーンは、各々の押え金の溝にぴったり収まるものでなければなりません。アクセントヤーンは色落ちしないもの、縮まないものでなければなりません。

- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > 針を取り外します。
- > 押え金を取り外します。
- > 針板を取り外します。
- > 釜カバーを開けます。
- > アクセントヤーンを下から釜の隙間部分を通して針板の穴に通します。
- > 針板を再び取り付けます。
- > 釜カバーを閉じます。
- > アクセントヤーンは、釜カバーの細い隙間をガイドに使って自由に送れるようにします。



- > レバーに糸コマを取り付けます。



- > アクセントヤーンがスムーズに動くかどうか確認します。
- > ソーイング中、糸が釜カバーの穴をスムーズに通らない場合には、釜カバーを開けたままにします。
- > 釜を開けたままにする場合、下糸センサーをセットアッププログラムでオフにします。
 - 縫っている途中でアクセントヤーンは布の裏側で下糸で固定され/縫いこまれていきます。

ピンタックを縫う

- > 適当な二本針を取り付けます。
- > 二本針に糸をかけます。
- > 下糸を上を持ってきます。
- > 最初のピンタックを縫います。
- > 最初のピンタックを、必要なピンタックの間隔に合った押えの溝の一つに合わせます。
- > 残りのピンタックを最初のピンタックと平行に縫います。

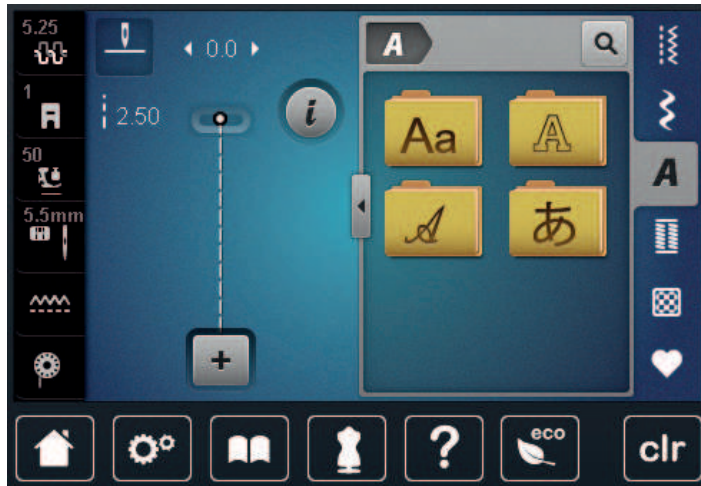


8 アルファベット

8.1 アルファベットについて

小文字のブロック体を縫うこともできます。

きれいなステッチを縫うには、上糸と下糸に同じ色の糸を使用します。作品は裏側を安定紙で補強できます。タオル地や毛足の長い布地にはさらに布地の表側に水溶性の安定紙を使用することをお勧めします。



ステッチパターン	名称
ABCabc	ブロック体
ABC	白抜き文字
<i>ABC</i>	スクリプトフォント（斜体）
あいう	ひらがな

8.2 文字列を入力する



試し縫いには、実際に作品で使用する糸、布地、安定紙を使用することをお勧めします。また布地にしわが寄ったり、引っかかりたりせずに布送りが均一になるように注意します。ソーイング中には布地を引っ張ったり押し込んだり、押さえたりしないようにします。



- > «アルファベット»をタップします。
- > 書体を選択します。



- > «コンビネーションモード/シングルモード»をタップして、コンビネーションを作成します。

> «ウィンドウの拡大／縮小» (1) をタップして、その他の入力モードを表示します。



> 文字を選択します。

ABC

> «大文字» をタップすると、大文字になります (標準設定)。

abc

> «小文字» をタップすると、小文字になります。

123

> «数字および数学記号» をタップすると、数字の入力ができます。

@&!...

> «特殊文字» をタップすると、特殊文字を入力できます。



✕

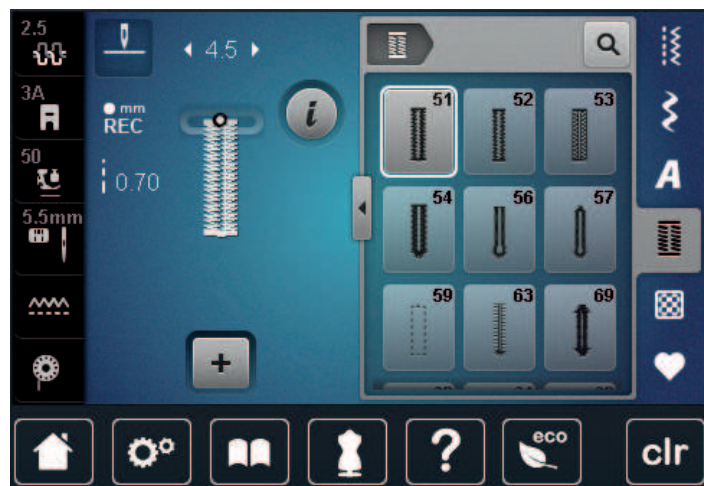
> «消去» をタップすると、入力したテキストの文字が一つずつ削除されます。

> «ウィンドウの拡大／縮小» をもう一度タップすると、その他の入力モードが閉じます。




9 ボタンホール

9.1 ボタンホール

BERNINA 720はボタンホールのコレクションを豊富に備え、どのボタン、目的、衣服にでも適切なボタンホールを作ることができます。ボタンもミシンで縫うことができます。アイレットも同様に縫うことができます。



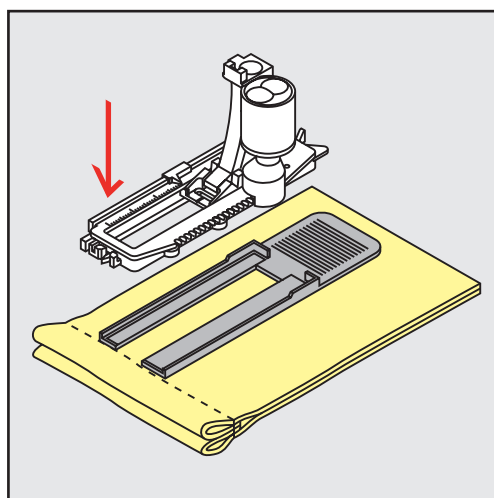
ステッチパターン	ステッチ番号	名称	特徴・用途
	51	標準ボタンホール	ブラウス、ドレス、ベッドリネンなどの薄手から中程度の厚さの生地に。
	52	ナローランドリーボタンホール	ブラウス、ドレス、子供服、ベビー服、手芸品などの薄手から中程度の厚さの生地に。
	53	ストレッチボタンホール	伸縮性のある生地全般に。
	54	標準バータック付きラウンドボタンホール	ドレス、ジャケット、コート、レインウェアなどの中～厚手の生地に。
	56	はと目ボタンホール	ジャケット、コート、レジャーウェアなど、厚手の非伸縮性生地に。
	57	ポイントバータック付きはと目ボタンホール	ジャケット、コート、レジャーウェアなど、より丈夫で伸縮性のない生地に。
	59	直線縫いボタンホール	ボタンホールの予備縫いや補強用として、またパイピングボタンホール、特に革やフェイクレザーのボタンホール用として。
	60	ボタン付けプログラム	2つ穴と4つ穴のボタンの縫い付け用に。
	61	ジグザグアイレット	コードまたは細い紐の穴に、飾りに。

	62	直線アイレット	コードまたは細い紐の穴に、飾りに。
	63	手縫い風ボタンホール	軽～中程度の重量の生地での、衣料品や手芸品のハンドステッチ効果のために。
	69	ダブルポイントバータック付き飾りボタンホール	しっかりした非伸縮性の布地の飾りボタンホールに。

9.2 高さ調節板を使用する

ボタンホールをコーナーや段差部に縫うときは、ボタンホール用高さ調節板（オプションアクセサリ）を使用することをお勧めします。

> 高さ調節板を後ろから布地と押え金の間に差込み、段差のある部分にセットします。

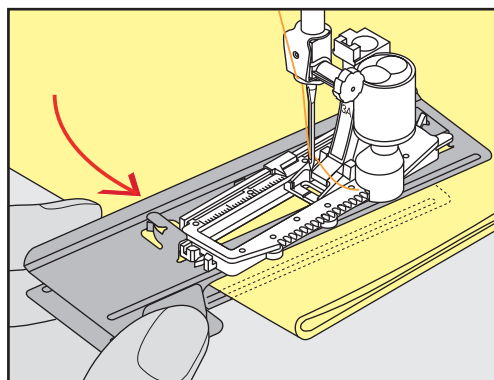


> 押え金を下げます。

9.3 ボタンホール用布送りサポートを使用する

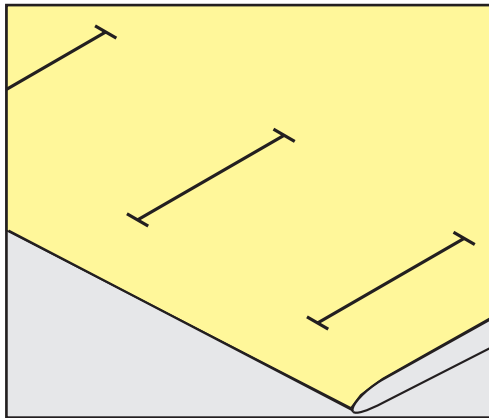
固い布地にボタンホールを縫う場合には、布送りサポート（オプションアクセサリ）の使用をお勧めします。布送りサポートは 布ガイド付き自動ボタンホール押え#3A と一緒に使用します。

> 高さ調節板を横からゆっくりと差し込みます。

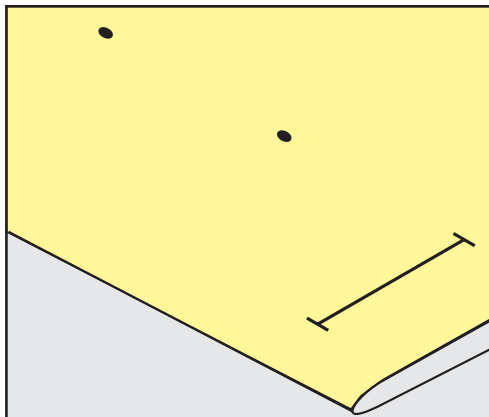


9.4 ボタンホールの印をつける

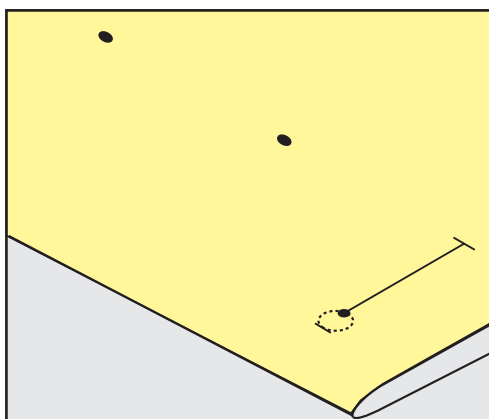
- > 手でボタンホールを縫う場合には、布地に全てのボタンホールの位置と長さをチャコペンまたは水性ペンで書きます。



- > 自動でボタンホールを縫う場合には、布地に最初のボタンホールの位置と長さをチャコペンまたは水性のペンで書き、残りのボタンホールは縫い始めの位置のみに印をつけます。



- > はと目ボタンホールおよびラウンドボタンホールを縫う場合には、布地にボタンホールの長さをチャコペンまたは水性のペンで書き、残りのボタンホールは縫い始めの位置のみに印をつけます。はと目の部分はボタンホールの長さに加えて縫われます。



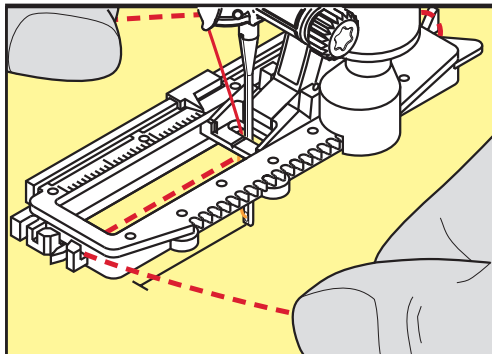
9.5 ボタンホール芯

コード芯を布ガイド付き自動ボタンホール押え #3A と一緒に使用します

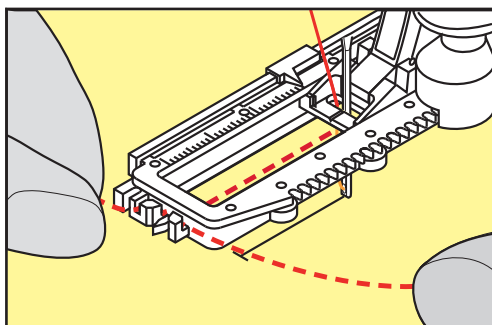
ボタンホール芯はボタンホールの強度を強くまた仕上がりをよくし、特に標準ボタンホールNo. 51 に適しています。使用するボタンホール芯はパールコットン刺しゅう糸の8番、強度のある手縫い用糸、およびかぎ編み用糸が理想的です。ボタンホールを縫う際にはボタンホール芯を押さえないようにします。

前提条件：

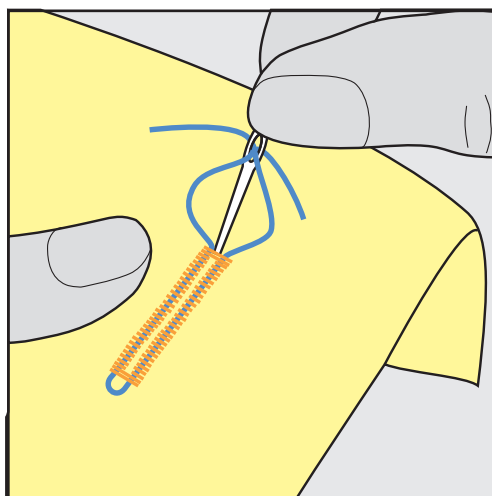
- ・ 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3A を取り付けたら、上に上げます。
- > ボタンホールの縫い始めの位置に針を刺します。
- > ボタンホール芯を布ガイド付き自動ボタンホール押えの右下に入れます。
- > ボタンホール芯を押えの後方にあるピンに引っ掛けます。



- > ボタンホール芯を押えの左下から前に引っ張ります。



- > ボタンホール芯の端を止め具に引っ掛けます。
- > 布ガイド付き自動ボタンホール押えを下げます。
- > ボタンホールを縫います。
- > ボタンホール芯のループがボタンホールの縫い目の下に隠れるように引っ張ります。
- > ボタンホール芯の終わりを、手縫い針を使用して布の裏側に出し、結ぶか留め縫いをします。

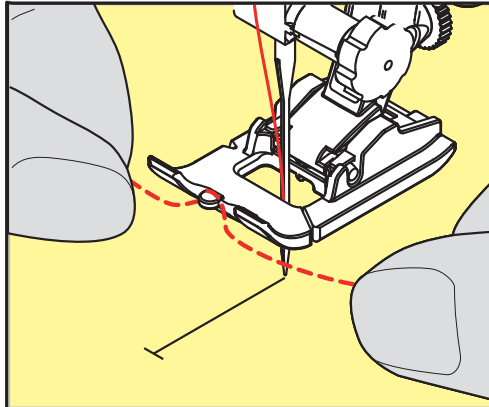


ボタンホール芯をボタンホール押え#3と一緒に使用します

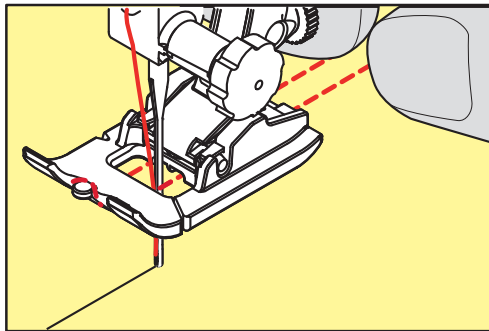
前提条件：

- ・ ボタンホール押え #3 を取り付けたら、上に上げます。

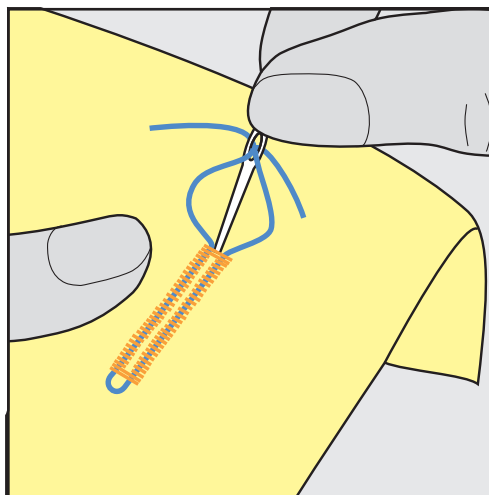
- > ボタンホールの縫い始めの位置に針を刺します。
- > 押えの前方の突起にボタンホール芯を引っ掛けます。



- > ボタンホール芯の両端を押えの後ろにもって行き、それぞれの芯糸を押えの溝に入れます。



- > ボタンホール押えを下げます。
- > ボタンホールを縫います。
- > ボタンホール芯のループがボタンホールの縫い目の下に隠れるように引っ張ります。
- > ボタンホール芯の終わりを、手縫い針を使用して布の裏側に出し、結ぶか留め縫いをします。



9.6 試し縫いをする

ボタンホールの試し縫いをする際には、常に作品と同じ布地を使用します。芯地およびボタンホールの種類も、作品と同じものを使用することをお勧めします。縫う方向も作品に合わせます。試し縫いをして、完璧なボタンホールができるまで設定を調整します。

直線縫いボタンホールNo. 59 は、柔らかく目の粗い織地や、強度の必要なボタンホールに適しています。皮革やビニール地、フェルトなどにボタンホールを縫う際、下縫いをする事で強度を増すことができます。

手で標準ボタンホール、および自動のはと目ボタンホール、ラウンドボタンホールなどを縫う際にバランスを調節すると、調節は両側の縫い目に均等に有効になります。手動ではと目ボタンホールまたはラウンドボタンホールを縫う際にはバランスは左右対称になります。

ステッチカウンタ機能がオンになっていて、バランスの変更をすると、それぞれの穴かがりのバランスが別々に調節されます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > ボタンホールを選択します。
- > 使用したい押え金を取り付けます。
- > 布地を押え金の下に入れ、押え金を下げます。
- > フットコントローラーを軽く踏んで縫い始めます。布地を軽く持ってスムーズに送ります。
- > ソーイング中にバランスをチェックして、必要があれば調節します。
- > 試し縫いしたボタンホールをチェックして、必要に応じてその他の設定を調整します。

9.7 ボタンホールの穴幅を設定する

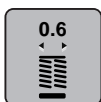
ボタンホールの穴幅を0.1-2.0mmの間で設定することができます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > ボタンホールを選択します。



- > «iダイアログ»をタップします。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > 多機能ボタン 上または「多機能ボタン 下」を回して、ボタンホールの穴幅を設定します。

9.8 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを使用して、ボタンホールの大きさを決めます



ディスプレイの下部の黄色い丸枠の真ん中に直接ボタンを当てます。「多機能ボタン 上/下」を回すと、黄色い丸枠の大きさが変わり、ボタンの直径を測ることができます。

ボタンの直径には自動的に2 mmが加算され、ボタンホールの長さが出ます。例えば、ボタンの直径が14 mmの場合、ボタンホールの大きさは16 mmと計算されます。

前提条件：

- ・ 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3A を取り付けます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > ボタンホールを選択します。



- > «iダイアログ»をタップします。



- > «ボタンホールの長さを調整する»をタップします。
- > «多機能ボタン 上»または「多機能ボタン 下」を回して、ボタンホールの長さを設定します。

9.9 ボタンホール押え#3を使用して、ボタンホールの大きさを決めます

ボタンホール押え #3 を使用して、ステッチカウンタ機能でボタンホールの長さを決定します。ステッチカウンタ機能は全てのボタンホールに適しています。ボタンホールの左側は前進で、右側は後進で縫われます。バランスが変更された場合には、それぞれのボタンホールでステッチカウンタ機能を新しく保存しなおす必要があります。

前提条件：

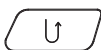
- ・ ボタンホール押え #3 を取り付けます。
- > «ボタンホール»をタップします。
- > ボタンホールを選択します。



- > «iダイアログ»をタップします。

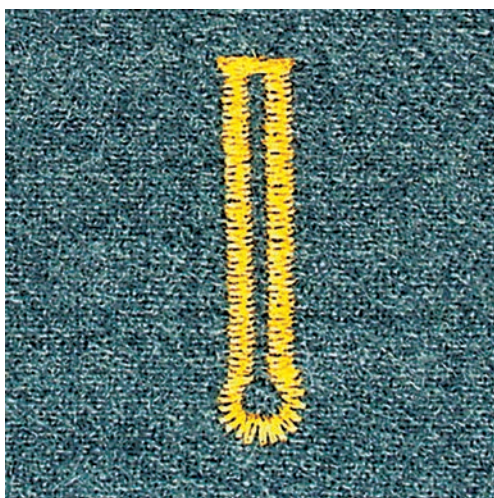
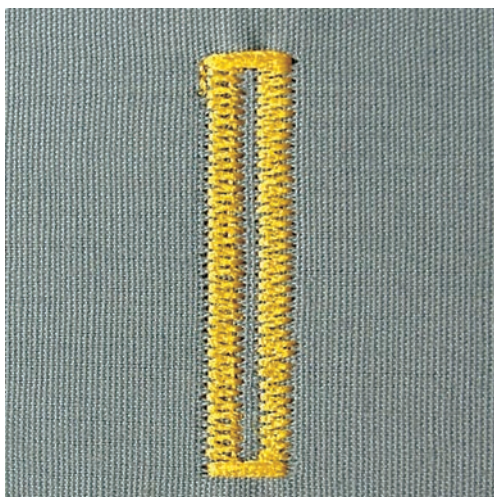


- > «ステッチカウンタで長さをプログラムする»をタップします。
- > 必要なボタンホールの長さを縫います。
- > ミシンを止めます。



- > «返し縫い» ボタンを押すと、ミシンが手前側のバータックと反対側の穴かがりを後進で縫います。
- > 最初の穴かがりの縫い始め位置まで来たら、ミシンを止めます。
- > «返し縫い» ボタンをもう一度押すと、ミシンが奥側のバータックと留め縫いを縫います。
 - ボタンホールの長さは、ミシンの電源を切るまで保存されるので、続けて同じボタンホールを縫うことができます。

9.10 ボタンホールを自動で縫う



布ガイド付き自動ボタンホール押え#3A を使用すると、押え金の下についたセンサーでボタンホールの長さが自動的に計測されます。同じ大きさのボタンホールを正確にコピーすることができ、ミシンはちょうどよい幅に自動で切り替えます。布ガイド付き自動ボタンホール押え#3A は、ボタンホールのタイ

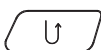
プによって 4 – 31 mm のボタンホールを縫う際に適しています。長さを正確に測るために、布ガイド付き自動ボタンホール押え#3A が布地に対して平行に接していなければなりません。プログラムされたボタンホールはすべて同じ長さでそろって縫われます。

前提条件：

- ・ 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3A を取り付けます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > ボタンホール No. 51 – 53および54、56、57、No. 63または69を選択します。
- > 必要なボタンホールの長さを縫います。



- > «返し縫い» ボタンを押して、ボタンホールの長さをプログラムします。



- > «スタート/ストップ» ボタンを押すか、フットコントローラーを踏み込みます。
 - ミシンがボタンホールを最後まで自動的に縫います。残りのボタンホールも同じように自動的に縫われます。

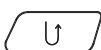
9.11 手縫い風ボタンホールをプログラムする

前提条件：

- ・ 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3A を取り付けます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > 手縫い風ボタンホール No. 63 を選択します。
- > 必要なボタンホールの長さを縫います。



- > «返し縫い» ボタンを押して、ボタンホールの長さをプログラムします。
 - ミシンがボタンホールを最後まで自動的に縫います。残りのボタンホールも同じように自動的に縫われます。

9.12 7ステップ自動ボタンホールを縫う

ボタンホールの長さはソーイング中に好きなサイズに決められます。バータックとはと目、留め縫いはプログラムされています。各ステップは矢印アイコンでのスクロールおよび«返し縫い» ボタンで選択できます。

前提条件：

- ・ ボタンホール押え #3 を取り付けます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > 標準ボタンホール No. 51 を選択します。



- > «iダイアログ»をタップします。



- > «長さをマニュアルで設定する»をタップします。
 - ディスプレイにステップ1がボタンホールの縫い始めとしてアクティブになります。

- > 必要なボタンホールの長さを縫います。
 - 縫い始めにはステップ2がアクティブになります。



- > 必要なボタンホールの長さまたは印をつけた位置で、ミシンを止めます。
- > 「スクロール 下」をタップすると、ステップ3が表示されます。
 - ミシンが逆方向に直線縫いをします。
- > ボタンホールの縫い始め位置まで来たら、ミシンを止めます。
- > 「スクロール 下」をタップすると、ステップ4が表示されます。
 - ミシンが奥側のバータックを縫い、自動的に停止します。
- > 「スクロール 下」をタップすると、ステップ5が表示されます。
 - ミシンがもう一つの穴かがりを縫います。
- > 最初の穴かがりの縫い始め位置まで来たところでミシンを止めます。
- > 「スクロール 下」をタップすると、ステップ6が表示されます。
 - ミシンが手前側のバータックを縫い、自動的に停止します。
- > 「スクロール 下」をタップすると、ステップ7が表示されます。
 - ミシンが留め縫いをして、自動的に止まります。

9.13 5ステップ自動ボタンホールを縫う

ボタンホールの長さはソーイング中に好きなサイズに決められます。バータックとはと目、留め縫いはプログラムされています。各ステップは矢印アイコンでのスクロールおよび「返し縫い」ボタンで選択できます。

前提条件：

- ・ ボタンホール押え #3 を取り付けます。



- > 「ボタンホール」をタップします。
- > 標準バータック付きラウンドボタンホール No. 54 を選択します。



- > 「iダイアログ」をタップします。



- > 「長さをマニュアルで設定する」をタップします。
 - ディスプレイにステップ1がボタンホールの縫い始めとしてアクティブになります。

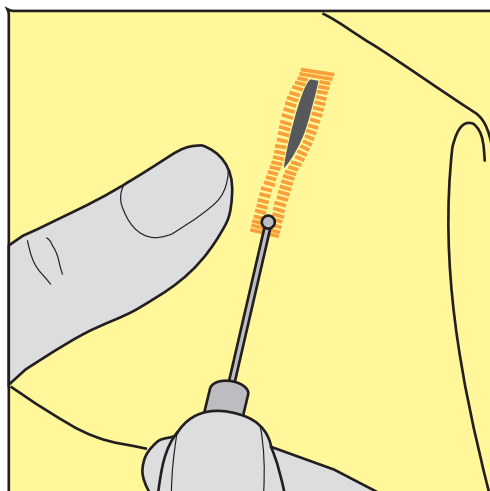
- > 必要なボタンホールの長さを縫います。
- ステップ2がアクティブになります。



- > 必要なボタンホールの長さまたは印をつけた位置で、ミシンを止めます。
- > «スクロール 下» をタップすると、ステップ3が表示されます。
- > ミシンがbartackまたははと目を縫って、自動的に止まります。
- > «スクロール 下» をタップすると、ステップ4が表示されます。
- ミシンがもう一つの穴かがりを後進で縫います。
- > ボタンホールの縫い始め位置まで来たところでミシンを止めます。
- > «スクロール 下» をタップすると、ステップ5が表示されます。
- ミシンが奥側のbartackを縫い、自動的に縫い止めします。

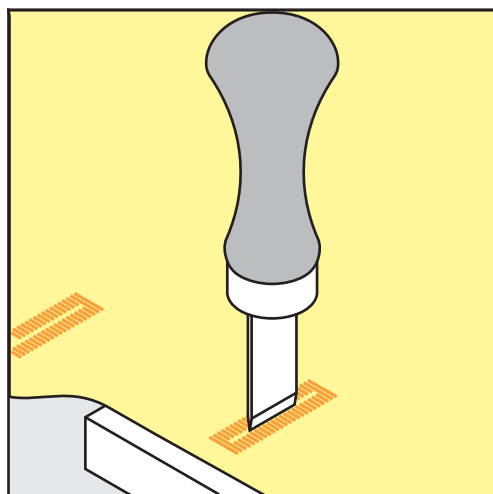
9.14 ボタンホールをシームリッパーで切り開く

- > bartackを切らないように、両端にまち針を刺しておきます。
- > ボタンホールの両端から真ん中に向けて、ボタンホールを切り開いていきます。



9.15 ボタンホールカッター（オプションアクセサリ）でボタンホールを切り開く

- > ボタンホールを木片などの上に置きます。



- > ボタンホールカッターをボタンホールの真ん中に合わせます。
- > ボタンホールをカッター下へ強く押しします。

9.16 ボタンを縫い付ける

ボタン付けプログラムでは2つ穴または4つ穴のボタン、およびスナップボタン、留め具などを縫い付けることができます。

推奨ソーイングプログラム： ボタン付けプログラム No. 60

推奨押え金： ボタン付け押え #18

使用できる押え金：

- ・ 標準押え #1
- ・ つくろい縫い押え #9
- ・ 透明の押え金の付いた標準押え #34

糸足の調節

厚地にボタンを付ける場合には、糸足（ボタンと布地の間の隙間）を長くします。

薄地にボタンを付ける場合、また飾りボタンの場合には、糸足を作らずに縫い付けます。

注意！ 糸足の調節は、ボタン付け押え#18を使用した場合にのみできます。

- > ボタン付け押えのネジを緩めます。
- > 押え金の爪を布地の厚さに合わせて調節します。
- > ネジを締めます。

ボタンを縫い付ける

前提条件：

- ・ 糸足を布地の厚さに合わせて調節します。
- ・ ボタン付け押え #18 またはその他のボタン付けに使用できる押え金を取り付けます。
- ・ 取り付けた押え金をユーザーインターフェースで選択します。
- ・ 送り歯を下げます。

> «ボタンホール»をタップします。

> ボタン付けプログラム No. 60 を選択します。

> はずみ車を回して、下糸を上に出します。

> **注意！** ボタン付けプログラムでは常に左側のボタン穴から縫い始めます。

ボタンを布地の上に置きます。ボタンと布地を針の下に、針が左側のボタン穴に刺さるように置きます。

4つ穴ボタンの場合には、まず始めに手前の2つのボタン穴を縫ってから、奥の2つのボタン穴を縫います。



- > 押え金を下げます。
- > はずみ車を回して、左側のボタン穴に針を刺します。
- > 針が右側のボタン穴に移動するまで、はずみ車を回します。針が右の穴に当たるかどうかを確認します。必要に応じて、多機能ボタン 上を回して振り幅を調節します。
- > 糸を押さえて、フットコントローラーを踏みます。
 - ミシンがボタンを縫い付け、自動的に停止します。
- > ボタンをよりしっかりと縫い付けたい場合には、ボタン付けプログラムをもう一度行います。
- > ミシンの糸切りで糸を切ります。または、作品をミシンから引っ張り、ハサミで糸を切ります。上糸を布地の裏に引き出し、下糸と一緒に結びます。

9.17 アイレットを縫う



二重に縫うと、よりしっかりしたアイレットが縫えます。必要に応じてバランスを調整します。

前提条件：

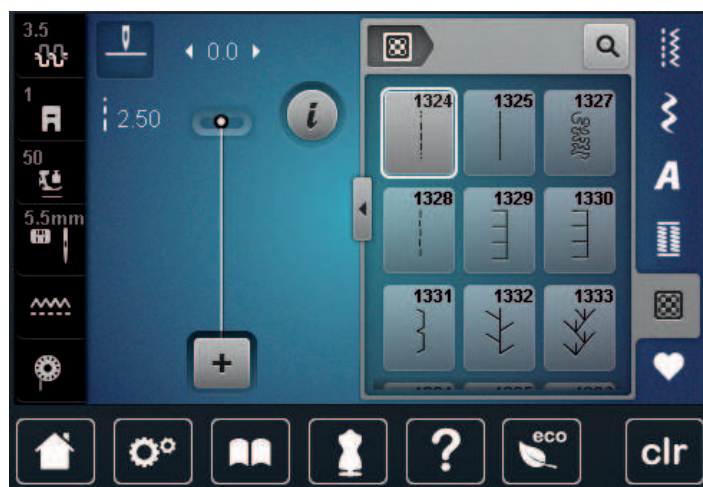
- 標準押え #1 またはオープン刺しゅう押え#20 を取り付けます。






- > «ボタンホール»をタップします。
- > ジグザグアイレット No. 61 または直線アイレット No. 62 を選択します。
- > «多機能ボタン 上»または«多機能ボタン 下»を回して、ボタンホールの大きさを変更します。
- > アイレットプログラムを縫います。
 - ミシンはアイレットプログラムを縫い終わると自動的に停止します。
- > 目打ちやパンチプライヤー、穴あけなどでアイレットの穴を開けます。

10 キルティング

10.1 キルトステッチについて



ステッチパターン	ステッチ番号	名称	説明
	No. 1324	キルティング、縫製プログラム	縫い始めと縫い終わりに前進で短い留め縫いをします。
	No. 1325	キルティング、直線縫い	長さ3 mmの直線縫いでのマシンキルティング用。
	No. 1327	スティッピングステッチ/蛇行ステッチ	メアンデルステッチ風に。
	No. 1328	手縫い風キルトステッチ	モノフィラメント糸を使った、手縫い風の縫い付け作業に。
	No. 1329	ブランケットステッチ	アップリケや、飾りリボンの縫い付けに。
	No. 1330	ダブルブランケットステッチ	アップリケや、飾りリボンの縫い付けに。
	No. 1331	細いまつり縫い	アップリケを見えないように縫い付ける際に。
	No. 1332	フェザーステッチ	キルティング、クレイジーパッチワークや、デコレーション、装飾を施す際に。
	No. 1333 – No. 1338	フェザーステッチ	キルティング、クレイジーパッチワークや、デコレーション、装飾を施す際に。
	No. 1339 – No. 1345, No. 1355 – No. 1359, No. 1396	飾り縫いキルトステッチ	キルティング、クレイジーパッチワークや、デコレーション、装飾を施す際に。
	No. 1346, No. 1347, No. 1348	飾り縫いキルトステッチ	キルティング、クレイジーパッチワークや、デコレーション、装飾を施す際に。

ステッチパターン	ステッチ番号	名称	説明
	No. 1352	ブランケットステッチ (上送り)	「クレイジーパッチワーク」など、2つのアップリケの間の端を縫い付ける際に。
	No. 1353	ダブルブランケットステッチ (上送り)	「クレイジーパッチワーク」など、2つのアップリケの間の端を縫い付ける際に。
	No. 1354	サテンステッチ	アップリケに。

10.2 キルティング用留め縫いプログラム

前提条件：

- ・ 標準押え #1 を取り付けます。

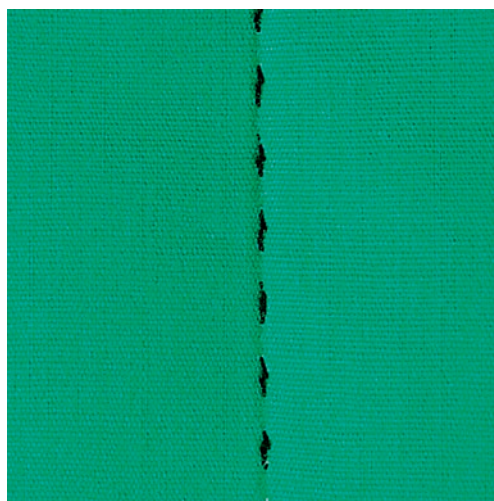


- > «キルトステッチ»をタップします。
- > 飾り縫いキルトステッチ No. 1324 を選択します。
- > フットコントローラーを踏み込みます。
 - 縫い始めにミシンが自動的に、前進で6針の留め縫いをします。
- > 必要な長さを縫います。



- > «返し縫い» ボタンを押します。
 - ミシンが自動的に、前進で6針の留め縫いをし、止まります。

10.3 手縫い風ステッチを縫う



手縫い風ステッチは、全ての布地、手縫い風に見せたい作品に適しています。上糸にはモノフィラメント糸を、下糸には刺しゅう糸を使用することをお勧めします。モノフィラメント糸が切れないように、ソーイングスピードは遅めに設定します。必要に応じて、上糸調子やバランスを作品や使用するキルトステッチに合わせて調節します。

前提条件：

- ・ 標準押え #1 を取り付けます。



- > «キルトステッチ»をタップします。
- > 手縫い風キルトステッチ No. 1328、No. 1346、No. 1347またはNo. 1348を選択します。
- > 必要に応じて、上糸調子やバランスを調節します。
- > フットコントローラーを踏むか、「スタート/ストップ」ボタンを押して、ミシンをスタートさせます。

10.4 フリーモーションキルティング



フリーモーションキルティングと繕い縫いは、同じ原理の手法です。ステッチリング模様は布地全体がキルトステッチで埋められます。キルティングのラインは丸く、ステッチ同士が交差しないように気をつけます。



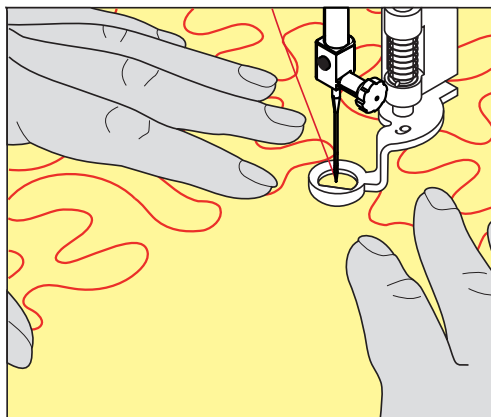
- ・ 滑り止め付きキルト用手袋を使用すると、布送りが簡単になります。
- ・ 最大限に良い結果を出すために 強テンションバルニナボビンケース（オプションアクセサリ）の使用を勧めします。
- ・ ソーイングテーブルと押え上げレバーの使用をお勧めします。
- ・ フリーモーションキルティングは中心から外に向かって縫っていき、作品をスムーズに丸く動かしながら、全体に導き、描きたいデザインを描いていくことをお勧めします。

前提条件：

- ・ キルトの表地、キルト芯、キルトの裏地をしっかりと留めておきます。
- ・ 送り歯を下げます。
- ・ つくろい縫い押え #9 を取り付けます。



- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い。No.1 を選択します。
- > 必要があれば、上糸調子を調整します。
- > 布地がずれるのを防ぐために、針の位置を下に選択します。
- > フットコントローラーを踏むか、「スタート/ストップ」ボタンを押して、ミシンをスタートさせます。
- > 両手を枠のようにして押え金のそばに置き、枠の中で布を動かすようにします。このとき、同じ場所に続けて針が刺さらないようにします。
- > 角のキルトティングをするときにはステッチの間隔を最小にするよう、ステッチ速度を落とします。
- > 糸が表側にたまる場合は、布送りを遅くします。
- > 裏側に糸ダマができる場合は、布送りを速くします。



11 ベルニナステッチレギュレーター(BSR)

ベルニナステッチレギュレーターは人気のフリーモーションソーイングでの送り長さを一定に保ちます。BSR押えをフリーモーションソーイングで使用すると、全てのステッチの長さが均一に保たれ、作品の見た目をきれいに仕上げることができます。

BSR押えが取り付けられ、送り歯が下げられると、ミシンのディスプレイ上に選択可能なモードが表示されます。BSR押えは直線縫い、ジグザグ縫いのどちらにも使用できます。

BSR押えは布地の動きに反応し、布を動かすことで最高速度までの範囲でミシンのスピードをコントロールできます。その際：布地を早く動かせば、ミシンのスピードも速くなります。

布地の動きが速すぎると、警告音が鳴ります。警告音は「BSR」ディスプレイでオン/オフの設定ができます。警告音はセットアッププログラムからもオン/オフの設定ができます。

11.1 BSRモード1

BSR機能はフットコントローラーまたは「スタート/ストップ」ボタンで操作することができます。BSRモードをスタートさせます。押え金の赤いランプが点灯します。布地を動かすことによって、ミシンのスピードをコントロールします。布地の動きを止めると、何もしなくてもその場で留め縫いをすることもできます。フットコントローラーまたは「スタート/ストップ」ボタンを使用する場合には、BSR 1モードは自動的に終了しません。

11.2 BSRモード2

BSR機能はフットコントローラーまたは「スタート/ストップ」ボタンで操作することができます。ミシンは、フットコントローラーを踏み込むか、「スタート/ストップ」ボタンが押されるのと同時に、布地を動かすことによって動き出します。布地の動きが止まってから約7秒後にBSR 2モードはオフになります。押え金の赤いランプは、「スタート/ストップ」ボタンでの操作時にのみ消え、フットコントローラーでの操作時には消えません。

11.3 BSR機能を直線縫いNo. 1で使用する

この機能を使用して、4 mmまでの送り長さの直線縫いを使用したフリーモーションキルティングができます。設定した送り長さは一定の速度までは、布地の動きに関係なく保たれます。

11.4 BSR機能をジグザグ縫いNo. 2で使用する

ジグザグステッチはスレッドペインティングに適しています。ジグザグステッチでは送り長さは保たれませんが、BSR機能が作業を簡単にします。

11.5 キルティングの準備をする

BSR押えを取り付ける

前提条件：

- ・ ミシンがオフになっています。

注意

BSR押えのセンサーが汚れていると

ミシンがBSR押えを認識しません。

> センサーを柔らかい、軽く湿らせた布で拭きます。

> 押え金を交換します。

- > BSR押えのコードを接続部 (1) に差し込みます。



- > ミシンの電源を入れます。
 - BSRディスプレイが開き、BSRモード1がオンになります。

押え底を交換する

注意

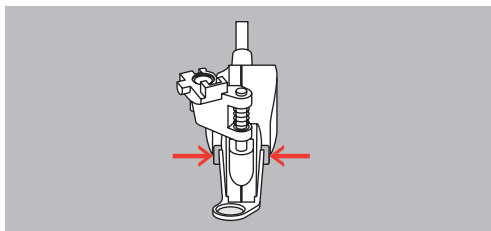
BSR押えのセンサーが汚れていると

ミシンがBSR押えを認識しません。

- > センサーを柔らかい、軽く湿らせた布で拭きます。

送り長さの標準設定は2 mmです。小さい模様を縫う場合、スティップリングをする場合には、送り長さを1-1.5 mmにすることをお勧めします。

- > 針を上げます。
- > BSR押えを上げます。
- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > BSR押えを外します。
- > BSR押えの横のボタンを両方押します。



- > 押え底を下に引き、はずします。
- > 新しい押え底をしっかりとハマるまで上に押し込みます。
- > BSR押えを取り付けます。

11.6 BSRモードを使用する




BSR機能はフットコントローラーまたは「スタート/ストップ」ボタンで操作できます。

フットコントローラーで縫う：キルティング中はフットコントローラーを踏んだままにします。布地を動かさなくても、フットコントローラーから足を離すまではBSRモード1が機能しています。

BSRモード2でキルティングを中止すると、針位置によってはミシンがもう一針縫って針位置を上にしてから停止します。

前提条件：

- ・ ソーイングテーブルを取り付けます。
- ・ 押え上げレバーを取り付けます。

- > 送り歯を下げます。
- > 使用したいBSRモードを設定します。
-  > «スタート/ストップ» ボタンを押すか、フットコントローラーを踏み込んで、押え金を下げます。
- > «スタート/ストップ» ボタンをもう一度押すか、フットコントローラーをもう一度踏み込み、踏んだままにして、BSRモードをスタートさせます。
 - BSR押えの赤いランプが点灯します。
-  > 布地を動かし、BSRモードでミシンのスピードをコントロールします。
- > «スタート/ストップ» ボタンをもう一度押すか、フットコントローラーから足を離して、BSRモードを終了します。
 - BSRモードが終了し、押え金の赤いランプが消えます。
-  > «BSRモード» をタップしてBSRモードをオフにすると、通常のフリーモーションキルティングができます。





11.7 留め縫い


BSRモード1で、「スタート/ストップ」ボタンを使用して留め縫いする

前提条件：

- ・ BSR押えを取り付け、ミシンに接続します。
- ・ BSRディスプレイが開き、BSRモード1がアクティブになっています。

- > 送り歯を下げます。
- > 押え金を下げます。
-  > «針上/下» ボタンを2回押します。
 - 下糸が出てきます。

- > 上糸と下糸を押えます。
-  > «スタート/ストップ» ボタンを押します。
 - BSRモードがスタートします。

- > 5-6針留め縫いをします。
-  > «スタート/ストップ» ボタンを押します。
 - BSRモードがストップします。
- > 糸を切ります。

BSRモード2での止め縫い

前提条件：

- ・ BSR押えを取り付け、ミシンに接続します。
- ・ BSRディスプレイが開き、BSRモード2がアクティブになっています。
- > 押え金を下げます。

12 マイベルニナ刺しゅう

12.1 刺しゅう機について



- | | | | |
|---|--------------|---|------------|
| 1 | 刺しゅうアーム | 3 | ミシンへの固定用金具 |
| 2 | 刺しゅう枠取り付け用金具 | 4 | ミシンへの接続プラグ |

12.2 刺しゅう機付属アクセサリー

刺しゅう機の付属アクセサリーについて



図	名称	用途
	しずく型刺しゅう押え #26	刺しゅうや繕い縫い、フリーモーションキルティングなどに。
	楕円形大型刺しゅう枠	広範囲の刺しゅうモチーフや 145 x 255 mm (5.70 x 10.04 in)以下の大きさの刺しゅう コンビネーションに。 布地の取り付けを正確にする、 テンプレート付き。

図	名称	用途
	<p>中型刺しゅう枠</p>	<p>100 x 130 mm (3.94 × 5.12 in) 以下の中型のモチーフを刺しゅうする際に。 布地の取り付けを正確にする、テンプレート付き。</p>
	<p>小型刺しゅう枠</p>	<p>72 × 50 mm (2.83 × 1.97 in) 以下の小型のモチーフを刺しゅうする際に。 フリーモーション刺しゅうや、袖やズボンの裾、靴下などの筒状の布地に刺しゅうをする際に。 布地の取り付けを正確にする、テンプレート付き。</p>
	<p>USB接続ケーブル</p>	<p>データをパソコンからミシンに取り込む際に使用します。</p>
	<p>刺しゅう針セット</p>	<p>刺しゅうに。</p>
	<p>テンプレート用つまみ</p>	<p>刺しゅうテンプレートを刺しゅう枠に取り付けたりはずしたりする際に使用します。</p>
	<p>糸こまネット</p>	<p>ナイロン糸、レーヨン糸、絹糸、メタリック糸などの滑りやすい糸で、糸こまから糸を均等に送り出します。</p>

12.3 ユーザーインターフェースについて

機能／表示について



- | | | | |
|---|-------------------|---|-----------|
| 1 | 《上糸調子》 | 4 | 《針板／針選択》 |
| 2 | 《押え金表示／押え金選択》 | 5 | 《送り歯 上／下》 |
| 3 | 《刺しゅう枠表示／刺しゅう枠選択》 | 6 | 《下糸》 |

システム設定について



- | | | | |
|---|---------------|---|----------|
| 1 | 《ホーム》 | 5 | 《ヘルプ》 |
| 2 | 《セットアッププログラム》 | 6 | 《エコモード》 |
| 3 | 《チュートリアル》 | 7 | 《設定をクリア》 |
| 4 | 《ソーイングアドバイザー》 | | |

刺しゅう選択メニューについて



- | | | | |
|---|------|---|--------|
| 1 | 《選択》 | 3 | 《色情報》 |
| 2 | 《編集》 | 4 | 《刺しゅう》 |

12.4 刺しゅうについての重要事項

上糸

刺しゅうの仕上がりをよくするために、また糸切れを起こさないために、高品質の刺しゅう糸を使用してください。

上糸を光沢のある細い刺しゅう糸にすることで、刺しゅうが特にきれいに仕上がります。多種多様で多彩な刺しゅう糸があります。

- ・ 光沢のあるポリエステル糸は色あせがなく、強度もあり、あらゆる刺しゅうに適しています。
- ・ レーヨン糸は輝きのある細い天然繊維から作られており、あまり強度を必要としない繊細な刺しゅうに向いています。
- ・ メタリック糸は細～中細の光沢のある糸で、刺しゅうに特殊効果を与えます。
- ・ メタリック糸を使用する際には、糸切りの刃が痛むのを防ぐため自動下糸切り機能をオフにし、その他の糸切りも使用しないでください。
- ・ メタリック糸で縫う際には、スピードを遅くし、上糸調子を緩めます。



下糸

ほとんどの場合、刺しゅうの下糸には黒か白の糸を使用します。刺しゅうの表と裏を同じように仕上げたい場合には、上糸と下糸の色を合わせます。

- ・ ボビン用下糸は特にしなやかな細いポリエステル糸で、刺しゅうの下糸に適しています。この特殊な下糸を使用することによって糸調子が安定し、上糸と下糸のバランスが最適になります。

- ・ 手縫い糸と刺しゅう糸はシルケット加工された木綿糸で、綿素材の布地に刺しゅうする際に適しています。



刺しゅうモチーフの選択

ステッチ数の少ないシンプルな刺しゅうモチーフは、薄地に適しています。色を多く使い、多方向に広がる目のつまった刺しゅうモチーフには、中地や厚地の布地を選びます。

刺しゅうデータフォーマットの選択

ベルニナ刺しゅう機が刺しゅうモチーフを読み込めるように、刺しゅうモチーフのデータはベルニナ刺しゅうソフトウェアを使用して作成し、エクスポートする必要があります。刺しゅうデータ自身に加えて、BMPデータおよびINFデータが生成されます。BMPデータは刺しゅうモチーフのプレビュー用に、INFデータには糸の色情報が保存されています。**ヒント：**INFデータがないと、刺しゅうモチーフが正しい糸の色ではなく、標準色のみで表示されてしまいます。この場合、モチーフの色一覧からミシンに正しい色を取り込む必要があります。

さらに以下のフォーマットをミシンで読み込むことができます：PES、PEC、XXX、PCS、JEF、DST。ベルニナインターナショナル株式会社は、ベルニナ刺しゅうソフトウェアを使用した以外で作成およびコンバートされた刺しゅうモチーフについては、正しいデータの読み込みとモチーフが正しく刺しゅうされることを保証いたしません。

試し縫い

試し縫いは、常に作品と同じ布地と安定紙を使用します。また、実際に使用する糸や針を使用することをおすすめします。

刺しゅうモチーフの大きさ

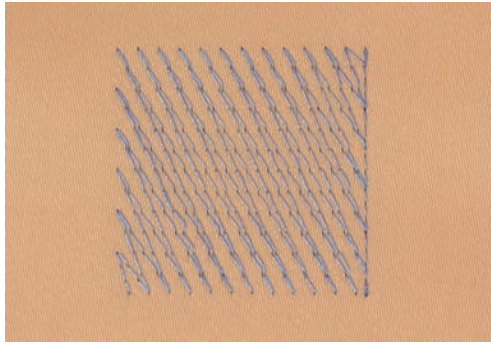
刺しゅうモチーフは刺しゅう機またはパソコンでベルニナの刺しゅうソフトウェア（オプション）を使用して、サイズの変更ができます。20%以内の拡大・縮小が最適な仕上がりになります。

サードパーティーからのモチーフを刺しゅうする

BERNINAはどんなフォーマットのデータでも、ミシンまたはUSBメモリーに保存する際、無料プログラム「ART-Link」を利用することをお勧めします。「ART-Link」を使用することで、刺しゅうモチーフが正しく読み込まれ、刺しゅうできるようになります。「ART-Link」は、www.bernina.comから無料でダウンロードすることができます。

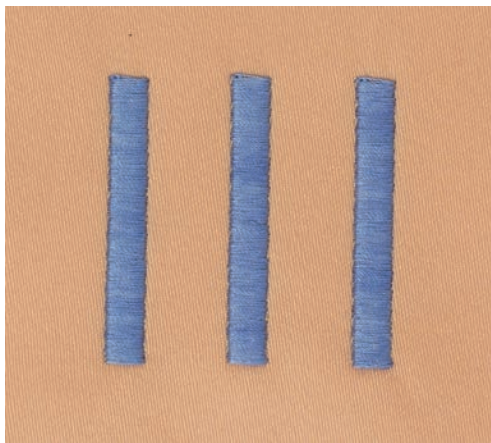
アンダーレイステッチ

アンダーレイステッチは刺しゅうモチーフの基礎となり、布地を安定させ、型くずれを防ぎます。また、ニットなどの生地にステッチが埋もれてしまうのを防ぎます。



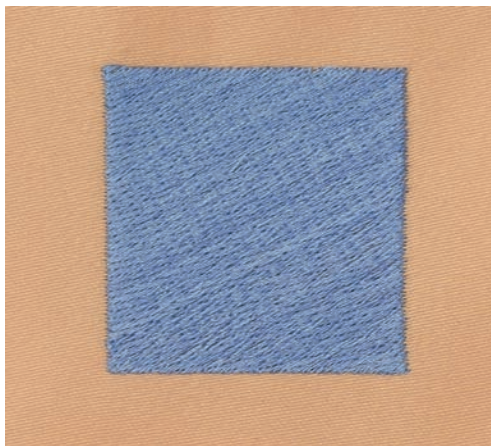
サテンステッチとリーフステッチ

サテンステッチでは、細かくジグザグ縫いをして、刺しゅうモチーフを縫います。サテンステッチは、小さなモチーフのスペースを埋める際に適しています。ステッチの幅を広くすると、糸が浮き、布地が隙間から見えてしまいます。また、浮いた糸が絡まったり、引っ張られたりして、刺しゅうモチーフが乱れてしまう恐れがあります。



たたみ縫い

特定の長さの短いステッチを繰り返し、広範囲に細かく、目の詰まった刺しゅうをすることができます。



13 刺しゅうの準備

13.1 刺しゅう機を取り付ける

注意

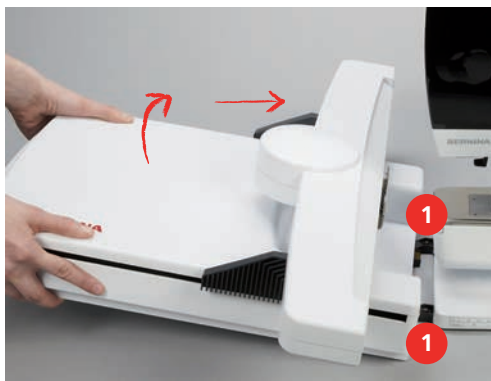
刺しゅう機の持ち運び

刺しゅう機とミシンの損傷を防ぐために。

> 持ち運びの際には、刺しゅう機はミシンから取り外してください。

前提条件：

- ・ ソーイングテーブルは取り付けないでおきます。
- > 刺しゅう機とミシンを安定した、平らなテーブルなどの作業台に置きます。
- > 刺しゅうアームが動くのに十分なスペースを確保します。
- > 刺しゅう機の左側を持ち上げます。
- > 刺しゅう機を左から右にゆっくりとスライドさせて、ミシンの接続部 (1) に取り付けます。



> 刺しゅう機を取り外す際には、刺しゅう機の左側を持ち上げて、ゆっくりとひっぱります。



13.2 ミシンの準備をする

送り歯を下げる

> «送り歯 上/下» ボタンを押します。



刺しゅうモチーフを選択する

全ての刺しゅうモチーフはそのまま刺しゅうするか、あるいは様々な機能を使って変更することができます。全ての刺しゅうモチーフは、刺しゅうモチーフ一覧で見ることができます。さらにユーザーメモリーやバルニナUSBメモリーに保存された刺しゅうモチーフも使用することができます。

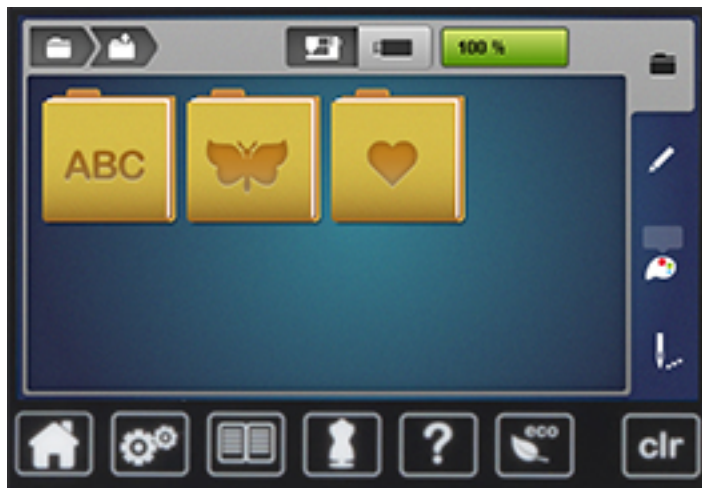


> «ホーム»をタップします。



> «刺しゅう»をタップします。

> アルファベット、刺しゅうモチーフ、または独自の刺しゅうモチーフをファイルから選択します。



13.3 刺しゅう押え

刺しゅう押えを取り付ける

- > 針を上げます。
- > 押え金を上げます。
- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > 取り付けレバーを上を押します。



- > 押え金を外します。
- > 刺しゅう押えを下から差し込みます。
- > 取り付けレバーを下に下げます。

刺しゅう押えをユーザーインターフェースで選択する

刺しゅう押え（刺しゅう押え#26、付属アクセサリ）を取り付けると、ユーザーインターフェースに選択肢ができ、ミシンに保存することができます。またその際は、選択した刺しゅうモチーフに対応可能な代替の押え金が表示されます。

- > ミシンの電源を入れます。
- > 刺しゅうモチーフを選択します。



- > «押え金表示／押え金選択»をタップします。
- > 取り付けた刺しゅう押えを選択します。



13.4 針と針板

刺しゅう針を取り付ける



刺しゅう針130/705 H-SUKは、大きな針穴と、軽く丸まった針先をしており、レーヨンや木綿糸の糸切れを防止します。刺しゅう糸によって、針の番手はNo.70-SUKからNo.90-SUKをお勧めします。

- > 針を上げます。
- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > 押え金を外します。
- > 針取り付けネジを灰色のトルクスドライバーで緩めます。



- > 針を下に引っ張ります。
- > 新しい針を平らな面を後ろ側にして持ちます。
- > 針を上までしっかりと差し込みます。
- > 針止めネジを灰色の特殊ドライバーで締めます。

刺しゅう針をユーザーインターフェースで選択する

針を交換した後、その針が選択した針板に適しているかどうかを確認します。

- > «針板／針選択»をタップします。



> 取り付けた針を選択します。



- 選択した針が針板に適している場合には、刺しゅうを始めることができます。
- 選択した針が針板に適していない場合には、ミシンが自動的に動かないようになります。

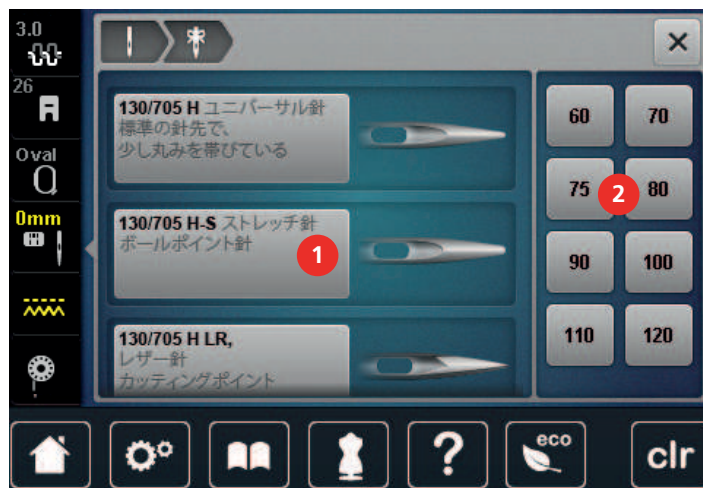
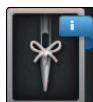
針のタイプと番手を選択する

実用的なメモリー機能：情報が失われないように、針の種類と針のサイズをミシンに保存することも可能です。これにより、保存された針の種類と針のサイズをいつでも確認することができます。

> «針板／針選択»をタップします。



> «針の情報»をタップします。



- > 装着する針の種類 (1) を選択してください。
- > 装着する針のサイズ (2) を選択してください。

針板を取り付ける

針板（カットワーク／ストレート（付属アクセサリー）には針の領域に小さな穴があります。この小さな穴を通ることで上糸と下糸のバランスが最適になり、ステッチの仕上がりを良くします。

- > «送り歯 上/下» ボタンを押して、送り歯を下げます。



- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > 針を取り外します。
- > 押え金を取り外します。
- > 針板の右上の印を押して、針板を浮かせます。



- > 針板を取り外します。
- > 針板の穴（カットワーク/直線縫い用針板）をそれぞれの突起部分に合わせ、しっかりとまるまで下に押し込みます。

針板をユーザーインターフェースで選択する

針板を交換した後、その針板が選択した針に適しているかどうかを確認します。

- > «針板/針選択»をタップします。
- > カットワーク/直線縫い用針板を選択します。



下糸を上を持ってくる

下糸を上を持ってこることができるようにするには、ミシンを刺しゅう用に準備する必要があります。下糸はワンステップで上を持ってこることができ、糸は手で結びます。留め縫いが必要ない場合には、セットアッププログラムから留め縫いプログラムをオフにします。



- > 上糸を押さえます。
- > «押え金 上/下» ボタンを押します。
 - 下糸が自動的に上に上がってきます。

13.5 刺しゅう枠

刺しゅう枠の表示について



- 1 刺しゅう枠選択

刺しゅう枠を選択する

刺しゅうモチーフに対してできる限り小さい刺しゅう枠を選択することで、モチーフがきれいに仕上がります。

刺しゅうモチーフに設定された大きさが表示されます。

前提条件：

- ・ 刺しゅうモチーフを選択します。



- > «刺しゅう枠表示/刺しゅう枠選択»をタップします。
 - ミシンが自動的に刺しゅうモチーフの大きさに合った刺しゅう枠を選択します。選択された刺しゅう枠が使用できない場合、その他の刺しゅう枠を選択することができます。取り付けられた刺しゅう枠が、ミシンにより選択された刺しゅう枠でない場合、取り付けられた刺しゅう枠が有効になり、刺しゅうモチーフの範囲がそれに合わせて変更されます。
- > 使用したい刺しゅう枠を選択します。

破り取る安定紙

安定紙を使用することによって、刺しゅうの仕上がりがよりしっかりとします。破り取る安定紙は伸縮性のない全ての織地に適しています。必要に応じて1~2枚の安定紙を使用します。安定紙には様々な強度のものがああります。広範囲の刺しゅうモチーフの場合、安定紙は刺しゅう後、取り除かないでおきます。安定紙はスプレーのりで布地の裏側に固定します。余分な安定紙はゆっくりと破り取ります。

切り取る安定紙

安定紙を使用することによって、刺しゅうの仕上がりがよりしっかりとします。切り取る安定紙は全ての伸縮性のある布地に適しています。必要に応じて1~2枚の安定紙を使用します。安定紙には様々な強度のものがああります。広範囲の刺しゅうモチーフの場合、安定紙は刺しゅう後、取り除かないでおきます。安定紙はスプレーのりで布地の裏側に固定します。余分な安定紙は切り取ります。

スプレーのりを使用する

スプレーのりの使用は、伸縮性のある布地や滑りやすい布地、ニット地に刺しゅうをする際にお勧めします。スプレーのりは布地がずれたり滑ったりするのを防ぎます。アップリケなどの細かいパーツの位置がしっかりと決まります。ミシンが汚れないように、スプレーのりはミシンの側では使用しないようにしてください。

- > スプレーのりは25 - 30 cm (9 - 12 inch)離れたところから安定紙にスプレーします。
- > 布地とスプレーのりをつけた安定紙を、しわがよらないようにくっつけます。
- > ズボンのポケットや襟などの小さなパーツを、安定紙に固定する際に。
- > パイル地やポーラーフリースなど、刺しゅう枠を使用すると枠の跡が残ってしまうような布地を使用する際には、布地を固定した安定紙を代わりに刺しゅう枠にセットします。
- > 刺しゅうをした部分を定着させます。
- > ミシンをスタートさせる前に、余分なのりを取り除きます。

スプレー洗濯のりを使用する

スプレー洗濯のりは、薄手の柔らかい布地や目の粗い布地に張りを与える際に使用します。布地の裏には更に安定紙を使用します。

- > 布地にスプレー洗濯のりをスプレーします。
- > 布地を良く乾かし、必要に応じてアイロンをかけます。

アイロン接着芯を使用する

アイロン接着芯には、様々な厚さのものがあります。布地から簡単にはがせる接着芯を使用することをお勧めします。アイロン接着芯は、トリコットやジャージーのような伸縮性のある、歪みやすい薄手の布地に適しています。

- > アイロンをかけて、接着芯を布地の裏側にくっつけます。

のり付き安定紙を使用する

のり付き安定紙は、ジャージーやシルクのような薄地や、刺しゅう枠にセットしにくい部分などに使用します。

- > 安定紙の台紙の部分が上に来るように、刺しゅう枠にセットします。
- > 台紙にはさみなどで切れ込みをいれ、はがします。
- > 布地を安定紙の上に置き、くっつけます。
- > ミシンをスタートさせる前に、余分なのりを取り除きます。

水溶性安定紙を使用する



レース刺しゅうでは、1 - 3枚の水溶性安定紙を刺しゅう枠に付けて刺しゅうします。レース刺しゅうは、土台の布がなく、刺しゅうモチーフのみが作品となります。そのため刺しゅうモチーフは全体がつなぎステッチで連結されていなければ出来上がりの際にモチーフがばらばらになってしまうので、注意が必要です。

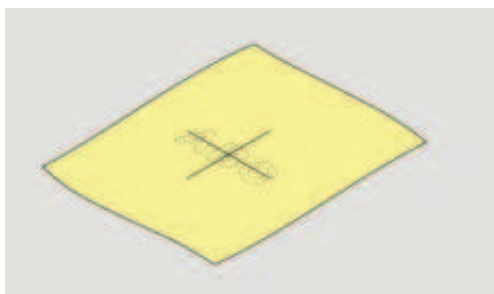
水溶性安定紙は、他の安定紙が透けて見えるような薄い布地およびレース刺しゅうに適しています。水溶性安定紙は刺しゅうをした後に水で洗い、取り除きます。パイル地のような布地の毛足を傷つけないためには、水溶性安定紙が特に適しています。また、糸が沈んで土台布が見えてしまうのを防ぐことができます。

- > 布地の裏側に安定紙を置きます。
- > 必要に応じてスプレーのりを使用します。
- > 花柄生地を表側を適切な安定紙で更に補強し、必要に応じてしつけで固定します。
- > 安定紙と布地を刺しゅう枠に張ります。
- > 刺しゅう後に刺しゅうモチーフを洗い流し、平らに広げて乾かします。

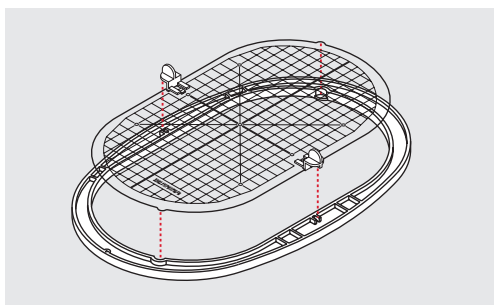
刺しゅう枠を準備する

刺しゅう枠には外枠と内枠があります。それぞれの刺しゅう枠に専用のテンプレートが付属しています。刺しゅう可能な範囲には、1 cm (0.39 inch)のグリッド線が描かれています。中央の線の中心と端には穴が開いています。布地の必要な部分に印をつけることができます。

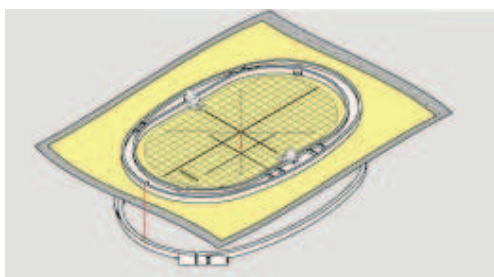
- > 刺しゅうモチーフの中央に水性ペンで印をつけます。



- > 外枠の取り付けネジを緩めます。
- > 内枠を取り外します。
- > 取り付けの際に、内枠と外枠の矢印が合うようにします。
- > テンプレートホルダーを取り付けます。
- > テンプレートを枠のBERNINAのロゴと矢印が合うように内枠にセットします。



- > 布地を内枠の下にセットします。
- > 刺しゅうモチーフの中心をテンプレートの中心に合わせます。
- > 内枠と外枠の矢印が合うように、布地と内枠を外枠の上に乗せます。

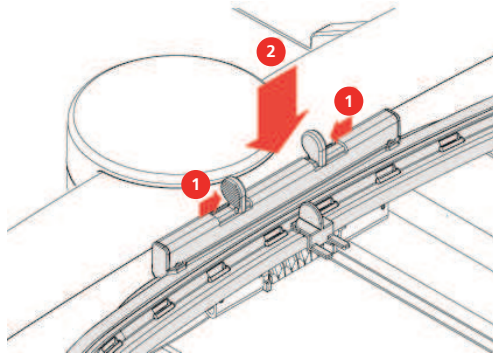


- > 布地がずれないように、二つの枠を重ねます。
- > 布地を刺しゅう枠に張ります。
- > ネジを締めます。
- > テンプレートをテンプレート用つまみを持って持ち上げ、刺しゅう枠からはずします。
- > 外枠に布地と内枠をセットする際、フリーアームを傷つけない為に、布地が1 mm程度下に出るようにセットします。

刺しゅう枠を取り付ける

- > 針を上げます。
- > 刺しゅう押えを上げます。
- > 選択した刺しゅう枠に張った布の表が上側に、取り付け金具が左側に来るようにして持ちます。
- > 刺しゅう枠を刺しゅう押えの下に入れます。
- > 刺しゅう枠取り付け金具のつまみ(1)を両側から挟んで押します。
- > 刺しゅう枠(2)を刺しゅうアームの取り付け金具にはめます。
- > 刺しゅう枠がはまるまで、下に押します。

> つまみ(1)を放します。



- > 刺しゅう枠取り付け金具のつまみを両側から挟んで押します。
- > 刺しゅう枠を取り外します。

刺しゅう機能について



- | | | | |
|---|------------------------|---|------------------------|
| 1 | 「針が中心になる位置に刺しゅう枠を移動する」 | 4 | 「グリッド線の表示／非表示」 |
| 2 | 「刺しゅう枠を後ろへ移動する」 | 5 | 「刺しゅうモチーフの中心」 |
| 3 | 「刺しゅう枠を左へ移動する」 | 6 | 「仮の位置決め」
(スクロールで表示) |

針が中心になる位置に刺しゅう枠を移動する

針が刺しゅう枠の近くにある際、刺しゅう枠が動くことで、上糸の糸通しがしやすくなります。

> 「刺しゅう枠表示／刺しゅう枠選択」をタップします。



> 「針が中心になる位置に刺しゅう枠を移動する」をタップします。



> 上糸をかけます。

> 「スタート／ストップ」ボタンを押すと、刺しゅう枠が元の位置に戻ります。



刺しゅう枠を後ろへ移動する

ボビンを簡単に交換するために、糸通しをする前に刺しゅう枠を後ろへ移動しておくことをお勧めします。刺しゅう枠を後ろへ移動しておくことで、釜カバーが開けやすくなります。



> «刺しゅう枠表示/刺しゅう枠選択»をタップします。



> «刺しゅう枠を後ろへ移動する»をタップします。

> 下糸をかけます。(参照ページ: 44)



> «スタート/ストップ» ボタンを押すと、刺しゅう枠が元の位置に戻ります。必要に応じて、上糸を引き戻します。

刺しゅう機を待機させる

刺しゅう機を接続したままでソーイングができるよう、刺しゅう機を待機させることができます。



> «刺しゅう枠表示/刺しゅう枠選択»をタップします。

> 刺しゅう枠を取り外します。



> «刺しゅう枠を左へ移動する»をタップします。



> «ホーム»をタップします。



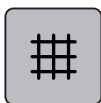
> «ソーイングモード»をタップします。

グリッド線の表示/非表示

刺しゅう枠の中心とグリッド線を表示することで、刺しゅうモチーフの位置決めを正確にすることができます。



> «刺しゅう枠表示/刺しゅう枠選択»をタップします。



> «グリッド線の表示/非表示» をタップすると、刺しゅう枠の中心がディスプレイに表示されます。

> «グリッド線の表示/非表示» をもう一度タップすると、グリッド線が表示されます。

> «グリッド線の表示/非表示» をもう一度タップすると、刺しゅう枠の中心とグリッド線が非表示になります。

刺しゅうモチーフの中心を選択する

刺しゅう枠は針が刺しゅうモチーフの中心またはモチーフの始まりに来る位置に移動することができます。



> «刺しゅう枠表示/刺しゅう枠選択»をタップします。



> «刺しゅうモチーフの中心» をタップして、針が刺しゅうモチーフの中心に来るように刺しゅう枠の位置を移動させます。

> «刺しゅうモチーフの中心» をもう一度タップして、針がモチーフの始まりに来るように刺しゅう枠の位置を移動させます。

刺しゅう枠の位置を仮に決める

刺しゅうモチーフの位置を新しく決める際に、刺しゅう枠は自動的に新しい位置へと移動します。刺しゅう枠を取り付けると、「仮の位置決め」フィールドが自動的にオンになり、黄色い枠で囲まれます。

前提条件：

- ・ 刺しゅう枠を取り付けます。



- > 「刺しゅう枠表示／刺しゅう枠選択」をタップします。



- > 「仮の位置決め」をタップすると、刺しゅうモチーフの位置を新しく決める際に刺しゅう枠が自動的に動く機能がオフになります。
 - 「仮の位置決め」は黄色い枠で囲まれていない状態になります。
- > 「仮の位置決め」をもう一度タップすると、刺しゅうモチーフの位置を新しく決める際に刺しゅう枠が自動的に動く機能がオンになります。

15 クリエイティブな刺しゅう

15.1 刺しゅうについて



- | | | | |
|---|---------------------|---|----------|
| 1 | 刺しゅう時間／刺しゅうモチーフの大きさ | 3 | 刺しゅう範囲 |
| 2 | 刺しゅうモチーフ表示の拡大・縮小／移動 | 4 | «iダイアログ» |

15.2 刺しゅうモチーフの選択と呼び出し



> «選択»をタップします。



- > «刺しゅうモチーフを読み込む»をタップします。
- > 新しい刺しゅうモチーフを選択します。

15.3 刺しゅう時間と刺しゅうモチーフの大きさを確認する

«編集»画面の右下(1)に、推定刺しゅう時間と刺しゅうモチーフの幅×長さがミリメートルまたはインチで表示されます。



15.4 ソーイングスピードを調節する

スピードコントローラーで、ソーイングスピードを自由に調節することができます。

- > スピードコントローラーを左にスライドさせると、スピードが遅くなります。
- > スピードコントローラーを右にスライドさせると、スピードが速くなります。

15.5 刺しゅうモチーフを編集する

刺しゅうモチーフの編集について



- | | | | |
|---|---------------------|----|------------------------|
| 1 | 「表示を縮小する」 | 8 | 「模様反転 左／右」 |
| 2 | 「表示を拡大する」 | 9 | 「模様反転 上／下」 |
| 3 | 「表示を移動する」 | 10 | 「コピー」 |
| 4 | 「表示を移動する」 | 11 | 「消去」 |
| 5 | 「ステッチパターンの移動」 | 12 | 「刺しゅうモチーフの大きさを調整する」 |
| 6 | 「刺しゅうモチーフを回転させる」 | 13 | 「ステッチのタイプ／刺しゅう密度を変更する」 |
| 7 | 「刺しゅうモチーフの大きさを変更する」 | | |

刺しゅうモチーフ表示の拡大

刺しゅうモチーフの表示は拡大することができます。表示の変更にかかわらず、表示は刺しゅうポジションに合わせるすることができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 「表示を拡大する」をタップすると、刺しゅうモチーフの表示を編集することができます。



- > 「表示を拡大する」を1～4回タップすることで、刺しゅうモチーフの表示が段階的に拡大されます。



- > 「表示を縮小する」を1～4回タップすると、編集モードに戻ります。

刺しゅうモチーフを縮小する

刺しゅうモチーフの表示は縮小することができます。表示の変更にかかわらず、表示は刺しゅうポジションに合わせるすることができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 「表示を拡大する」をタップすると、刺しゅうモチーフの表示を編集することができます。



- > 「表示を縮小する」を1～4回タップすることで、刺しゅうモチーフの表示が段階的に拡大されます。

刺しゅうモチーフの表示を移動する

刺しゅうモチーフの表示は移動することができます。表示の変更にかかわらず、表示は刺しゅうポジションに合わせて移動することができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «表示を移動する» をアクティブにするには、«表示を拡大する» をタップします。
 - «表示を移動する» がアクティブです（濃いグレー）。
- > 刺しゅうモチーフのビューを移動します。
 - 刺しゅうをする位置は変更されません。

- > «表示を縮小する» をタップすると、編集モードに戻ります。

拡大した刺しゅうモチーフ表示を移動する

刺しゅうモチーフの表示は移動することができます。表示の変更にかかわらず、表示は刺しゅうポジションに合わせて移動することができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «ステッチパターンの移動» フィールドを表示するには、«表示を拡大する» をタップします。

- > «刺しゅうモチーフを移動する» をタップします。
 - アイコンが灰色になります。
- > 刺しゅうモチーフのビューを移動します。
 - 刺しゅうをする位置が変更されます。

- > «表示を縮小する» アイコンをタップすると、編集モードに戻ります。

刺しゅうモチーフを移動する

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «iダイアログ» をタップします。

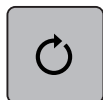
- > «刺しゅうモチーフを移動する» をタップします。
- > «多機能ボタン 上» を回すと、刺しゅうモチーフが横（平行方向）に1/10 mm単位で移動します。
- > «多機能ボタン 下» を回すと、刺しゅうモチーフが縦（垂直方向）に1/10 mm単位で移動します。
 - 移動した位置が黄色い枠で囲まれたアイコンに表示されます。



- > «刺しゅうモチーフの中心» をタップします。
 - 刺しゅうモチーフが再び刺しゅう枠の中心に移動します。

刺しゅうモチーフを回転させる

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > «刺しゅうモチーフを回転させる»をタップします。
- > «多機能ボタン 上»または«多機能ボタン 下»を右に回すと、刺しゅうモチーフは時計回りに回転します。
- > «多機能ボタン 上»または«多機能ボタン 下»を左に回すと、刺しゅうモチーフは反時計回りに回転します。



- > «刺しゅうモチーフを+90° 回転させる»をタップすると、刺しゅうモチーフは90° ずつ回転します。

刺しゅうモチーフの大きさを比例的に変更する



刺しゅうの質を保つために、大きさの変更は20%以内をお勧めします。

刺しゅうモチーフの大きさを20%以上変更する場合には、モチーフを刺しゅうソフトで設定しなおして、もう一度ミシンに読み込む必要があります。

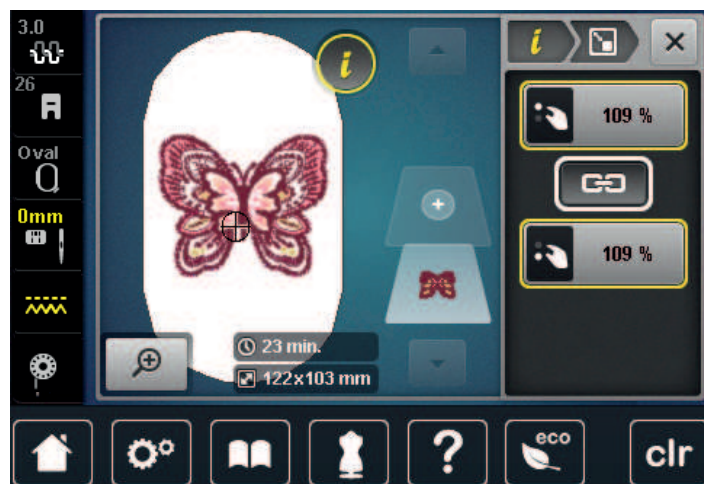
- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > «刺しゅうモチーフの大きさを変更する»をタップします。



- > «比率を維持» が白枠で囲まれていない場合に、「比率を維持」をタップします。
- «比率を維持» は白枠に囲まれています。



- > «多機能ボタン 上/下»を右に回すと、刺しゅうモチーフが拡大されます。
- > «多機能ボタン 上/下»を左に回すと、刺しゅうモチーフが縮小されます。

刺しゅうモチーフの大きさを変更する



刺しゅうの質を保つために、大きさの変更は20%以内をお勧めします。

刺しゅうモチーフの大きさを20%以上変更する場合には、モチーフを刺しゅうソフトで設定しなおして、もう一度ミシンに読み込む必要があります。

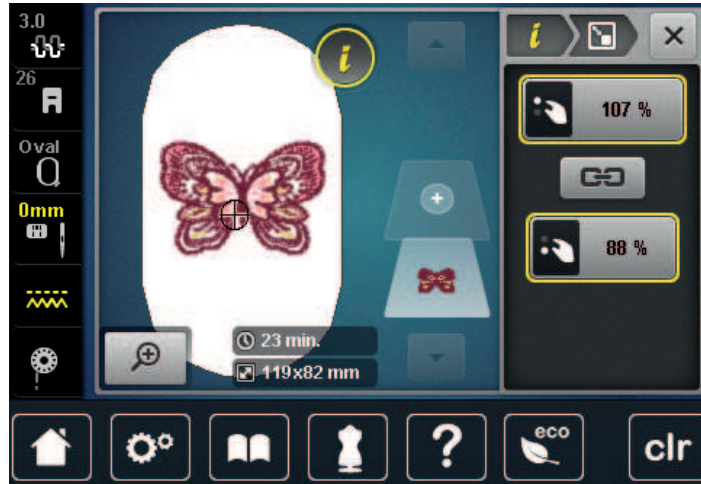
- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > «刺しゅうモチーフの大きさを変更する»をタップします。



- > «比率を維持» が白枠で囲まれている場合に、「比率を維持」をタップします。
- «比率を維持» は白枠に囲まれていません。



- > 刺しゅうモチーフの幅を広くするには、「多機能ボタン 上」を右に回します。
- > 刺しゅうモチーフの幅を狭くするには、「多機能ボタン 上」を左に回します。
- > 刺しゅうモチーフを長くするには、「多機能ボタン 下」を右に回します。
- > 刺しゅうモチーフを短くするには、「多機能ボタン 下」を左に回します。

刺しゅうモチーフを反転させる

刺しゅうモチーフは垂直／横方向、水平／縦方向どちらにも反転することができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > «模様反転 左／右» をタップすると、刺しゅうモチーフが水平方向に反転します。



- > «模様反転 上／下» をタップすると、刺しゅうモチーフが垂直方向に反転します。



ステッチの種類を変更する

サテンステッチが長すぎる場合には、たたみ縫いに変更することができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。





> «ステッチのタイプ/刺しゅう密度を変更する»をタップします。



- > 画面の上部のボタン (1) をタップすると、サテンステッチをたたみ縫いに変更することができます。
- > ステッチの長さ (2) を設定します。

ステッチの密度を変更する

サテンステッチの密度が高すぎる場合、調整をすることができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



> «ステッチのタイプ/刺しゅう密度を変更する»をタップします。



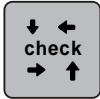
- > ステッチの密度 (1) を設定します。

刺しゅうモチーフの大きさや位置を確認する

刺しゅうモチーフが刺しゅうをする布地の位置に合うか、確認することができます。刺しゅう枠に入りきらない部分は刺しゅうをすることができません。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。





- > «刺しゅうモチーフの大きさを調整する»をタップします。
 - ディスプレイに表示された位置に針が来るように、刺しゅう枠が移動します。



- > 適切な矢印をタップして、希望する刺しゅうモチーフの角を選択します。
 - ディスプレイに表示された位置に針が来るように、刺しゅう枠が移動します。刺しゅうモチーフが正しい位置にない場合には、「多機能ボタン 上/下»を回して刺しゅうモチーフの位置を変更し、再び全体の位置の確認をします。



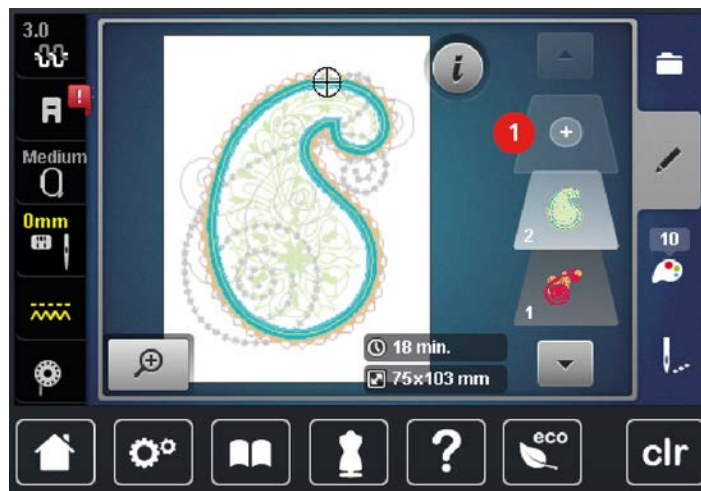
- > «刺しゅうモチーフの中心»をタップすると、針が刺しゅうモチーフの中心に移動します。
- > «多機能ボタン 上»を回すと、刺しゅうモチーフが水平方向に移動します。
- > «多機能ボタン 下»を回すと、刺しゅうモチーフが垂直方向に移動します。

15.6 刺しゅうモチーフのコンビネーション

刺しゅうモチーフのコンビネーション

コンビネーションモードでは、複数の刺しゅうモチーフのコンビネーションが作成できます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «刺しゅうモチーフの追加»をタップします。

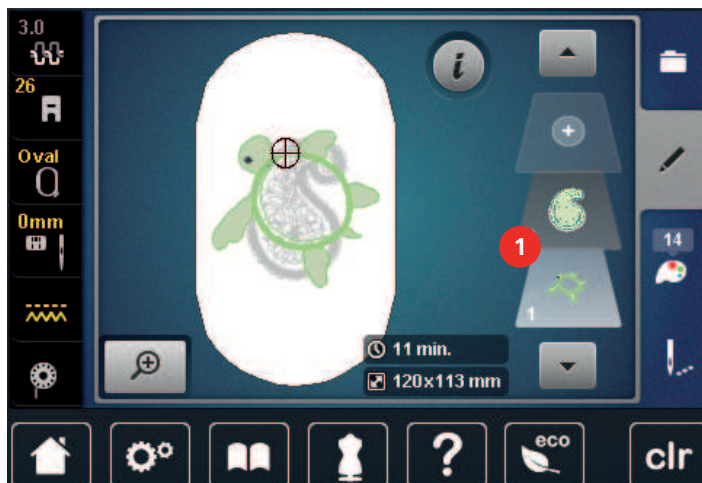


- > 次の刺しゅうモチーフを選択します。

刺しゅうモチーフを一つずつ消去する

前提条件：

- ・ 刺しゅうモチーフのコンビネーションが作成されます。
- > 刺しゅうモチーフレイヤー (1) から消去したい刺しゅうモチーフをタップして、外にドラッグします。
 - 新しいウィンドウが開きます。



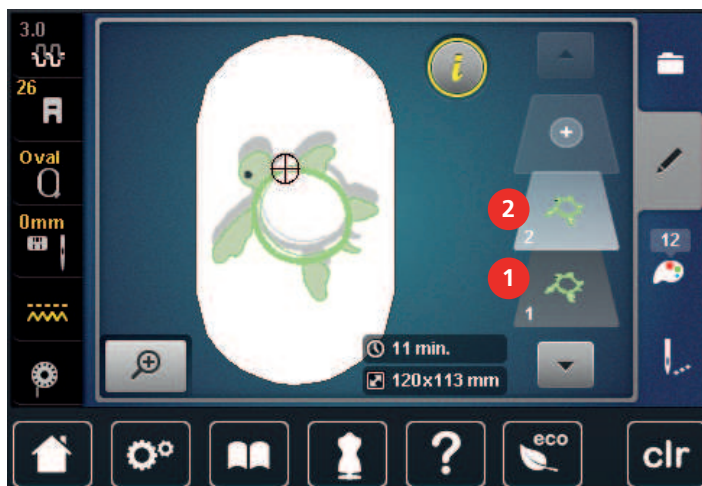
- ✓ > «決定» をタップすると、選択された刺しゅうモチーフが消去されます。

刺しゅうモチーフを複製する

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «iダイアログ» をタップします。



- > «コピー» をタップします。
 - 刺しゅうモチーフ (1) が複製 (2) されます。



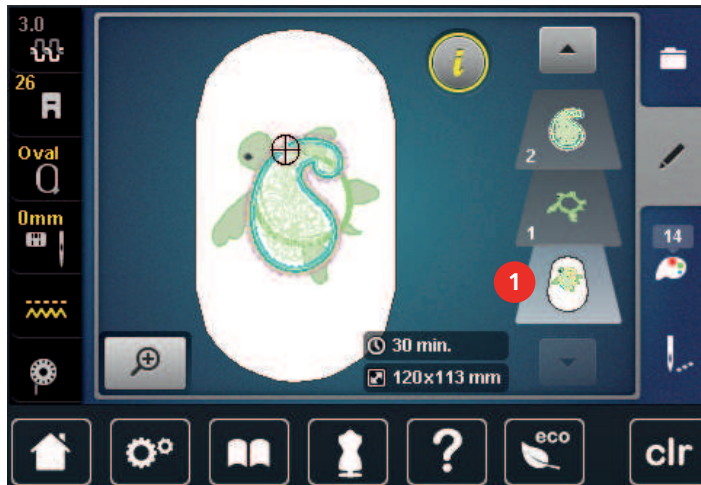
コンビネーションを複製する

コンビネーションを複製すると、個々の刺しゅうモチーフを選択することができなくなります。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。



- > «刺しゅうモチーフの追加»をタップします。
- > 次の刺しゅうモチーフを選択します。
- > コンビネーション (1) を選択します。



- > «iダイアログ»をタップします。



- > «コピー»をタップします。



- コンビネーションが複製 (2) されます。

15.7 文字列を作成する

刺しゅう文字一覧

刺しゅうモチーフ	名称
ABC	Swiss Block
ABC	Anniversary
ABC	Drifter
АБВ	Russian Textbook

文字／文を作成する



文字列は常に単色で刺しゅうされます。一文字ごとおよび一単語ごとに色を変える場合には、それぞれ別々に選択して、刺しゅうをする範囲に配置しなくてはなりません。

文字列の位置を、刺しゅう枠内で自由に決めることができます。刺しゅうモチーフが刺しゅう可能な範囲の外に位置している場合には、ディスプレイ上の刺しゅう枠が赤い枠で囲まれます。刺しゅう枠選択を使って、他の刺しゅう枠で刺しゅうしたいモチーフに合ったものがあるかどうかを確認することができます。ある文字列が刺しゅう枠に入りきらない場合は、単語を組み合わせたたり上下に重ねたりすることができます。以下に例をあげて説明します。



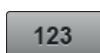
- > «アルファベット»を選択します。
- > 書体を選択します。
- > «Made to» テキストを入力します。



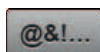
- > «大文字» をタップすると、大文字になります（標準設定）。



- > «小文字» をタップすると、小文字になります。



- > «数字および数学記号» をタップすると、数字や数学記号の入力ができます。



- > «特殊文字» をタップすると、特殊記号を入力できます。



- > «消去» をタップすると、入力したテキストの文字が一つずつ削除されます。



- > «決定» をタップして、文字列を決定します。

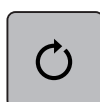


- > «刺しゅう枠表示／刺しゅう枠選択»をタップします。
- > 刺しゅう枠を選択します。
- > «刺しゅう枠表示／刺しゅう枠選択» をもう一度タップすると、編集モードに戻ります。

文字／文を編集する



- > «iダイアログ»をタップします。



- > «刺しゅうモチーフを回転させる»をタップします。

+90

- > テキストを90° 回転させるには、「刺しゅうモチーフを+90° 回転させる」をタップします。
- > «i» (1) をタップします。



- > «刺しゅうモチーフを移動する」をタップします。
- > «多機能ボタン 上」を回すと、刺しゅうモチーフが水平方向に移動します。
- > «多機能ボタン 下」を回すと、刺しゅうモチーフが垂直方向に移動します。

15.8 刺しゅうモチーフの色を変更する

色の変更について



- | | | | |
|---|--------------|---|---------------|
| 1 | 「色表示」 | 4 | 「色／メーカーを変更する」 |
| 2 | 選択された色のプレビュー | 5 | 「色情報」 |
| 3 | 「色メーカーの指定」 | | |

色の変更

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «色情報」をタップします。

14



- > 変更したい色の横の「色／メーカーを変更する」をタップすると、他の色が表示されます。
- > 色をもっと表示するには、ディスプレイ上で上下にスワイプします。

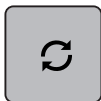


- > 色番号の入力によって色を選択するには、「番号による色選択」をタップします。
- > 目的の色の番号を入力します。
 - 色アイコンが左に表示されます。
- > 色の選択を確定するには、左に表示された色アイコンをタップします。

糸メーカーを変更する



- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 「色情報」をタップします。



- > 「色／メーカーを変更する」をタップします。
- > 他の糸メーカーを表示するには、左または右へスクロールします。



- > 「色メーカーの指定」をタップします。
 - 選択された刺しゅうモチーフの糸の色が、指定した糸メーカーに変更されます。

15.9 刺しゅうモチーフを刺しゅうする

刺しゅうメニュー一覧



- | | | | |
|---|--------------|---|----------------------------|
| 1 | 「しつけ縫い」 | 5 | 「複数色の刺しゅうモチーフ オン／オフ」 |
| 2 | 「刺しゅう枠の移動」 | 6 | 「色表示」 |
| 3 | 「刺しゅう工程の確認」 | 7 | 「ステッチ速度を上げる」
(スクロールで表示) |
| 4 | 「つなぎステッチを切る」 | | |

しつけ縫いステッチを追加する

刺しゅうモチーフに沿って、しつけ縫いをします。しつけ縫いをすることで、布地と安定紙がよりしっかりと固定されます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 「刺しゅう」をタップします。



- > 「しつけ縫い」をタップすると、刺しゅうモチーフに沿ってしつけ縫いができます。
- > しつけ縫いをオフにするには、「しつけ縫い」をもう一度タップします。

刺しゅう枠の移動

刺しゅうモチーフが大きくて、布地を刺しゅう枠に張り替えなければならない場合、刺しゅう枠を移動することができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «刺しゅう»をタップします。



- > «刺しゅう枠の移動»をタップします。
- > «多機能ボタン 上»を回すと、刺しゅう枠が水平方向に移動します。
- > «多機能ボタン 下»を回すと、刺しゅう枠が垂直方向に移動します。



- > 設定を決定するには、履歴ナビゲーションで«刺しゅう»をタップします。



糸切れの際に刺しゅうの工程を確認する

糸が切れた場合、刺しゅう工程確認の機能を使って、刺しゅうモチーフ内の針の位置を再度決めることができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «刺しゅう»をタップします。



- > «刺しゅう工程の確認»をタップします。
 - 画面の左側に刺しゅうモチーフの縮小図が表示されます。画面の右側に刺しゅうモチーフが拡大して表示されます。
- > 針を置きたい位置を縮小図上で選択します。
- > «多機能ボタン 上»を回すと、刺しゅう枠が少しずつ動きます。
- > «多機能ボタン 下»を回すと、刺しゅう枠が一度に大きく動きます。
 - 黄色い枠で囲まれたフィールド内の数字は、刺しゅう工程のステッチ数を示しています。
- > «番号による針の位置決め»をタップして、入力ごとにステッチを選択します。



つなぎステッチを切る

つなぎステッチを切る機能は標準設定でオンにされていて、つなぎステッチは自動的にカットされます。この機能をオフにした場合には、つなぎステッチは手で切る必要があります。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «刺しゅう»をタップします。



- > 黄色い枠で囲まれた«つなぎステッチを切る»をタップすると、機能がオフになります。
- > 黄色い枠で囲まれた«つなぎステッチを切る»をもう一度タップすると、機能がオンになります。



色換えの頻度を少なくする

刺しゅうモチーフが重複している場合に、色換えの頻度を少なくすることはできません。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «刺しゅう»をタップします。





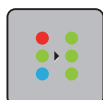
- > «色交換を少なくする»をタップします。
 - 刺しゅうモチーフ内の同じ色は一回にまとめられます。

複数色の刺しゅうモチーフ オン/オフ

複数色の刺しゅうモチーフは単色でも刺しゅうすることができます。



- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «刺しゅう»をタップします。



- > «複数色の刺しゅうモチーフ オン/オフ»をタップします。
 - 刺しゅうモチーフが単色で刺しゅうされます。

色表示

刺しゅうモチーフの色はひとつずつ選択することができます。刺しゅう枠はまず初めに、アクティブになっている色のステッチを刺しゅうするように動きます。それぞれアクティブになっている色は、ひとつずつまたは連続して刺しゅうすることができます。



- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «刺しゅう»をタップします。
- > 上下にスクロールして、刺しゅうモチーフの次の色と前の色を選択します。

15.10 刺しゅうモチーフの管理

刺しゅうモチーフの管理について



- 1 «刺しゅうモチーフを読み込む»
- 2 «刺しゅうモチーフの保存»
- 3 «刺しゅうモチーフを削除する»

刺しゅうモチーフをユーザーメモリーに保存する

«刺しゅうモチーフの保存»ストレージには、お気に入りの刺しゅうモチーフと編集した刺しゅうモチーフを保存することができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 刺しゅうモチーフを編集します。



> «選択»をタップします。



> «刺しゅうモチーフの保存»をタップします。
- 保存する刺しゅうモチーフが黄色い枠で囲まれます。



- «刺しゅう機»がアクティブです。



> «決定»をタップします。

刺しゅうモチーフをベルニナUSBメモリーに保存する

> 刺しゅうモチーフを選択します。
> 刺しゅうモチーフを編集します。
> «選択»をタップします。



> «刺しゅうモチーフの保存»をタップします。
- 保存する刺しゅうモチーフが黄色い枠で囲まれます。

> ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。



> «USBメモリー»をタップします。



> «決定»をタップします。

ユーザーメモリーの刺しゅうモチーフを上書きする

> 刺しゅうモチーフを選択します。
> 刺しゅうモチーフを編集します。
> «選択»をタップします。



> «刺しゅうモチーフの保存»をタップします。
- 保存する刺しゅうモチーフが黄色い枠で囲まれます。



- «刺しゅう機»がアクティブです。

> 上書きされる刺しゅうモチーフを選択します。



> «決定»をタップします。

ベルニナUSBメモリーの刺しゅうモチーフを上書きする

> 刺しゅうモチーフを選択します。
> 刺しゅうモチーフを編集します。
> «選択»をタップします。



> «刺しゅうモチーフの保存»をタップします。
- 保存する刺しゅうモチーフが黄色い枠で囲まれます。

> ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。



> «USBメモリー»をタップします。

> 上書きされる刺しゅうモチーフを選択します。



> «決定»をタップします。

ステッチパターンを取り込む

ステッチパターンまたはステッチパターンのコンビネーションを、ソーイングモードから刺しゅうモードにインポートすると、刺しゅうモチーフを編集することができます。この機能を使用することで、例えばボーダーパターンをすばやく簡単に作成でき、刺しゅうモチーフとして「マイデザイン」フォルダに保存できます。



> 「ホーム」をタップします。



> 「ソーイングモード」をタップします。

> ステッチパターンを選択します。



> 「ホーム」をタップします。



> 「刺しゅうモード」をタップします。

– ステッチパターンは自動的に「マイデザイン」フォルダに保存されます。



> 「マイデザイン」を選択します。

> 刺しゅうモチーフを選択します。



刺しゅうモチーフをユーザーメモリーから呼び出す



> 「選択」をタップします。



> 「刺しゅうモチーフを読み込む」をタップします。



> 「マイデザイン」を選択します。

> 刺しゅうモチーフを選択します。

刺しゅうモチーフをベルニナUSBメモリーから呼び出す



- > «選択»をタップします。
- > ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。



- > «USBメモリー»をタップします。
- > マイデザインを選択します。

ユーザーメモリーの刺しゅうモチーフを消去する

ユーザーメモリーに保存した刺しゅうモチーフは、ひとつずつ消去することができます。



- > «選択»をタップします。



- > «消去»をタップします。



- «刺しゅう機»がアクティブです。
- > 消去したい刺しゅうモチーフを選択します。



- > «決定»をタップします。

ベルニナUSBメモリーの刺しゅうモチーフを消去する



- > «選択»をタップします。



- > «消去»をタップします。
- > ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。



- > «USBメモリー»をタップします。
- > 消去したい刺しゅうモチーフを選択します。



- > «決定»をタップします。

16 刺しゅうをする

16.1 «スタート/ストップ»ボタンを使って刺しゅうをする

停電などの場合、刺しゅうプロセスが中断されます。ミシンを再度起動すると、刺しゅう機が自動的に最後に刺しゅうをした位置に動きます。



- > 刺しゅう機がスタートするまで«スタート/ストップ»を長押しします。
 - 現在選択されている色のすべての部分が刺しゅうされます。
 - 刺しゅう機は縫い終わると自動的に停止します。
 - 上下の糸が自動的にカットされます。
 - 刺しゅう機は自動的に次の色に移ります。



- > 上糸を次の色に交換します。
- > «スタート/ストップ»ボタンをタップして、新しい色を刺しゅうします。
 - 刺しゅうが完成したら、刺しゅう機は自動的に停止し、上下の糸は自動的にカットされます。

16.2 刺しゅうスピードを速くする

刺しゅうの仕上がりを最適にするためには、刺しゅうをする位置によって、刺しゅうスピードを遅くします。刺しゅうスピードは、最適速度と最高速度から選択することができます。標準設定は最適速度です。最高速度を選択した場合、刺しゅうモチーフの質が多少落ちることがありますので、ご注意ください。

ミシンの電源を入れ直すと、刺しゅうスピードは最適速度に設定されます。

前提条件：



- ・ 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «ステッチ速度»をタップします。
 - 刺しゅうスピードが最高速度に設定されます。
- > «ステッチ速度»をもう一度タップします。
 - 刺しゅうスピードが最適速度に設定されます。

16.3 上糸調子を設定する

上糸調子の標準設定はステッチパターンおよび刺しゅうモチーフによって自動的に設定されています。

その他のミシン糸または刺しゅう糸を使用する場合には、上糸調子に不具合が生じてしまうことがあります。これによって、縫うまたは刺しゅうするものと希望のステッチおよび刺しゅうモチーフに合わせ、上糸調子を個々に調整することが必要になります。

上糸調子を強めるほど上糸が張って、下糸を布地に強く引き付けます。上糸を弱めると、上糸の張りが弱くなり、下糸を布に引き付ける力が弱まります。

上糸調子の変更は、それぞれ選択したステッチパターンとすべての刺しゅうモチーフに影響します。ソーイングモード用(参照ページ: 47)と刺しゅうモード用(参照ページ: 50)の上糸調子を変更したままにするには、セットアッププログラムから設定することが可能です。



- > «上糸調子»をタップします。

- > 上糸調子を調節します。



- > 変更を基本設定に戻すには、右側の黄色い枠のフィールドをタップします。
- > 左側の黄色い枠で囲まれたフィールドをタップすると、セットアッププログラムで変更した内容が初期設定に戻ります。

16.4 フットコントローラーを使って刺しゅうをする

フットコントローラーを使った刺しゅうは、小さな部分を刺しゅうするときに便利です。フットコントローラーで刺しゅうをする場合には、常にフットコントローラーを踏んだ状態にしておきます。

- > フットコントローラーを踏み込んで、刺しゅうを始めます。

17 お手入れとメンテナンス

17.1 ファームウェア

ファームウェアのバージョンを確認する

ミシンおよび接続された刺しゅうモードのファームウェアとハードウェアのバージョンが表示されます。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



> «情報»をタップします。



> «ミシンデータ»をタップします。

ファームウェアを更新する

ミシンの最新ファームウェアと更新プロセスの順を追った詳しい手順は、www.bernina.com からダウンロードできます。基本的に更新の際、パーソナルデータと設定は自動的に引き継がれます。念のためファームウェア更新の前には、バックアップとしてデータをベルニナUSBメモリーに保存しておくことをお勧めします。更新の際に、万が一これらのデータが失われてしまった場合には、バックアップから再びデータを戻すことができます。

> 最新のファームウェアバージョンを搭載したUSBメモリーをマシンに差し込みます。

> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



> «メンテナンス/アップデート»をタップします。



> «ミシンのアップデート»をタップします。



> «データをバックアップする»をタップします。

– データが保存されると、緑色のチェックマークが短時間表示されます。

注意

ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）を取り外すのが早すぎるとファームウェアの更新がされずに、ミシンを使用できません。

> ベルニナUSBメモリーは、更新が完全に終了してから取り外してください。

Update

> ファームウェアの更新を開始するには、「アップデート」をタップします。

ヒント：この更新には数分かかる場合があります。更新中はミシンの電源は切らず、USBメモリーは外さないでください。

– ミシンは再起動します。更新が完了すると、通知が表示されます。

保存したデータを復元する

ユーザーデータや設定がソフトウェアのアップデートの際に失われてしまった場合に、再び復元させることができます。

- > データと設定を保存したベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。
- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «ミシンの設定»をタップします。



- > «メンテナンス/アップデート»をタップします。



- > «ミシンのアップデート»をタップします。



注意

ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）を取り外すのが早すぎると保存したデータが正しく読み込まれず、ミシンを使用できません。

- > ベルニナUSBメモリーは、保存したデータの読み込みが完全に終了してから取り外してください。



- > «データを読み込む»をタップします。
 - データが転送されると、緑色のチェックマークが短時間表示されます。

17.2 ミシン

ディスプレイを掃除する

- > ディスプレイは電源をオフにした状態で、柔らかく、軽く濡らしたマイクロファイバーの布で拭きます。

送り歯を掃除する

針板の下にたまった糸くずは、時々取り除くようにします。

- > 針と押え金を挙げます。

注意

電動部品の取り扱いについて

針と釜の部分でけがをするおそれがあります。

- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。

- > 針と押え金を取り外します。

- > 送り歯を下げます。



- > 針板を取り外します。

注意

ミシンの中にたまったゴミや糸くず
機械部品と電子部品の損傷。

- > 刷毛や柔らかい布を使用します。
- > 圧縮空気スプレーは使用しないでください。

- > 送り歯をブラシで掃除します。

釜を掃除する

注意

電動部品の取り扱いについて

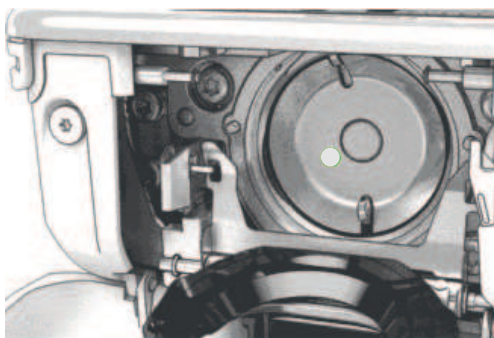
針と釜の部分でけがをするおそれがあります。

- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。

- > 釜カバーを開けます。
- > ボビンケースを取り出します。
- > 取り外しレバーを左に押します。



- > 黒の大釜カバーを開きます。
- > 釜をはずします。



注意

ミシンの中にたまったゴミや糸くず
機械部品と電子部品の損傷。

- > 刷毛や柔らかい布を使用します。
- > 圧縮空気スプレーは使用しないでください。

- > 刷毛と柔らかい布で釜のレーンの汚れをとります。その際、先の尖ったものなどは使用しないでください。
- > 中釜の中央のピンを指でつまみます。
- > 中釜の下側を大釜カバーの奥に、上から下へ斜めに差し込むように入れます。
- > 中釜を二つのカムがそれぞれの穴に合うようにし、色つきの印が見えるようにセットします。

- > 中釜を入れます。
 - 中釜は磁石になっているので、正しい位置に装着されます。
- > 大釜カバーを閉じて、留め金を閉じます。
- > はずみ車を回して確認します。
- > ボビンケースを取り付けます。

釜に注油をする

釜にオイルを塗ることで、釜部での不要なノイズの発生を防ぐことができます。ベルニナでは、次の頻度で注油を行うことを推奨しています：

- ・ 初めてミシンをご使用になる前に
- ・ 長い間使っていなかったとき
- ・ 集中して使用したとき：縫う前に毎日行いましょう
- ・ «マシンに注油してください» の表示が出たとき
- ・ 釜部から不要なノイズが発生したとき



注意

電動部品の取り扱いについて

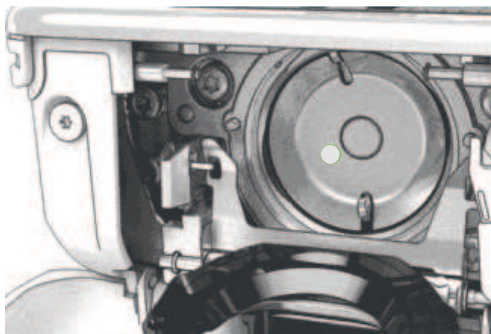
針と釜の部分でけがをするおそれがあります。

- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。

- > ボビンケースを取り出します。
- > 取り外しレバーを左に押します。



- > 黒の大釜カバーを開きます。
- > 釜をはずします。



- > 刷毛と柔らかい布で釜のレーンの汚れをとります。その際、先の尖ったものなどは使用しないでください。

- > ベルナナミシンオイルを釜の軌道内に1滴加えます。



- > フェルトが湿るように、ベルナナミシンオイルを二つの油溜に一滴ずつ注します。赤い印のついた釜軸にはオイルがつかないようにします。



- > 中釜の中央のピンを指でつまみます。
- > 中釜の下側を大釜カバーの奥に、上から下へ斜めに差し込むように入れます。
- > 中釜を二つのカムがそれぞれの穴に合うようにし、色つきの印が見えるようにセットします。
- > 中釜を入れます。
 - 中釜は磁石になっているので、正しい位置に装着されます。
- > 大釜カバーを閉じて、留め金を閉じます。
- > はずみ車を回して確認します。
- > ボビンケースを取り付けます。
- > 試し縫い用の布にソーイングまたは刺しゅうをします。

糸くず入れの掃除



- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «ミシンの設定»をタップします。



- > «メンテナンス/アップデート»をタップします。



- > «糸くず入れの掃除»をタップします。
- > ディスプレイの説明に沿って、糸くず入れの掃除をします。

18 エラーと故障

18.1 エラー表示

ディスプレイ表示	原因	解決方法
	ステッチ番号が認識されない。	> 番号を確認して入れ直します。
	コンビネーションモードではこのステッチパターンの選択ができない。	> 他のステッチパターンを使用します。
	送りが下がっていない。	> «送り歯 上/下» ボタンを押して、送り歯を下げます。
	選択した針と針板は併用できません。	> 針を交換します。 > 針板を交換します。
	針が一番上まで上がっていない。	> はずみ車で針を一番上まで動かします。
	上糸がなくなった。	> 糸を掛けなおします。
	上糸が切れた。	> 糸を掛けなおします。
	下糸がなくなった。	> 糸を掛けなおします。
	下糸が切れた。	> 釜を掃除します。 > 糸を掛けなおします。

ディスプレイ表示	原因	解決方法
	<p>モーターが動かない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > はずみ車をゆっくりと時計回りに回し、針を一番上まで動かします。 > 布地を外します。その際、素材と糸を引っ張らないでください。 > 針板を取り外します。 > 糸くずを取り除きます。 > 釜を掃除します。 > 釜をはずして、釜の裏側の磁石部分に折れた針などが付いていないか確認します。 > 糸押さえ装置をセットアッププログラムでオフにします。
	<p>布地が厚すぎる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > 布地の厚さを調節します。
	<p>振動などにより、ミシンと刺しゅう機の接続が中断された。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > ミシンと刺しゅう機が安定した平らな場所に置かれているか、確認します。 > 刺しゅう機をミシンに接続します。
	<p>針の位置が刺しゅう枠の中心からずれている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > 刺しゅう枠を調整します。
	<p>刺しゅう機が取り付けられていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > 刺しゅう機をミシンに接続します。 > ベルニナ正規販売代理店にミシンのチェックを依頼します。
	<p>刺しゅう枠が取り付けられていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > 刺しゅう枠を取り付けます。

ディスプレイ表示	原因	解決方法
	刺しゅう枠を取り付けます。	> 刺しゅう枠を取り外します。
	刺しゅう枠が動く。	> «決定»をタップします。
	刺しゅうモチーフの一部が刺しゅう枠からはみ出ている。	> 刺しゅうモチーフの位置を変えて、刺しゅうをし直します。
	刺しゅうモチーフが大きすぎる。	> 刺しゅうモチーフのサイズを小さくします。 > 大きな刺しゅう枠を取り付けます。
ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリー）に空き容量が不足しています。	ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリー）に十分な空き容量がありません。	> ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリー）を使用しているか確認します。 > ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリー）のデータを削除します。
ユーザーデータがベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリー）に見つかりません。	復元するユーザーデータはベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリー）にありません。	> データと設定がベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリー）に保存されているか確認します。
個人データの復元に失敗しました。	ファームウェアのアップデートは正常に終了しましたがユーザーデータの復元に失敗した。	> データと設定がベルニナUSBメモリーに保存されているか確認します。 > バックアップされたデータをミシンに転送します。
ベルニナUSBメモリーが接続されていません。自動アップデートの最中は常に同じベルニナUSBメモリーが接続されていることを確認してください。	ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリー）が接続されていない。	> 十分な容量のあるベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリー）を使用します。

ディスプレイ表示	原因	解決方法
<p>ファームウェアのアップデートに失敗した。</p>	<p>新しいファームウェアバージョンがUSBメモリーに見つかりません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > ファームウェアアップデート用の圧縮 (ZIP) ファイルが解凍されていることを確認します。 > アップデートのデータをUSBメモリーのファイルなどに解凍せず、直接その場に解凍したか、確認します。 > ファームウェアを更新します。
	<p>ミシンのクリーニング/注油が必要です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > ミシンを掃除します。 > ミシンに注油をします。 <p>注油についての注意事項：</p> <ul style="list-style-type: none"> > 注油の量が多すぎると、布地や糸を汚してしまう恐れがあります。 > 注油後はまず試し縫い用の布にソーイング/刺しゅうをします。
<p>糸くず入れの自動糸切りを掃除する必要があります。</p>	<p>糸くず入れを掃除する必要があります。このメッセージは、切断がサイクル1000回に達すると、ミシンに電源を入れるたびに表示されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > «決定»をタップします。 <ul style="list-style-type: none"> - 《糸くず入れの掃除》が起動されます。 > ディスプレイの説明に沿って、糸くず入れの掃除をします。 <ul style="list-style-type: none"> - 切断サイクルのカウンターはリセットされます。
<p>定期点検の時期になりました。お近くのベルニナ正規販売代理店にご相談ください。</p>	<p>ミシンの点検が必要です。前回の点検から一定の期間が経つと、お知らせの表示が出ます。</p> <p>重要な情報：ミシンを定期的に点検サービスに出していただくことで、大切なミシンを正常に機能させるだけでなく、長く、安全にお使いいただけます。この点検サービスを怠るとミシンの寿命を短くすることになりかねませんし、製品保証にも影響を及ぼしかねません。メンテナンス作業のための費用範囲は国内で規制されています。お近くのベルニナ正規販売代理店、またはサービスショップにご相談下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> > ベルニナ正規販売代理店に修理を依頼します。 > お知らせ表示は«ESC» アイコンを押すと、一時的に消えます。 <p>3回消去した後は、再び次の点検までの一定の期間が経つまで、お知らせは表示されません。</p>

トラブル	原因	解決方法
ステッチの目がそろわない	上糸テンションディスクに糸くずなどが挟まっている。	> テンションディスクに二つ折りにした薄い布地（布端は使用しない）を通し、糸くずなどを取ります。
	糸掛けが間違っている。	> 糸を掛けなおします。
	ポビンケースの糸調子バネの下に糸くずがついている。	> 糸くずを取り除きます。
上糸が切れる	針と糸の組み合わせが合っていない。	> 糸の番手に適切な針を選びます。
	上糸調子が強すぎる。	> 上糸調子を緩くします。
	糸掛けが間違っている。	> 糸を掛けなおします。
	糸の質が悪い。	> 品質の良い糸を使用します。
	針板の針穴周りまたは釜の剣先が傷ついている。	> ベルニナ正規販売代理店に修理を依頼します。 > 針板を交換します。
	糸が天秤に引っかかっている。 	> L型トルクスレンチで、天秤保護カバーのネジ(1)をはずします。 > カバーの下の部分をゆっくりと手前に引きます。 > カバーを外すには、カバーを軽く上向きに傾けます。 > 糸くずを取り除きます。 > カバーを戻してネジを締めます。
下糸が切れる	ポビンケースが傷ついている。	> ポビンケースを交換します。
	針板の針穴周りに傷がついている。	> ベルニナ正規販売代理店に修理を依頼します。 > 針板を交換します。
	針先が鈍い、または針が曲がっている。	> 針を交換します。
針が折れる	針が正しく取り付けられていない。	> 針の平らな部分を後ろ側にしてしっかり上まで差し込み、ネジを締めます。
	布地が引っ張られる。	> 布送りを均等にします。
	厚地の布地がずれる。	> ジーンズ押え #8 などの厚い布地に適合する押え金を使用します。 > 布地の厚くなった部分を縫う際に、高さ調節板を使用します。
	糸が絡まる。	> 品質の良い糸を使用します。
ディスプレイが反応しない	調整が間違っている。	> ディスプレイが調整されます。（参照ページ: 56）
	エコモードがオンになっている。	> «エコモード»をタップします。

19 収納と処分

19.1 ミシンを収納する

ミシンは元の梱包に収納することをお勧めします。ミシンを寒い場所で保管した場合、使用する1時間前に常温の部屋に置いておきます。

- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > ミシンは屋外で保管しないでください。
- > ミシンが気候の影響を受けないように保管してください。

19.2 ミシンを処分する

- > ミシンのクリーニングをします。
- > それぞれのパーツは材質ごとに分別して、お住まいの市町村のルールに従って処分してください。

20 機械仕様

名目	数値	単位
布地の最大厚さ	12,5 (0,49)	mm (in)
ソーイングライト	30	LED
最高速度	1000	ステッチ/分
サイズ（糸立て棒を除く、幅×奥行×高さ）	522 × 358 × 214 (20,55 × 14,09 × 8,43)	mm (in)
重量	14 (30,86)	kg (lb)
消費電力	140	ワット
電圧	100 – 240	ボルト
感電保護クラス	II	

幾何学模様ステッチ

601	602	603	605	607	608	609	610	612	613	615	616	620	621
624	625	626	627	630	631	633	635	636	637	639	643	644	645
646	649	650	652	653	654	656	657	660	662	663	677	684	685

白の刺繍

701	702	705	706	708	709	710	711	712	713	714	715	717	719
720	721	722	723	724	725	726	727	730	731	732	734	738	740
741	742	746	748	749	750	751	772	775	777	779			

ユーゲントステッチ

902	903	904	906	907	908	911	913	914	916	917	920	921	925
926	929	930	934	935	938	939	940	942	947				

キルトステッチ

1324	1325	1327	1328	1329	1330	1331	1332	1333	1334	1335	1336	1337	1338
1339	1340	1341	1342	1343	1344	1345	1346	1347	1348	1352	1353	1354	1355
1356	1357	1358	1359	1396									

21.2 刺しゅうモチーフ一覧

刺しゅうモチーフを編集する









創作力を解き放ちましょう。多彩な刺しゅうモチーフが搭載されています。





刺しゅうモチーフ番号の下に次のピクトグラムのひとつがある場合は、

<https://www.bernina.com/specialeffects> をご覧ください。




















	下地のないレース刺しゅう		カットワークデザイン (モチーフ)
	アイレット刺しゅう		ペイントワークデザイン (モチーフ)
	フリンジ刺しゅう		クリスタルワークデザイン (モチーフ)
	アップリケ		

キルトモチーフ

No.	刺しゅうモチーフ色	幅 x 長さ 単位：mm	No.	刺しゅうモチーフ色	幅 x 長さ 単位：mm
12380-22	 ■	110.6 60.9	12380-09	 ■	111.6 61.6
12380-08	 ■	89.2 89.1	12380-04	 ■	83.1 89.9
BD501	 ■	63.5 61.1	BD502	 ■	61.5 60.7
BD554	 ■	109.9 109.9	BD837	 ■	123.6 123.6









No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ 単位：mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ 単位：mm
BD562		63.9 126.0	BD563		89.7 89.6
BD568		109.5 160.3	BD669		67.1 215.4










飾りステッチ

No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ 単位：mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ 単位：mm
82007-11 	 	111.7 94.2	CM198 	 	96.1 106.0
FB033	 	99.3 99.6	FB106	 	128.1 92.6
FB323	 	64.6 80.7	FQ871	 	132.3 170.9
FB126	 	86.9 102.2	NA959 	 	75.6 103.7















No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ 単位：mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ 単位：mm
NB385		86.2 174.0	NB481		123.4 67.6
NB749		126.5 262.8	HE428		75.1 49.5









花

No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ 単位：mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ 単位：mm
FP814		88.0 84.4	FP246		65.6 61.8
BD182		58.3 83.1	FQ522		56.5 159.6
FQ527		90.3 141.4	FQ562		90.3 156.3
FQ722		80.0 90.6	FQ808		123.9 142.5





No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ 単位：mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ 単位：mm
HE700	 	103.1 162.8	WS641	 	72.6 151.4
82004-34 	 	198.8 281.3	21009-21	 	64.9 107.7












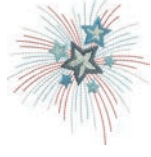

キッズ

No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ 単位：mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ 単位：mm
CM226 	 	63.3 63.1	CK738	 	89.1 85.7
BE790313 	 	102.3 98.9	CM348	 	119.0 167.1
CM376 	 	100.3 97.5	HE456	 	90.2 72.5


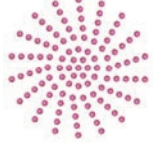










No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ 単位：mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ 単位：mm
FB436	 ■ ■ ■	132.8 29.2	FQ559	 ■	136.4 28.6
FQ741	 ■ ■ ■ ■ ■	26.4 71.1	FQ810	 ■ ■ ■ ■ ■	23.6 206.4
HG455	 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	137.0 258.6	NB520	 ■ ■	26.3 175.9
NB651	 ■ ■ ■	30.7 141.0	CM473	 ■ ■	31.8 209.6

季節

No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ 単位：mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ 単位：mm
12384-02	 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	132.9 203.4	12417-04	 ■ ■ ■ ■ ■	84.3 97.1
BE790303	 ■ ■ ■ ■ ■	69.5 70.1	CM426	 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	45.8 96.0

No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ 単位：mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ 単位：mm
FQ748	 	80.8 130.9	HE543	 	73.4 84.2
12433-05 	 	83.4 124.4	HG177	 	50.0 158.6
HG053	 	122.1 121.8	HG460	 	91.8 98.1

デザインワーク デザイン

No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ 単位：mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	幅 x 長さ 単位：mm
DW11 		70 × 71	BE790906 		192 × 195
BE790905 		104 × 227	BE790903 		181 × 292
BE790909 		167 × 322	DW05 		105 × 94

索引

記号

安全上の注意事項	9
押え金を交換する	35
押え金圧の調整	36
押え上げレバーで押え金の位置を変える	35
押え上げレバーを取り付ける	31
下糸センサーの設定	55
下糸をかける	44
釜に注油をする	159
釜を掃除する	158
環境保護について	12
機能のアクティブ化/非アクティブ化	25
記号の説明	13
言語を選択	55
刺しゅうデータのフォーマット	122
刺しゅうフレームの調整	51
刺しゅうモチーフについて	172
刺しゅうモチーフのコンビネーション	143
刺しゅうモチーフの選択	126
刺しゅうモチーフの大きさを比例的に変更する	140
刺しゅうモチーフの大きさを変更する	140
刺しゅう機について	118
刺しゅう機を取り付ける	125
刺しゅう機を待機させる	134
刺しゅう針を取り付ける	127
刺しゅう枠の位置を仮に決める	135
刺しゅう枠を後ろへ移動する	134
刺しゅう枠を取り付ける	132
糸こまネットを使用する	34
糸こま押えを取り付ける	33
試し縫い	122
試し縫いをする	103
実用縫い	76
上糸センサーの設定	54
上糸をかける	39
上糸調子の設定	47
飾りステッチ	91
色の変更	147
針、糸、生地	26
針と糸のバランス	28
針の概要	26
針の停止位置を上／下に設定する（常時）	38
針を交換する	36
針を上／下に配置	32
針板を交換する	38
針板を取り付ける	128
節電モード	61
送り歯を掃除する	157

代理店情報を入力	59
値の調整	25
電源コード	30
独自の設定を選択	54
二本針に糸を通す	42
標準設定に戻す	57
布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aのキャリブレーション	58
留め縫いの設定	47

F

ファームウェア	
ナビゲーション	24
機能のアクティブ化/非アクティブ化	25
値の調整	25
接続する	
接続する	30

N

電源コード	
アメリカ/カナダ	30

あ

アルファベット	97
---------	----

え

エコモードを使用	61
エラー表示	161

お

お手入れとクリーニング	157
-------------	-----

き

キルティング	111
--------	-----

こ

コンビネーションモード	67, 143
-------------	---------

さ

サービスデータを保存する	60
サウンドの設定	55

す

ステッチの密度を変更する	142
ステッチパターンのコンビネーションを保存する	67
ステッチパターンを選択する	62
スライドテーブル	34



BERNINA recommends threads from *Mettler*[®]

BERNINA International AG | CH-8266 Steckborn Switzerland | www.bernina.com | © Copyright by BERNINA International AG

0360455.20A.10
2021-06 JA

made to create **BERNINA**